

SAS[®] BI Dashboard 4.31 User's Guide



The correct bibliographic citation for this manual is as follows: SAS Institute Inc. 2011. *SAS® BI Dashboard 4.31: User's Guide*. Cary, NC : SAS Institute Inc.

SAS® BI Dashboard 4.31: User's Guide

Copyright © 2011, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

For a hardcopy book: No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

For a Web download or e-book: Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

The scanning, uploading, and distribution of this book via the Internet or any other means without the permission of the publisher is illegal and punishable by law. Please purchase only authorized electronic editions and do not participate in or encourage electronic piracy of copyrighted materials. Your support of others' rights is appreciated.

U.S. Government Restricted Rights Notice: Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227–19 Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

Electronic book 1, 2011 年 7 月

SAS® Publishing provides a complete selection of books and electronic products to help customers use SAS software to its fullest potential. For more information about our e-books, e-learning products, CDs, and hard-copy books, visit the SAS Publishing Web site at support.sas.com/publishing or call 1-800-727-3228.

SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are registered trademarks or trademarks of their respective companies.

目次

SAS BI Dashboard 4.3 の新機能 vii

1 部 SAS BI Dashboard の紹介 1

1 章・SAS BI Dashboard について	3
SAS BI Dashboard について.....	3
SAS BI Dashboard ユーザー.....	3
SAS BI Dashboard 使用の利点.....	4
SAS BI Dashboard 機能.....	5
SAS BI Dashboard のヘルプとドキュメントのアクセス.....	7
Web ブラウザのサポート.....	8
Adobe Flash の要件.....	8
ユーザー補助機能.....	8

2 章・ダッシュボードの機能と使用方法	11
ダッシュボードの使用について.....	11
ダッシュボードのデザインについて.....	11

2 部 ダッシュボードの表示 13

3 章・SAS BI Dashboard ビューア	15
SAS BI Dashboard のビューアサポート.....	15
ビューア機能の比較.....	15

4 章・ダッシュボードビューア	17
概要.....	18
SAS BI Dashboard ビューアのアクセス.....	18
SAS BI Dashboard ビューアインターフェイス.....	18
ダッシュボードまたはインジケータを開く.....	21
デフォルトのダッシュボード表示設定のクリア.....	22
複数のダッシュボードまたはインジケータ間の移動.....	22
ビューアコンテンツの手動更新.....	23
自動リフレッシュの間隔の設定.....	23
インジケータのズームイン.....	23
ダッシュボードまたはインジケータの印刷.....	24
個人用インジケータアラートの設定.....	24
コメントの作成と返信.....	29
お気に入りの操作.....	31
ダッシュボードデザインの管理.....	32

5 章・ダッシュボードポートレット	33
SAS BI Dashboard ポートレットの設定.....	33
SAS BI Dashboard ポートレットインターフェイス.....	38
SAS BI Dashboard ポートレットの操作.....	39

3部 ダッシュボードのデザイン 43

6章・SAS BI Dashboard デザイン	45
ダッシュボードデザイナーのアクセス	45
SAS BI Dashboard デザイナインターフェイス	46
7章・ダッシュボードのデザイン	51
概要	51
ダッシュボードとそのコンポーネント	51
フォルダ編成とコンポーネントファイル名	52
ダッシュボードのデザイン前に実行するステップ	53
ダッシュボードのデザイン	53
8章・インジケータデータの定義	55
概要	55
データフローとダッシュボード	56
インジケータデータの定義のガイドライン	56
インジケータデータに使用する Stored Process の作成	59
インジケータデータの作成	59
インジケータデータの編集	65
データ列の表示属性	65
9章・範囲の定義	67
概要	67
範囲をサポートするインジケータの種類	67
範囲の作成	69
範囲の編集	71
10章・インジケータの操作	73
概要	73
インジケータの作成	74
インジケータのプロパティの設定	75
KPI インジケータのカスタマイズ	78
例: スパークテーブルの作成	81
例: Stored Process を使用するカスタムグラフの作成	86
インジケータの保存	88
インジケータの編集	89
11章・ダッシュボードコンテンツのレイアウト	91
概要	92
考慮事項	92
ダッシュボードの作成	93
ダッシュボードワークスペースの操作	94
ダッシュボードプロパティの設定	96
ダッシュボードのインジケータとその他のオブジェクトのプロパティの設定	97
静的なコンテンツの追加による、他の情報へのリンク	99
テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト	100
既存ダッシュボードの編集	101
新しい名前によるダッシュボードの保存	102
12章・ダッシュボードへの相互作用機能の追加	103
概要	103
インジケータ間の相互作用の追加	104
インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加	111
インジケータまたは静的なコンテンツのズームの有効化	115
対話型スライダを含むインジケータの追加	116

13 章・アラートのカスタマイズ	119
概要.....	119
アラートについて.....	119
別のユーザーまたはユーザーグループのアラートの操作.....	121
個人用インジケータアラートの許可.....	125
14 章・ダッシュボードのテスト	127
概要.....	127
ダッシュボードのプレビューを使用したダッシュボードのテスト.....	127
SAS BI Dashboard ビューアを使用したダッシュボードのテスト.....	128
SAS BI Dashboard ポートレットを使用したダッシュボードのテスト.....	128

4 部 付録 129

付録 1・インジケータディクショナリ	131
このディクショナリの使い方.....	132
インジケータの種類: カテゴリ別.....	132
棒グラフ(ビュレット).....	138
参照線付き棒グラフ.....	141
バブルプロット.....	145
スライダ表示のチャート.....	148
集合棒グラフ.....	151
カスタムグラフ.....	154
折れ線グラフ(2 本線).....	158
ダイナミックプロンプト.....	162
ダイナミックテキスト.....	165
予測グラフ.....	167
対話型要約と棒グラフ.....	170
対話型要約と散布図.....	175
対話型要約とターゲット棒グラフ.....	182
KPI (Key Performance Indicator).....	187
参照線付き折れ線グラフ.....	193
ニードルプロット.....	196
円グラフ.....	199
Range Map.....	202
散布ヒストグラム.....	205
散布図.....	208
スケジュールチャート.....	212
棒グラフ.....	215
スパークテーブル.....	218
積み上げ棒グラフ.....	223
ターゲット棒グラフ.....	226
タイルチャート.....	229
ベクトルプロット.....	232
ウォーターフォールチャート.....	236
付録 2・データを集計するインジケータの種類	241
付録 3・Information Map の有効な日付出力形式	243
用語集.....	245
キーワード.....	249

SAS BI Dashboard 4.3 の新機能

概要

SAS BI Dashboard 4.3 には、次の拡張機能と新機能が組み込まれています。

- ダッシュボードデザイナー向けの機能
- ビジネスユーザー向けの機能

ダッシュボードデザイナー向けの機能

- ドラッグアンドドロップを使用して対話形式でダッシュボードを作成し、ダッシュボードにインジケータを追加します。
- ファイルは、ツリーフォルダ構造で保存されます。
- 既存のダッシュボードとオブジェクトを検索し、オブジェクトの種類を基準にして検索をフィルタリングできます。
- ダッシュボードの各インジケータとダッシュボード自体をより簡単にカスタマイズ、サイズ変更できます。
- インジケータ間でイベントを介して相互作用するインジケータを設定できます。
- ダッシュボードデザイナーワークスペースの個々のタブで、複数のダッシュボードを開いて、表示できます。
- インジケータとダッシュボードの作成時に画面領域を最適化できます。
- ダッシュボードをデザインする際、さまざまな種類のインジケータをプレビューして、使用するデータに最適なインジケータを簡単に決定できます。
- ダッシュボードのフォント、フォントの色、フォントサイズをカスタマイズできます。

ビジネスユーザー向けの機能

- SAS Information Delivery Portal ではなく、別ウィンドウ(ダッシュボードビューア)で SAS BI Dashboard を実行できます。ダッシュボードビューアでは、SAS Information Delivery Portal に表示される場合より多くの機能を使用できます。

- ダッシュボードでズームインして詳細を表示できます。
- ダッシュボードでインジケータのコメントを作成できます。
- 個人用のお気に入りを作成、管理できます。
- ウォーターフォールチャート、ベクトルプロット、スパーク線を含むテーブルを表示できるスパークテーブルなど、インジケータの種類が追加されました。
- インジケータ内のデータをブラシ(対話型ハイライト)できます。また、インジケータ間の相互作用が可能です。

1 部

SAS BI Dashboard の紹介

1 章	
	SAS BI Dashboard について..... 3
2 章	
	ダッシュボードの機能と使用方法..... 11

1 章

SAS BI Dashboard について

SAS BI Dashboard について	3
SAS BI Dashboard ユーザー	3
SAS BI Dashboard 使用の利点	4
ダッシュボードデザイナー向けの利点	4
ビジネスユーザー向けの利点	4
SAS BI Dashboard 機能	5
SAS BI Dashboard デザイナ	5
SAS BI Dashboard ビューア	6
SAS BI Dashboard ポートレット	6
SAS BI Dashboard のヘルプとドキュメントのアクセス	7
Web ブラウザのサポート	8
Adobe Flash の要件	8
ユーザー補助機能	8
概要	8
キーボード操作	8
Adobe Flex と Adobe Flash Player のユーザー補助の制限	9
問題と回避方法	9

SAS BI Dashboard について

SAS BI Dashboard では、ダッシュボードを使用して、組織の実行状態を示す KPI を監視できます。ダッシュボードには、グラフ、テキスト、色、ハイパーリンクを含めることができます。ダッシュボードは、操作の簡単な Web ベースインターフェイスを使用して、作成、管理、表示されます。すべてのコンテンツは、セキュアでカスタマイズと拡張が可能な役割ベース環境に表示されます。

SAS BI Dashboard ユーザー

SAS BI Dashboard は、次のユーザー向けのものです。

- SAS BI Dashboard のテクニカルユーザーであるダッシュボードデザイナー
- BI Dashboard でデザイナーが作成したビューを使用するビジネスユーザー。

注: SAS BI Dashboard には、本製品を設定し、管理する管理者も必要です *SAS BI Dashboard System Administration Guide* を参照してください。

SAS BI Dashboard 使用の利点

ダッシュボードデザイナー向けの利点

SAS BI Dashboard のダッシュボードデザイナーは、次の利点を活用できます。

- ダッシュボードを簡単にデザイン、作成できます。ドラッグアンドドロップ機能を使用して、迅速にデザイン、作成ができます。
- ダッシュボードを簡単にカスタマイズできます。ダッシュボードデザイナーを使用して、次の機能を簡単にカスタマイズできます。
 - 相互作用
 - アラート
 - ズーム
 - リンク
- ダッシュボードでは、次のさまざまなデータソースを使用できます。
 - SAS Information Map
 - SAS Stored Process
 - SQL クエリ
 - テーブル
- インジケータを簡単に配置、サイズ変更できます。
- ビジネスユーザーがより簡単にデータを視覚化して解釈できるようにダッシュボードをデザインできます。

ビジネスユーザー向けの利点

SAS BI Dashboard のビジネスユーザーは、次の利点を活用できます。

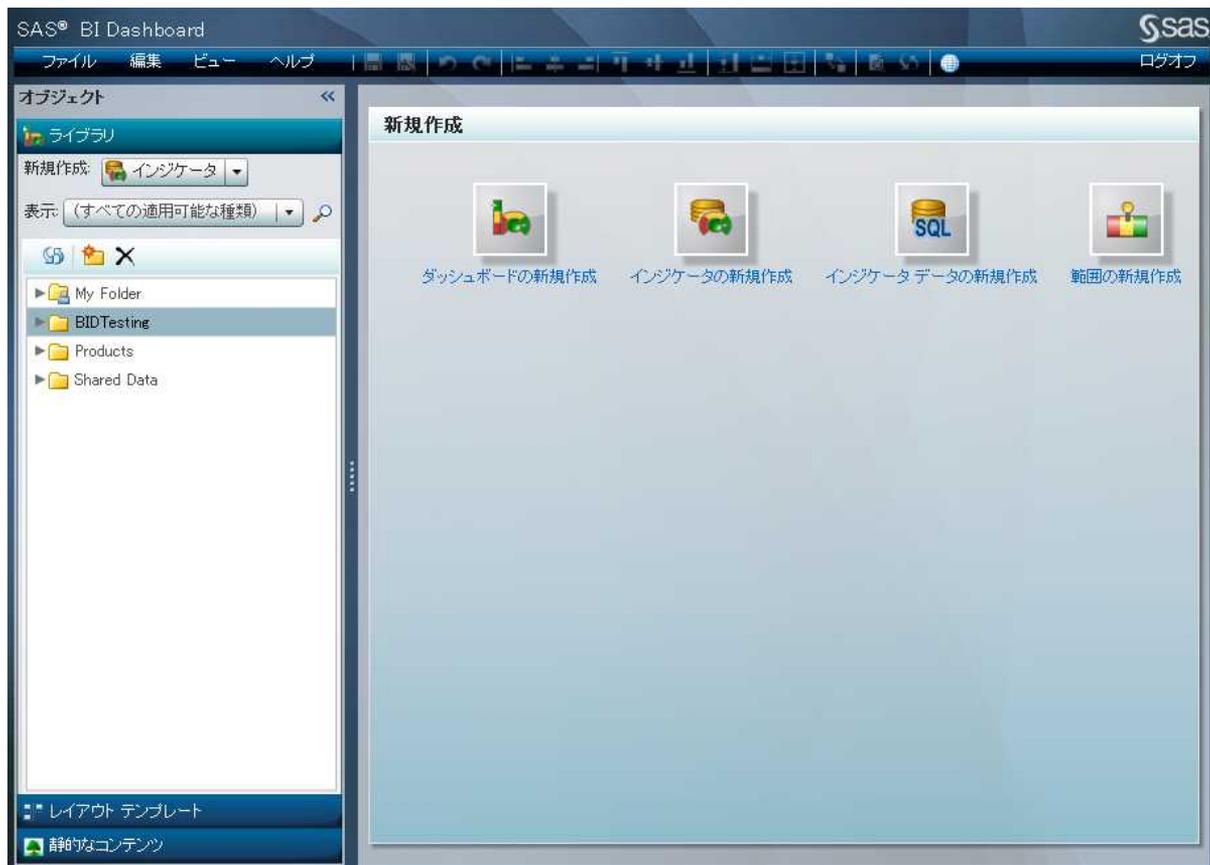
- 協力と情報の共有が容易です。インジケータのコメント機能を使用して、迅速に伝達できます。
- アラート機能により、ビジネスユーザーは重要業績領域を監視し、フォローアップが必要な状況が先を見越して通知されるように簡単にできます。
- お気に入り機能を使用して、よく表示するインジケータとダッシュボードを簡単に取得できます。
- ズーム機能を使用して、詳細を表示できます。ズームによりインジケータが拡大され、画面スペースが最大化されます。
- インジケータやダッシュボードを再作成せずにいろいろな方法でデータを表示できます。相互作用機能とプロンプト機能によりサポートされます。
- 最小のクリック数でタスクを完了できます。ダッシュボードのプロンプト選択では、追加情報が提供されるようになったため、ユーザーインターフェイスでクリックする項目を実際にクリックする前に決定できます。この情報には、選択ごとに表示される KPI ゲージと範囲の色が含まれます。

SAS BI Dashboard 機能

SAS BI Dashboard デザイナ

バージョン 4.3 以降の SAS BI Dashboard デザイナには、新しい対話型の直観的なインターフェイスが実装されました。デザイン中のダッシュボードにオブジェクトをドラッグアンドドロップできるようになりました。マウスを使用してインジケータのサイズ変更も行えるようになりました。ダッシュボードコンテンツを正確にレイアウトするための新しい機能も用意されました。デザイナーは、ダッシュボードのデザイン中に、そのダッシュボードのリアルタイムな WYSIWYG のビューを提供するようになりました。ダッシュボードデザイナーには、ダッシュボードに使用される多様な種類のインジケータや、インジケータの表示を強化する新しいグラフィックスタイルも用意されました。

図 1.1 SAS BI Dashboard デザイナ



デザイナーは、ダッシュボードデザイナーを使用して、1 つ以上のインジケータを含むダッシュボードを作成、デザインできます。ダッシュボードのデザインの詳細については、“パート 3. ダッシュボードのデザイン”を参照してください。

SAS BI Dashboard ビューア

ダッシュボードを作成することで、デザイナーはビジネスユーザーにデータを提供します。ビジネスユーザーは、これらのダッシュボードを SAS BI Dashboard ビューアに表示できます。

バージョン 4.3 以降の SAS BI Dashboard ビューアには、お気に入りのダッシュボードとインジケータにブックマークを作成する機能、ダッシュボードのインジケータに関するコメントを他のビジネスユーザーと共有する機能、個人用アラートを作成する機能、高度な対話形式でデータを表示する機能が新たに追加されました。

ダッシュボードデザイナーと新しいダッシュボードビューアとの間の移動は簡単に行えます。デザイナーは新しいダッシュボードを作成し、それをダッシュボードビューアに簡単に表示でき、またすぐにダッシュボードデザイナーに戻ることができます。または、デザイナーはプレビュー機能を使用することで、ダッシュボードデザイナーから移動せずに、ダッシュボードとその大部分の機能を表示できます。

図 1.2 SAS BI Dashboard ビューア



ダッシュボードの表示の詳細については、“パート 2. ダッシュボードの表示”を参照してください。

SAS BI Dashboard ポートレット

SAS BI Dashboard では引き続き、SAS Information Delivery Portal にダッシュボードを表示するためのポートレットを提供しています。

図 1.3 SAS BI Dashboard ポートレット



ダッシュボードの表示の詳細については、“パート 2. ダッシュボードの表示”を参照してください。

SAS BI Dashboard のヘルプとドキュメントのアクセス

SAS BI Dashboard には、次の種類のドキュメントが提供されます。

SAS BI Dashboard: ユーザーガイド

このドキュメントは PDF ファイルで提供され、SAS BI Dashboard の使用に関連する概念とタスクについての詳細情報が記載されています。このドキュメントにアクセスするには、SAS BI Dashboard Documentation Web ページ(<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/bidashboard/index.html>)に移動します。

組み込みヘルプ

ヘルプポップアップとツールチップには、さまざまなタスクとフィールドの簡単な説明が示され、SAS BI Dashboard の効率的な使用に役立ちます。

製品機能の詳細を参照するためにヘルプポップアップにアクセスするには、ユーザーインターフェイスのフィールドまたは領域の隣に表示される  をクリックします。ユーザーインターフェイス要素の上にマウスポインタを置いて、関連付けられたツールチップを表示して、詳細を確認することもできます。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューでは、製品に関する情報と、SAS BI Dashboard 製品 Web ページへのリンクが提供されます。このページでは、製品ドキュメントとその他のサポート情報が提供されます。また、このメニューには、SAS カスタマサポートと SAS ホームページへのリンクも含まれます。

SAS カスタマサポートサイトの <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/bidashboard/index.html> で SAS BI Dashboard の情報を検索することもできます。製品ページには、SAS BI Dashboard の現在のバージョンのドキュメントがあります。

Web ブラウザのサポート

SAS BI Dashboard は、次の Web ブラウザでサポートされます。

- Microsoft Internet Explorer (バージョン 7、8、9)
- Mozilla Firefox (バージョン 3、4)

Adobe Flash の要件

SAS BI Dashboard は、Adobe Flash プラグイン(バージョン 10.0 以降)が Web ブラウザにインストールされている必要があります。

ユーザー補助機能

概要

SAS BI Dashboard には、障害のあるユーザーの操作性を向上するための、次のようなユーザー補助機能や互換性機能があります。これらの機能は、リハビリテーション法第 508 条(1973 年制定)の改訂時に米国政府が採用した電子技術のユーザー補助標準に関連しています。

SAS 製品のユーザー補助機能についてのご質問やご意見は、accessibility@sas.com まで電子メールでお寄せください。

キーボード操作

SAS BI Dashboard は、Windows プラットフォームのユーザー補助標準に準拠し、Windows アプリケーションと同一のキーボードショートカットを採用しています。Windows ユーザー補助機能に固有の情報については、オペレーティングシステムのヘルプを参照してください。

SAS BI Dashboard では、Web ブラウザとして Microsoft Internet Explorer をサポートしています。Internet Explorer のユーザー補助機能については、Internet Explorer のヘルプの索引からユーザー補助機能に関するトピックを見つけて参照してください。

Adobe Flex と Adobe Flash Player のユーザー補助の制限

SAS BI Dashboard は、Adobe Flash Player で表示できるように Adobe Flex 3 で構築されています。[Adobe Bug and Issue Management System](#) では、Flash Player の Flex ベースアプリケーションと Freedom Scientific JAWS スクリーンリーダーなどの支援技術の間の相互運用性が損なわれる既知の問題が説明されています。Adobe から相互運用性を向上する JAWS スクリプトが提供されています。スクリプトをダウンロードするには、Adobe Web サイトの [Using Adobe Flex Applications with JAWS](#) を参照してください。また、ソフトウェア開発者は、コンパイル時に各プロジェクトのユーザー補助機能を有効化(デフォルトは無効)する必要があります。

SAS テスト結果に示されているようにスクリプトでの JAWS との相互運用性は向上していますが、たとえ JAWS スクリプトの使用時でも、Windows Accessibility API (MSAA)を介して、ダイナミックな更新や重要なセマンティック情報をスクリーンリーダーに伝えることはできません。

Adobe 社は Flex Commons ライブラリと Flash Player の改良を継続しているため、SAS ではそれらの改良を導入し、Flex ベースのソフトウェアと支援技術との相互運用性を向上していく予定です。

問題と回避方法

ユーザー補助標準の例外に関する既知の事項は、現在ありません。

2 章

ダッシュボードの機能と使用方法

ダッシュボードの使用について	11
ダッシュボードのデザインについて	11

ダッシュボードの使用について

ダッシュボードを使用して、データを表示できます。ユーザーは、重要な情報を、コンパクトで解釈しやすいインターフェイスに簡単に表示できます。ダッシュボードは KPI を一か所に表示するため、企業内の情報の監視に役立ちます。新しいダッシュボードデザインとダッシュボードビューアを使用することで、複数のダッシュボードポートレットを含む 1 つのポータルページを作成するのではなく、複数のインジケータを含む 1 つのダッシュボードを作成できます。ダッシュボードとインジケータのルックアンドフィールをこれまでよりも簡単に行えるようになりました。

ダッシュボードのデザインについて

SAS BI Dashboard では、多数の新しい種類のインジケータや新しい相互作用機能が提供されました。選択するデザインによっては、ダッシュボードにてアプリケーションのようなサービスを利用できるようになりました。バージョン 4.3 以降、ユーザーはダッシュボードを表示するだけでなく、ダッシュボードからアクセスできる情報を対話形式に、多数の方法で使用できます。

ダッシュボードに他の情報へのリンクを作成できます。次のデザインでは、静的なラベルとイメージからのリンクをダッシュボードに使用します。

- 使用可能なダッシュボード、レポート、Web ページをリストするメニューまたは目次を作成する



- タブ付きポートフォリオのルックアンドフィールを模倣して、ダッシュボードの片側にタブを並べて作成する
- より詳しい SAS Web Report Studio レポートまたは SAS Stored Process レポートへのリンクを作成する

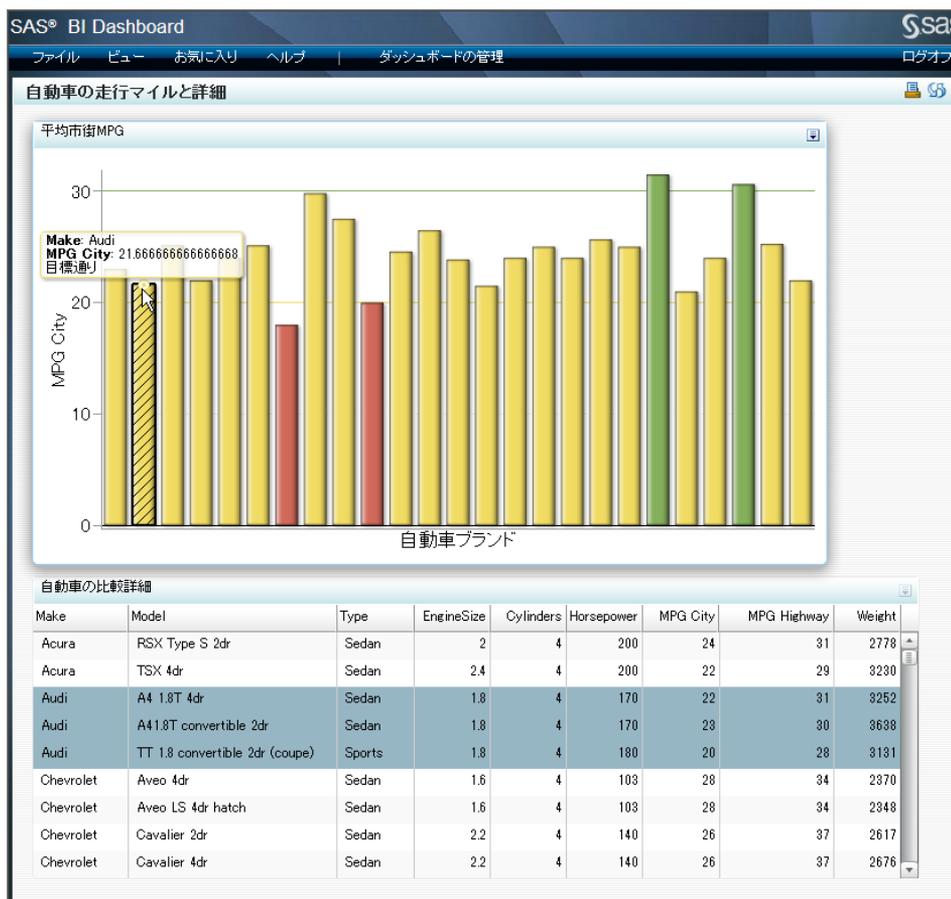
リンクの作成方法の例については、“[静的なコンテンツの追加による、他の情報へのリンク](#)” (99 ページ)を参照してください。

ダッシュボードのインジケータ間に分析情報に役立つ相互作用を設定することもできます。これらの機能により、ダッシュボードは情報を表示するものではなく、提供された情報とデータを対話形式で操作するものになります。

- ダイナミックプロンプトとチャート間の相互作用を使用して、表示データの各種カテゴリを選択できるメニューを模倣できます。



- 棒グラフとスパークテーブルインジケータ間の相互作用を使用して、ダッシュボードのデータを探索できます。棒グラフにて自動車製造業者を選択すると、製造業者データがスパークテーブルインジケータにハイライトされます。



詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。

2 部

ダッシュボードの表示

3 章	<i>SAS BI Dashboard ビューア</i>	15
4 章	<i>ダッシュボードビューア</i>	17
5 章	<i>ダッシュボードポートレット</i>	33

3 章

SAS BI Dashboard ビューア

SAS BI Dashboard のビューアサポート	15
ビューア機能の比較	15

SAS BI Dashboard のビューアサポート

SAS BI Dashboard では、次の手段でダッシュボードビューアをサポートします。

- SAS BI Dashboard Web アプリケーションに含まれる SAS BI Dashboard ビューア
- SAS Information Delivery Portal で定義される SAS BI Dashboard ポートレット

ビューア機能の比較

次の表は、各ビューアの機能サポートを示します。

注: X はサポートありを示します。

機能	ダッシュボードビューア	
	ビューア	ポートレット
ダッシュボードまたはインジケータの表示	X	X
デフォルトのダッシュボード設定 ¹	X	
ダッシュボードまたはインジケータ間の移動	X	
クライアントキャッシュによる応答時間とリソース需要の削減	X	
手動更新	X	X

¹ Information Delivery Portal では、ポートレットに対して同様な機能が提供されています。詳細については、「デフォルトのダッシュボード表示設定の設定」(40 ページ)を参照してください。1

機能	ダッシュボードビューア	
	ビューア	ポートレット
自動更新	X	X
ズーム	X	X
印刷	X	X
個人用インジケータアラート	X	
コメント	X	
お気に入り	X	

4 章

ダッシュボードビューア

概要	18
SAS BI Dashboard ビューアのアクセス	18
SAS BI Dashboard ビューアインターフェイス	18
SAS BI Dashboard ビューアインターフェイスの初期表示	18
ダッシュボードの表示インターフェイス	19
メニュー	20
インジケータ	20
ダッシュボードまたはインジケータを開く	21
デフォルトのダッシュボード表示設定のクリア	22
複数のダッシュボードまたはインジケータ間の移動	22
ビューアコンテンツの手動更新	23
自動リフレッシュの間隔の設定	23
インジケータのズームイン	23
ダッシュボードまたはインジケータの印刷	24
個人用インジケータアラートの設定	24
概要	24
アラートについて	24
アラートの作成	26
アラートの編集	28
アラートの削除	29
コメントの作成と返信	29
概要	29
コメントの表示と作成	29
コメントへの返信	30
既存コメントの編集	31
コメントの削除	31
コメントの並べ替え	31
コメントの検索	31
コメントの終了	31
お気に入りの操作	31
概要	31
お気に入りへのダッシュボードの追加	32
お気に入りへのインジケータの追加	32
お気に入りの選択	32
お気に入りの整理	32

概要

ダッシュボードビューアでは、SAS BI Dashboard ポートレットと同じ機能の提供に加えて、次のタスクを実行できるようになりました。

- ダッシュボードとインジケータのお気に入り設定
- 個人用インジケータアラートの作成
- インジケータのコメントの作成
- SAS BI Dashboard デザイナの起動
- より広い領域へのダッシュボードとインジケータの表示

SAS BI Dashboard ビューアのアクセス

SAS BI Dashboard ビューアは、次の方法でアクセスできます。

- Web ブラウザに、Web アドレス `http://server:port/SASBIDashboard` を入力します。

server:port は、SAS BI Dashboard Server の Web アドレスです。

注: SAS BI Dashboard のポートとデフォルトルートディレクトリは製品にインストール時に設定されます。各組織で使用される Web アドレスとは異なる場合があります。

- SAS BI Dashboard ポートレットツールバーの  をクリックします。

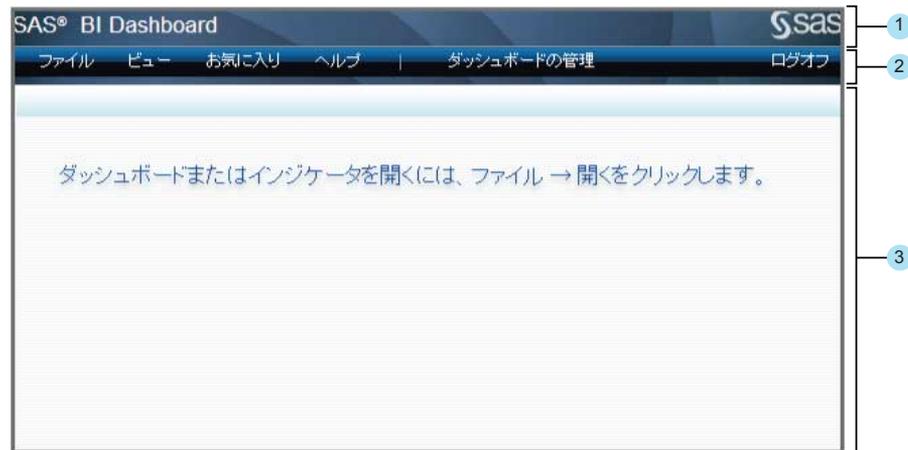
SAS BI Dashboard ビューアインターフェイス

SAS BI Dashboard ビューアインターフェイスの初期表示

次の場合に表示される SAS BI Dashboard ビューアを示します。

- ビューアを初めて使用した場合。
- 前回開いたダッシュボードまたはインジケータを表示しないようにインターフェイスを設定した場合。詳細については、“[デフォルトのダッシュボード表示設定のクリア](#)” (22 ページ)を参照してください。

図 4.1 SAS BI Dashboard ビューアの初期インターフェイス



- 1 バナー。
- 2 メニュー。詳細については、“メニュー” (20 ページ)を参照してください。
- 3 ワークスペース。ワークスペースにダッシュボードが表示されます。

ダッシュボードの表示インターフェイス

表示するダッシュボードまたはインジケータを選択すると、SAS BI Dashboard ビューアインターフェイスに機能が追加されます。

図 4.2 ダッシュボードが表示された SAS BI Dashboard ビューアインターフェイス



- 1 バナー。
- 2 メニュー。詳細については、“メニュー” (20 ページ)を参照してください。
- 3 ナビゲーションボタン。詳細については、“複数のダッシュボードまたはインジケータ間の移動” (22 ページ)を参照してください。

- 4 ダッシュボードタイトルバー。ダッシュボードを表示した場合は、ダッシュボードのタイトルが表示されます。インジケータを開いた場合は、インジケータのタイトルが表示されます。タイトルバーには、次のアイコンも用意されています。
 - 印刷。詳細については、“[ダッシュボードまたはインジケータの印刷](#)” (24 ページ)を参照してください。
 - 最新の情報に更新。詳細については、“[ビューアコンテンツの手動更新](#)” (23 ページ)を参照してください。
- 5 インジケータ。詳細については、“[インジケータ](#)” (20 ページ)を参照してください。

メニュー

メニューには、ダッシュボードの表示時に使用するタスクや機能が提供されます。

ファイル

- 開くについては、“[ダッシュボードまたはインジケータを開く](#)” (21 ページ)を参照してください。
- 印刷については、“[ダッシュボードまたはインジケータの印刷](#)” (24 ページ)を参照してください。
- **ダッシュボードの管理**については、“[ダッシュボードデザインの管理](#)” (32 ページ)を参照してください。

ビュー

ダッシュボードの表示を制御する手段が提供されます。

- **ダッシュボードの更新**については、“[ビューアコンテンツの手動更新](#)” (23 ページ)を参照してください。
- **ジャンプ**については、“[複数のダッシュボードまたはインジケータ間の移動](#)” (22 ページ)を参照してください。
- **デフォルトで前回表示したダッシュボードを開く**については、“[デフォルトのダッシュボード表示設定のクリア](#)” (22 ページ)を参照してください。
- **自動リフレッシュの間隔を設定する**については、“[自動リフレッシュの間隔の設定](#)” (23 ページ)を参照してください。

お気に入り

詳細については、“[お気に入りの操作](#)” (31 ページ)を参照してください。

ヘルプ

製品に関する情報と、SAS BI Dashboard 製品 Web ページへのリンクが提供されます。このページでは、製品ドキュメントとその他のサポート情報が提供されます。また、このメニューには、SAS カスタマサポートと SAS ホームページへのリンクも含まれます。

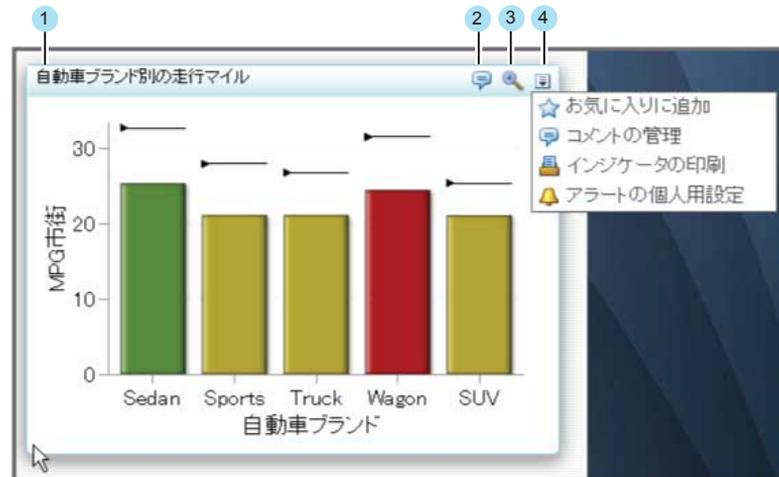
ダッシュボードの管理

詳細については、“[ダッシュボードデザインの管理](#)” (32 ページ)を参照してください。

インジケータ

インジケータでは、次の機能が提供されます。

図 4.3 インジケータインターフェイス



- 1 インジケータタイトルバー。
- 2 コメント。インジケータにコメントが添付されている場合、タイトルバーにこのアイコンが表示されます。詳細については、「[コメントの作成と返信](#)」(29 ページ)を参照してください。
- 3 ズーム。詳細については、「[インジケータのズームイン](#)」(23 ページ)を参照してください。
- 4 オプションメニュー。各インジケータタイトルバーでオプションメニューが提供されます。ただし、使用可能なオプションは、ダッシュボードデザイナーによるインジケータのカスタマイズ内容によって変わります。
 - [お気に入りに追加](#)については、「[お気に入りの操作](#)」(31 ページ)を参照してください。
 - [コメントの管理](#)については、「[コメントの作成と返信](#)」(29 ページ)を参照してください。
 - [インジケータの印刷](#)については、「[ダッシュボードまたはインジケータの印刷](#)」(24 ページ)を参照してください。
 - [アラートの個人用設定](#)については、「[個人用インジケータアラートの設定](#)」(24 ページ)を参照してください。

ダッシュボードまたはインジケータを開く

ダッシュボードまたはインジケータを開くには、次のステップを実行します。

1. **ファイル** ⇨ **開く**をクリックします。**ダッシュボードまたはインジケータの選択**ウィンドウが表示され、ダッシュボードとインジケータのみ表示されます。
2. **表示リスト**を使用して、ダッシュボードまたはインジケータのみ表示するようにフィルタを適用できます。
 - リストにダッシュボードのみ表示するには、**ダッシュボード**をクリックします。ダッシュボードファイルは DCX ファイル拡張子を使用します。

- リストにインジケータのみ表示するには、**インジケータ**をクリックします。インジケータファイルは、IDX ファイル拡張子を使用します。
3. 開くダッシュボードまたはインジケータデータに移動して、ファイルをクリックします。ワークスペースにインジケータまたはダッシュボードが表示されます。

デフォルトのダッシュボード表示設定のクリア

デフォルトでは、SAS BI Dashboard ビューアは、SAS BI Dashboard ビューア終了時に最後に表示されたダッシュボードまたはインジケータを表示します。このダッシュボードやインジケータを表示したくない場合があります。

SAS BI Dashboard ビューアを最初に起動する際、ダッシュボードやインジケータを非表示にするには、**ビュー** ⇒ **デフォルトで前回表示したダッシュボードを開く**をクリックして、デフォルトの表示設定をクリアします。

複数のダッシュボードまたはインジケータ間の移動

2 番目のダッシュボードまたはインジケータを開くと、メニューバーの下にナビゲーションコントロールが表示されます。



ダッシュボードナビゲーションは、**ビュー** ⇒ **ジャンプ**をクリックしても使用できます。

ナビゲーションコントロールを使用して、開いているダッシュボードとインジケータ間を移動できます。下矢印は、**ナビゲーション履歴リスト**を表示します。このリストは、最近のアクセス先リストではありません。代わりに、ナビゲーション履歴リストには、ナビゲーションフローが記録されます。項目のフローを前に戻した場合、その項目はナビゲーション履歴に含まれなくなります。たとえば、3 つのダッシュボードを A、B、C の順に表示したとします。その後で、戻る矢印をクリックしてダッシュボード B を再度表示します。次に、ダッシュボード D を開きます。ダッシュボード C は、ナビゲーション履歴リストに含まれなくなります。ナビゲーション矢印も、ダッシュボード C を表示できません。ダッシュボード C は、前にフローを戻したため、記録されたナビゲーションフローには含まれなくなりました。

注: ダッシュボードデザイナーからログオフする場合や、ダッシュボードデザイナーから移動してダッシュボードポートレットを使用した後にダッシュボードデザイナーに戻る場合、ナビゲーション履歴リストは保持されません。リンクを保持するには、**お気に入りの操作** (31 ページ)を参照してください。

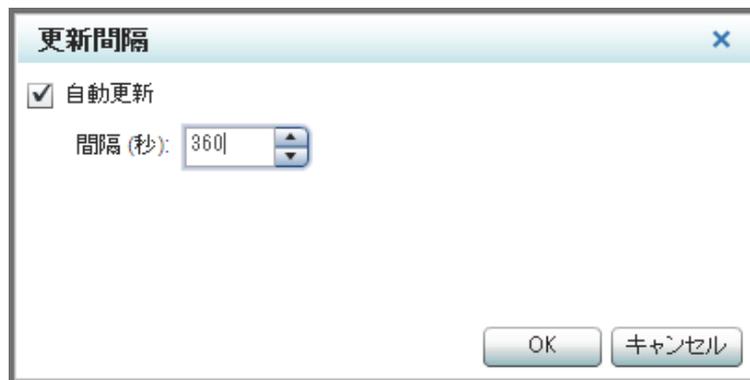
ビューアコンテンツの手動更新

SAS BI Dashboard ビューアのコンテンツを手動で更新するには、ダッシュボードタイトルバーのをクリックします。

自動リフレッシュの間隔の設定

SAS BI Dashboard ビューアのコンテンツを自動更新するには、次のステップを実行します。

1. **ビュー** ⇨ **自動リフレッシュの間隔を設定する**をクリックします。更新間隔ウィンドウが表示されます。



2. **自動更新**をクリックして、**間隔**フィールドに時間間隔を指定します。
3. **OK** をクリックします。

インジケータのズームイン

インジケータのズームを有効化した場合、インジケータのタイトルバーにズーム+アイコンが表示されます。

インジケータがズームされていないと、一部のインジケータコンテンツが表示されなかったり読みにくかったりする場合があります。をクリックすると、インジケータが拡大され、コンテンツが意図されたように表示されます。ただし、インジケータの拡大により、ダッシュボード内の他のインジケータが隠れてしまう場合があります。インジケータを元のサイズに縮小するには、をクリックします。

注: マウスにホイールが付いている場合は、マウスホイールを使用して、インジケータのズームインやズームアウトができます。

ダッシュボードまたはインジケータの印刷

ダッシュボード全体またはインジケータのみ印刷できます。

- ダッシュボードを印刷するには、ダッシュボードタイトルバーのをクリックします。印刷ウィンドウが表示されます。
- インジケータを印刷するには、インジケータタイトルバーで、**インジケータの印刷**の順にクリックします。印刷ウィンドウが表示されます。

個人用インジケータアラートの設定

概要

個人用インジケータアラートは、対象の個人にのみ送信されるアラートです。これは、1人以上のアラートサブスクライバのリストに送信されるインジケータアラートとは異なります。インジケータアラートは、ダッシュボードデザイナーによって、定義されてインジケータに割り当てられます。個人用アラートは、任意のインジケータアラートに追加されます。

アラート通知の受け取り方法を次から選択できます。

- SAS Information Delivery Portal のアラートポータル
- 電子メール

注:

- ビジネスユーザーがインジケータの個人用インジケータアラートを定義する前に、ダッシュボードデザイナーがそのインジケータの個人用インジケータアラートを許可する必要があります。
- **インジケータアラートの編集**ウィンドウに表示されるアラートは、個人用インジケータアラートのみです。ダッシュボードデザイナーによって作成されるインジケータアラートは表示されません。

アラートについて

アラート定義

アラートを定義する際、アラートの発生条件を指定します。この条件がトリガです。トリガを定義するには、次の選択を行う必要があります。

- 評価する範囲
- その範囲でのデータポイント値の発生間隔
- その間隔でのデータポイントの発生パーセント

アラートのトリガ方法

アラートは次の手順でトリガされます。

1. SAS BI Dashboard で、インジケータデータの変更と、インジケータのアラート定義の更新のどちらかまたは両方が定期的に確認されます。デフォルトでは、この確認は 3 分ごとに行われます。SAS BI Dashboard の管理者はこの設定を変更できます。
2. 更新が検出され、トリガの間隔内のデータポイントのパーセントが変更されていた場合、アラート基準が評価されます。
3. 基準に一致する場合、アラートがトリガされて、サブスクライバに通知が送信されます。

注: アラートの作成時にアラート基準が満たされていると、アラートは即時にトリガされます。その後、データが変更され、アラート基準が満たされたときのみ、アラートはトリガされます。

アラート基準とデータ集計

インジケータでデータが集計される場合、アラートのトリガに使用されるパーセントは、インジケータデータを評価して、間隔内のデータポイント数を特定することで計算されることを理解することが重要になります。グラフビューに示される集計結果は、評価されません。棒グラフに 3 本の棒があるとします。それぞれの棒は、複数のデータポイントの平均を表します。ある棒は、アラート間隔に含まれます。しかしながら、その棒に関連付けられている個々のデータポイントはどれもこの間隔に含まれない可能性があります。この場合、3 本の棒は、アラート計算に使用されるデータポイントではなく、集計データを反映しています。

次のインジケータでは、アラートがサポートされています。また、データを集計できません。

- 棒グラフ(ピュレット)
- 参照線付き棒グラフ
- 対話型要約と棒グラフ
- 対話型要約とターゲット棒グラフ
- ターゲット棒グラフ
- タイルチャート
- ウォーターフォールチャート

アラート計算に影響する可能性のある変更

データの変更以外に、次のインジケータコンポーネントの更新によっても、間隔パーセントの計算が影響を受け、アラートの再評価が引き起こされる場合があります。

- インジケータのソースデータが変更されると、評価に使用可能なデータが変更される場合があります。たとえば、Information Map に定義したフィルタを更新する場合、新規フィルタ定義によって、評価されるデータポイント数が増える可能性があります。
- インジケータデータの定義が変更されると、評価に使用可能なデータが変更される場合があります。評価対象データが変更される変更例を次に示します。
 - インジケータデータの定義を更新して、SQL クエリを変更する。
 - Information Map の選択済み項目を変更する。
 - テーブルのグループ基準を更新する。
- 範囲を変更すると、計算されたパーセントが増える場合があります。たとえば、範囲の上限を 100 から 200 に変更すると、その範囲内および間隔内に存在するデータポイントのパーセントが増える場合があります。

- インジケータの定義を変更すると、評価されるデータ値が変更される場合があります。たとえば、高さから重みに Y 軸値設定を変更すると、評価されるデータが変更されます。

アラートの作成

注: この機能が使用できないようにダッシュボードデザイナーがカスタマイズしている場合があります。

個人用インジケータアラートを作成するには、次のステップを実行します。

- インジケータタイトルバーで 、アラートの個人用設定の順にクリックします。インジケータアラートの作成ウィンドウが表示されます。

インジケータアラートの作成

アラートの設定

アラート名: *

ゲージ定義: 範囲 ▼

トリガの間隔: 目標を下回る ▼

次の場合トリガする: ゲージが間隔に含まれる場合
 % 以上が間隔に含まれる場合

配信方法

アラート ポートレット 電子メール サブスクライバ

電子メール テンプレート: リンクのみのテンプレート ▼

件名:

電子メールに追加するメッセージ

アラート

名前	ゲージ定義	トリガの間隔	配信方法

注:

- アラートの個人用設定が使用できない場合、個人用設定がダッシュボードデザイナーにより許可されていません。
- オプションメニュー()が使用できない場合、タイトルにインジケータが表示されません。
- アラートは、範囲を使用するインジケータでのみ使用できます。詳細については、“[範囲をサポートするインジケータの種類](#)”(67 ページ)を参照してください。

ダッシュボードデザイナーに連絡してください。

- アラート名フィールドで、アラートの名前を入力します。

3. **ゲージ定義**リストから、評価する範囲を選択します。

注: ほとんどのインジケータは範囲を 1 つしか使用しないので、その範囲がデフォルトになります。ただし、次のインジケータでは範囲が 2 つ使用されます。したがって、評価する範囲を選択する必要があります。

- 対話型要約と散布図
- Range Map

4. **トリガの間隔**リストから、アラートがトリガされる値の発生間隔を選択します。

5. アラートがトリガされる、選択した間隔に含まれる値(すなわち、データポイントやゲージ)の数を指定します。

- **ゲージが間隔に含まれる場合**
- **% 以上が間隔に含まれる場合**

注: この設定を選択した場合、チェックボックスの横にあるフィールドに値を入力します。

6. アラートの配信方法として、**アラート ポートレット**または**電子メール サブスクリイバ**を選択します。

注:

- 両方の方法を選択することもできます。
- **アラート ポートレット**を選択するには、SAS Information Delivery Portal に受信者のアラートポートレットが定義されている必要があります。アラートポートレットが定義されていない場合、アラートはサーバーに保存されたままになります。アラートポートレットをポータルに追加すると、アラートポートレットにこれまでのアラートがすべて表示されます。
- ビジネスユーザーの電子メールアドレスは、SAS メタデータから使用できる必要があります。詳細については、*SAS Management Console: Guide to Users and Permissions* を参照してください。

7. (オプション)**電子メール サブスクリイバ**を選択した場合は、次のステップを実行します。a. **電子メールテンプレート**リストから、アラートの電子メール通知に使用するテンプレートを選択します。

注: このリストの使用可能テンプレートは、ダッシュボードデザイナーによって管理されます。

テンプレートの種類	説明
リンクのみ	電子メールに、影響を受けたインジケータを SAS BI Dashboard ビューアに開くリンクが含まれます。 注: すべてのインジケータの種類で、このテンプレートがサポートされます。

テンプレートの種類	説明
デフォルト	<p>電子メールに、影響を受けたインジケータのイメージと、影響を受けたインジケータを SAS BI Dashboard ビューアに開くリンクが含まれます。</p> <p>注: 次のインジケータの種類で、このテンプレートがサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参照線付き棒グラフ KPI 参照線付き折れ線グラフ Range Map 散布図 ターゲット棒グラフ

- b. **件名**フィールドに件名を入力します。**電子メールに追加するメッセージ**フィールドに、電子メールに含める追加メッセージを入力します。
8. **アラートの保存**をクリックします。**アラート**表にアラートが表示されます。
9. 別のアラートを作成する場合、**アラートの新規作成**をクリックします。**インジケータアラートの作成**ウィンドウを終了するには、**OK** をクリックします。

ヒント 個人用アラートの場合は、ウィンドウの終了時にアラートがサーバーに保存されます。

注: アラートの作成時にアラート基準が満たされていると、アラートは即時にトリガされます。その後、データが変更され、アラート基準が満たされたときのみ、アラートはトリガされます。

アラートの編集

アラートを編集するには、次のステップを実行します。

1. 、**アラートの個人用設定**の順にクリックします。**インジケータアラートの管理**ウィンドウが表示されます。

注: **インジケータアラートの管理**ウィンドウが表示されると、**アラート**表の最初のアラートが自動的にハイライトされて、ウィンドウの左側にプロパティが表示されます。
2. **アラート**表で、アラートを選択します。アラートのプロパティがウィンドウの左側に表示されます。
3. **“アラートの作成” (26 ページ)**の説明に従ってプロパティを編集します。
4. **アラートの保存**をクリックします。
5. **OK** をクリックして、**インジケータアラートの管理**ウィンドウを終了します。

ヒント 個人用アラートの場合は、ウィンドウの終了時にアラートがサーバーに保存されます。

注: 最後の評価以降に編集によって計算された間隔パーセントが変更され、なおもアラート基準が満たされている場合は、アラートがトリガされます。

アラートの削除

アラートを削除するには、次のステップを実行します。

1. **インジケータアラートの管理**ウィンドウで、**アラート表**のアラートを選択します。
2. **X**をクリックします。
3. **OK**をクリックして、**インジケータアラートの管理**ウィンドウを終了します。ウィンドウの終了時に削除がサーバーに保存されます。

コメントの作成と返信

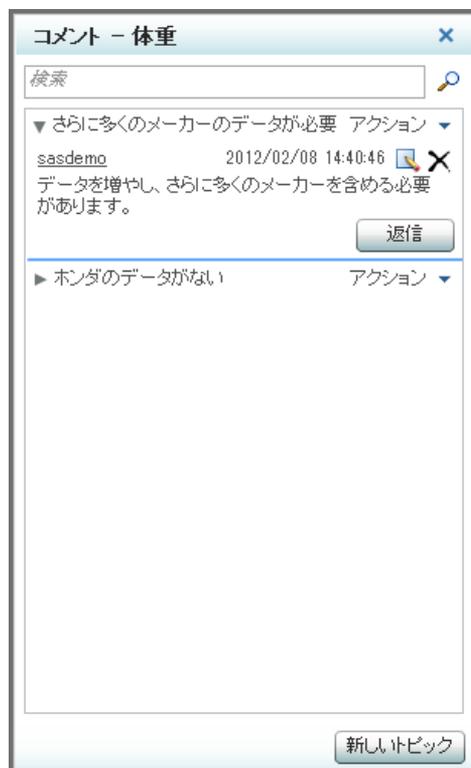
概要

自分を含むインジケータにアクセス可能なユーザーが、インジケータのコメントを作成できます。コメントを同僚間でやりとりして、生産性を向上できます。コメントと返信の一連の通信を各トピックにまとめて、複数の通信トピックをインジケータに含めることができます。通信量が多い場合、コメントの並べ替え、フィルタ、検索を行うことができます。

コメントの表示と作成

インジケータにすでにコメントがある場合、インジケータタイトルバーにが表示されます。コメントを新規作成するには、次のステップを実行します。

1. インジケータタイトルバーで、**コメントの管理**の順にクリックします。コメントウィンドウが表示されます。



この要素に既存コメントがある場合、ウィンドウに表示されます。

2. **新しいトピック**をクリックして、新しいトピックのコメントを作成します。
3. **新しいトピック**ウィンドウで、トピック名とコメントを入力します。
4. (オプション)コメントにファイルを添付するには、**添付ファイル**をクリックします。添付するファイルを選択して、**開く**をクリックします。
注: コメントから添付ファイルを削除するには、**新しいトピック**ウィンドウの**X**をクリックします。コメントを保存すると、添付ファイルを削除できなくなります。
5. **保存**をクリックすると、コメントは保存、ポストされます。ポストしたコメントは、そのインジケータのコメントのトピックスレッドに追加されます。コメントをポストすると、他のユーザーが返信できます。返信されたコメントもコメントのトピックスレッドに追加されます。

コメントへの返信

インジケータにコメントがある場合、インジケータタイトルバーにが表示されます。コメントに返信するには、次のステップを実行します。

1. インジケータタイトルバーでをクリックします。コメントウィンドウが表示されます。
2. コメントのトピックスレッドを展開します。
3. 返信するコメントを検索して、**返信**をクリックします。
4. 応答ウィンドウで、コメントを入力します。
5. (オプション)コメントにファイルを添付するには、**添付ファイル**をクリックします。添付するファイルを選択して、**開く**をクリックします。

注: コメントから添付ファイルを削除するには、**新しいトピック**ウィンドウの **X** をクリックします。

6. **OK** をクリックすると、返信は保存、ポストされます。コメントは、コメントのスレッドに追加されます。

既存コメントの編集

ビジネスユーザーは既存コメントを編集できません。Comments Administrator 役割のユーザーのみが、コメントを編集できます。詳細については、*SAS 9.3 Middle-Tier Administration Guide* および *SAS 9.3 Web Application Administration Guide* を参照してください。

コメントの削除

ビジネスユーザーは、コメントを削除できません。Comments Administrator 役割のユーザーのみが、コメントを削除できます。詳細については、*SAS 9.3 Middle-Tier Administration Guide* および *SAS 9.3 Web Application Administration Guide* を参照してください。

コメントの並べ替え

コメントを並べ替えるには、コメントウィンドウで **アクション** ⇨ **並べ替えとフィルタ** をクリックして、コメントの並べ替え方法を選択します。コメントリストが並べ替えられます。

コメントの検索

コメントを検索するには、次のステップを実行します。

1. コメントウィンドウで、**検索フィールド**に1つ以上の文字を入力します。
2.  をクリックします。検索文字列を含むコメントが結果リストに表示されます。
3. コメント全体を表示するには、**このトピックを表示する** をクリックします。
4. 結果リストを再表示するには、**検索結果に戻る** をクリックします。
5. コメントウィンドウを再表示するには、**コメントに戻る** をクリックします。

コメントの終了

コメントウィンドウを終了するには、ウィンドウの右上隅の **X** をクリックします。

お気に入りの操作

概要

簡単にダッシュボードやインジケータをブックマークして戻るには、お気に入りの追加します。

お気に入りへのダッシュボードの追加

ダッシュボードをお気に入りに追加するには、**お気に入り** ⇨ **ダッシュボードをお気に入りに追加** をクリックします。このダッシュボードは、**お気に入りメニュー**に追加されます。

お気に入りへのインジケータの追加

インジケータをお気に入りに追加するには、**お気に入り** ⇨ **インジケータをお気に入りに追加** ⇨ **<インジケータ名>** をクリックします。このインジケータが**お気に入りメニュー**に追加されます。

注: 、**お気に入りに追加**の順にクリックして、インジケータをお気に入りに追加することもできます。

お気に入りの選択

お気に入りを選択するには、**お気に入り** ⇨ **<お気に入り名>** をクリックします。選択したお気に入りは、ビューアに表示されます。ダッシュボードまたはインジケータがすでにビューアに表示されている場合、選択したお気に入りの代わりに表示されます。

お気に入りの整理

お気に入りの整理するには、**お気に入り** ⇨ **お気に入りの管理** をクリックします。**お気に入りの管理** ウィンドウが表示されます。次の方法で、お気に入りの整理できます。

- お気に入りにフォルダを作成するには、 をクリックして、フォルダ名を入力します。
- お気に入りまたはフォルダを移動するには、対象をドラッグします。
注: フォルダ内にドラッグするには、フォルダを展開してから、フォルダ内にドラッグします。
- お気に入りまたはフォルダの名前を変更するには、名前をクリックしてから、名前を入力します。
- お気に入りまたはフォルダを削除するには、名前をクリックしてから、 をクリックします。

ダッシュボードデザインの管理

SAS BI Dashboard Administrator グループのメンバは、ダッシュボードを表示するだけでなく、デザインや変更ができます。このグループメンバのツールバーには、**ダッシュボードの管理**が表示されます。現在表示されているダッシュボードを SAS BI Dashboard デザイナで開くには、**ダッシュボードの管理** をクリックします。

詳細については、6章、「[SAS BI Dashboard デザイナ](#)」(45 ページ)を参照してください。

5 章

ダッシュボードポートレット

SAS BI Dashboard ポートレットの設定	33
概要	33
SAS Information Delivery Portal へのログオン	34
ページの作成	34
ページに SAS BI Dashboard ポートレットを追加	35
ダッシュボードの選択	37
SAS BI Dashboard ポートレットインターフェイス	38
SAS BI Dashboard ポートレットの操作	39
ダッシュボードのサイズ変更	39
ビューアコンテンツの手動更新	39
ダッシュボードの自動更新方法の変更	40
デフォルトのダッシュボード表示設定の設定	40
インジケータのズームイン	40
ダッシュボードまたはインジケータの印刷	40
SAS BI Dashboard ビューアのダッシュボード表示への切り替え	41
ダッシュボードポートレットタイトルの変更	41
ダッシュボードデザインの管理	41
SAS BI Dashboard ポートレットのログオフ	41

SAS BI Dashboard ポートレットの設定

概要

SAS BI Dashboard ポートレットは、次のポータルでサポートされます。

- SAS Information Delivery Portal
- Websphere ポータル

SAS BI Dashboard ポートレットにアクセスする前に、SAS Information Delivery Portal にログオンしてポータルページを作成する必要があります。ダッシュボードを表示する SAS BI Dashboard ポートレットを追加できます。

SAS BI Dashboard ポートレットを設定すると、ポータルにログオンして SAS BI Dashboard ポートレットにアクセスできるようになります。

注:

- SAS BI Dashboard ポートレットインターフェイスの説明については、“[SAS BI Dashboard ポートレットインターフェイス](#)” (38 ページ)を参照してください。

- SAS BI Dashboard ポートレットの使用方法については、“[SAS BI Dashboard ポートレットの操作](#)” (39 ページ)を参照してください。

SAS Information Delivery Portal へのログオン

SAS Information Delivery Portal にログオンするには、次のステップを実行します。

1. ブラウザを開いて、ポータル Web アドレスを入力します。
注: Web アドレスを入力するには、ポータル管理者に連絡してください。
ログオンページが表示されます。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. ログオンをクリックします。個人用ポータルが表示されます。通常、ほとんどのポータルユーザーのページには、コレクションポートレット(マイコレクション)とブックマークポートレット(ブックマーク)が表示されます。

ページの作成

SAS BI Dashboard ポートレットを含むポータルページを新規作成するには、次のステップを実行します。

1. **カスタマイズ** ⇒ **ページの追加**をクリックします。プロフィールへのページの追加ページが表示されます。

2. **作成**タブで、ページの情報を入力します。

名前

ページタブのナビゲーションバーに表示される短い名前。

説明

検索結果にページタイトルと一緒に表示される短い説明。

キーワード

このページの検索に使用できる単語。複数のキーワードはスペースで区切ります。

注: 効率的に検索するには、キーワードの標準リストを作成して、常にこれらのキーワードを使用します。

ページのランク

他のページと比較して、このページの重要度を示す数字。デフォルト値は 100 です。

この値によって、ナビゲーションバーに表示されるページの順序が決まります。ページは、ランクの昇順に表示されます。ランクが等しいページは、作成順に表示されます。

保存場所 (グループ)

ページを共有するグループを指定します。**保存場所 (グループ)**フィールドの値を選択した場合、**共有タイプ**フィールドが表示されます。

注: このリストは、グループコンテンツ管理者かポータル管理者にのみ表示されます。

ヒント

- すべてのユーザーと共有するには、リストから**パブリック**を選択します。ただし、数百人規模以上のユーザーがポータルページを共有する可能性がある場合は、パフォーマンスに影響が及ぶことがあります。ユーザーの選択グループと共有するには、テンプレート機能の使用を検討してください。詳細については、SAS Information Delivery Portal のドキュメントを参照してください。
- ここで選択できる共有グループは、一度に1つのみです。複数のグループと共有するには、SAS 管理コンソールの権限マネージャ機能が必要です。SAS 管理コンソールの権限で、**権限マネージャ** ⇒ **種類** ⇒ **PSPortletPage**を展開します。新しいポータルページをクリックします。**権限タブのプロパティの表示**ダイアログボックスで、共有するユーザーとグループを追加します。**OK**をクリックします。

共有タイプ

ユーザーとページを共有する方法を指定します。

注: このリストは、グループコンテンツ管理者が**保存場所 (グループ)**リストで選択した場合のみ表示されます。

このリストでは、次のオプションを選択できます。

オプション	説明
利用可能	グループユーザーは、検索を使用してページを検索できます。必要に応じてページを追加できます。
デフォルト	グループユーザーが次回ポータルにログオンしたときに、自動的にページが表示されます。ページが必要ない場合、ユーザーはナビゲーションバーからページを削除できます。
固定	グループユーザーが次回ポータルにログオンしたときに、自動的にページが表示されます。ただし、ユーザーは、ナビゲーションバーからページを削除できません。

3. **追加**をクリックします。新規ページが追加されたことを示すメッセージが表示されます。
4. **完了**をクリックします。空の新しいページがポータルに表示されます。

ページに SAS BI Dashboard ポートレットを追加

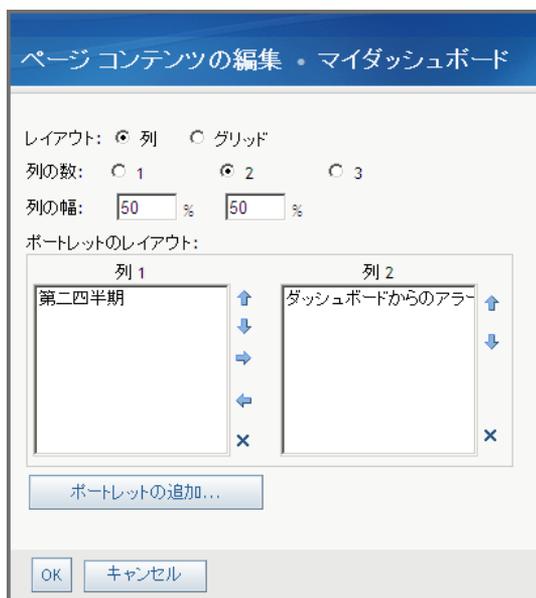
ポータルページには複数のポートレットが含まれる場合があります。ポートレットには、次の種類のコンテンツが含まれます。

- HTML
- Adobe Flash

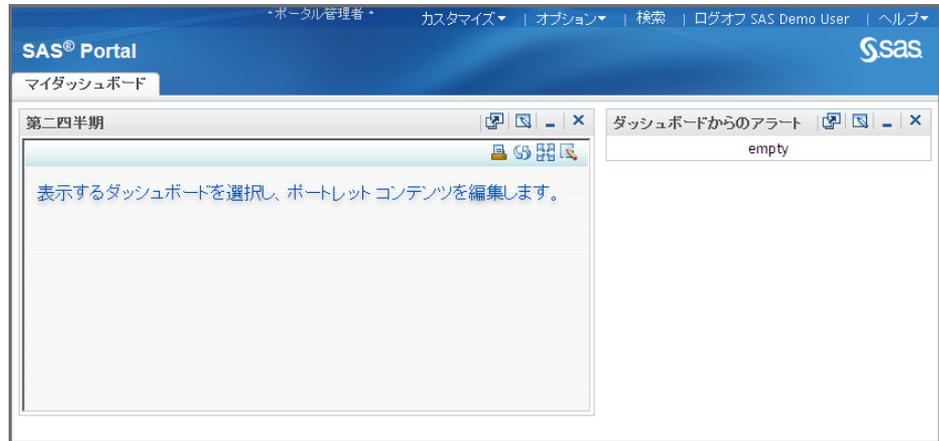
通常は、ポータルページに HTML ベースのポートレットが複数含まれていても、パフォーマンスに影響はありません。ただし、Flash ベースのポートレットでは、クライアントの Flash を初期化する必要があります。したがって、ポータルページに Flash ベースのポートレットが複数含まれていると、パフォーマンスに影響する可能性があります。パフォーマンスへの影響を避けるには、1 つのポータルページに Flash ベースのコンテンツを含むポートレットを複数追加しないようにします。バージョン 4.3 から、SAS BI Dashboard ポートレットに Flash ベースのコンテンツが含まれるようになりました。

ページに SAS BI Dashboard ポートレットを追加するには、次のステップを実行します。

1. ポートレットを追加する SAS Information Delivery Portal ページに移動します。
2. **カスタマイズ** ⇒ **ページの編集** ⇒ **ページコンテンツの編集** をクリックします。ページコンテンツの編集ページが表示されます。



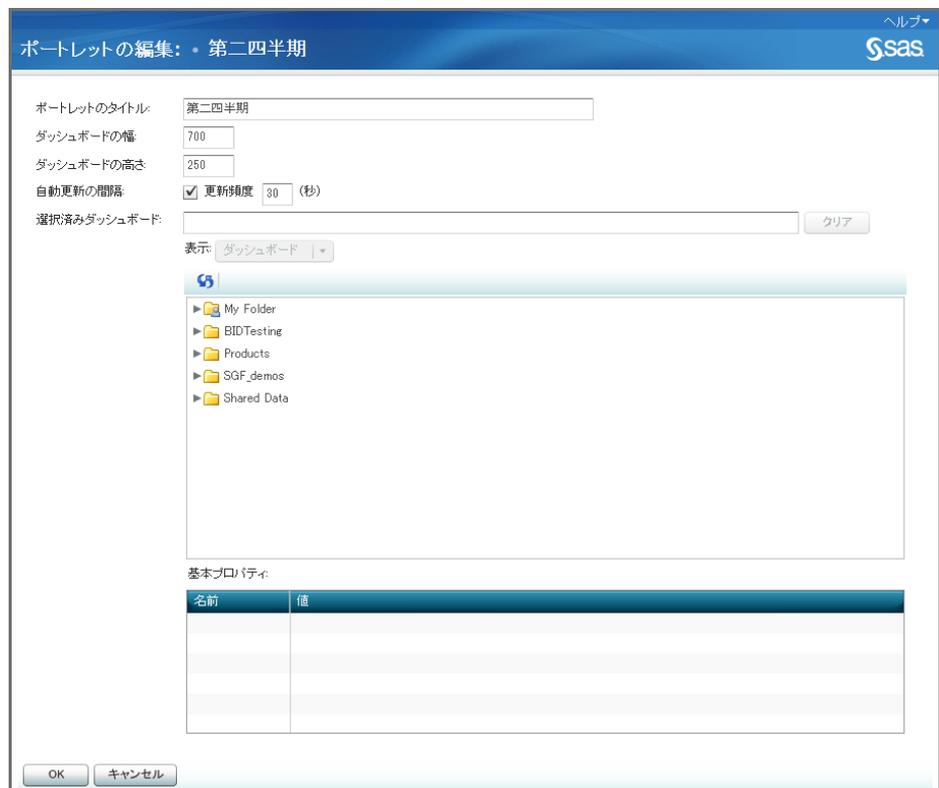
3. **ポートレットの追加** をクリックします。ページに **ポートレットを追加** ページが表示されます。
4. **ポートレットの種類** リストから、SAS BI Dashboard ポートレットを選択します。
5. 名前、説明、キーワードを入力します。
6. **追加** をクリックします。
7. **完了** をクリックします。
8. **ページコンテンツの編集** ページで、**OK** をクリックします。ポートレットダッシュボードビューアの表示ページに新しいポートレットが表示されます。



ダッシュボードの選択

表示するダッシュボードを選択するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard ポートレットのタイトルバーで、をクリックします。ポートレットの編集ページが表示されます。



2. ツリーから、ダッシュボードを選択します。このリストには、組織によって作成されたダッシュボードの一覧が表示されます。ダッシュボードを選択すると、ツリーの下の基本プロパティテーブルにプロパティが表示されます。

注: 参照権限のあるダッシュボードのみ選択できます。

3. (オプション)ポートレットのサイズを変更して、ポータルページを見やすくできます。ダッシュボードの幅フィールドとダッシュボードの高さフィールドに、新たな寸法を入力します。

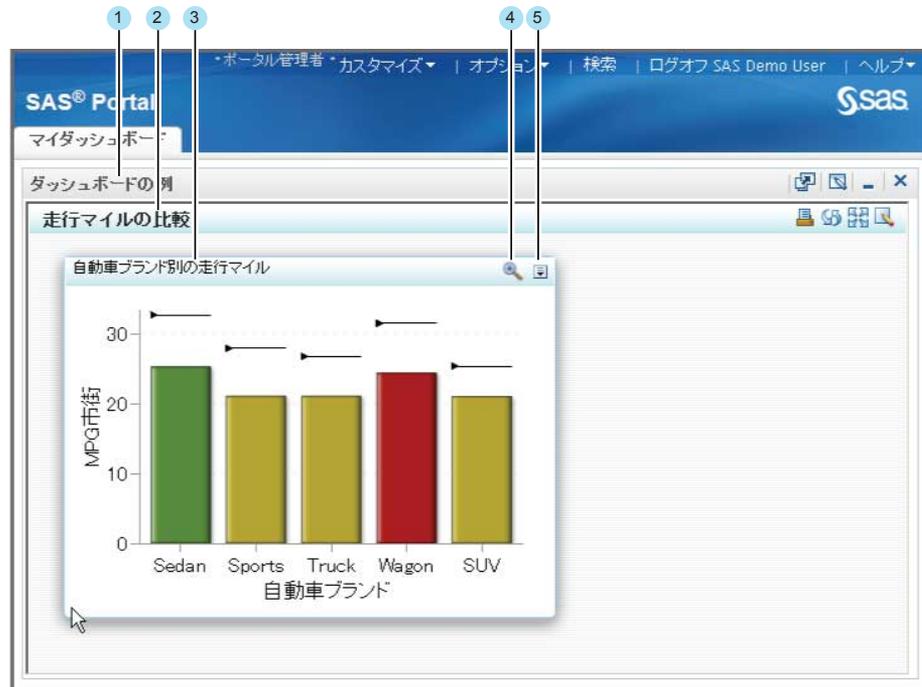
注: ポートレットのタイトルフィールドは編集できません。

4. (オプション)ダッシュボードを自動的に最新の情報に更新する方法を変更できません。詳細については、“[ダッシュボードの自動更新方法の変更](#)”(40 ページ)を参照してください。
5. **OK** をクリックします。ポートレットにダッシュボードが表示されます。



SAS BI Dashboard ポートレットインターフェイス

SAS BI Dashboard ポートレットとそのダッシュボードには、次の機能が実装されています。



- 1 ツールを含むポートレットのタイトルバー
- 2 ツールを含むダッシュボードのタイトルバー
- 3 インジケータタイトルバー
- 4 ズーム
- 5 オプションメニュー

SAS BI Dashboard ポートレットの操作

ダッシュボードのサイズ変更

ダッシュボードのサイズを変更して、ポートレットで見やすくなるようにします。ダッシュボードの寸法を変更するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard ポートレットのタイトルバーで、をクリックします。ポートレットの編集ページが表示されます。
2. **ダッシュボードの幅**フィールドで、幅の値を入力します。
3. **ダッシュボードの高さ**フィールドで、高さの値を入力します。
4. **OK** をクリックします。

ビューアコンテンツの手動更新

SAS BI Dashboard ポートレットのコンテンツを手動で更新するには、ダッシュボードタイトルバーのをクリックします。

ダッシュボードの自動更新方法の変更

ヒント デフォルトでは、自動更新間隔は 30 秒に設定されます。この設定が原因でフラッシュが過剰になったり応答時間が遅くなったりする場合、間隔を大きくするか、自動更新を無効化できます。

ポートレットコンテンツの自動更新間隔を変更するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard ポートレットのタイトルバーで、をクリックします。ポートレットの編集ページが表示されます。
2. 自動更新を無効化するには、**自動更新の間隔横の更新頻度**チェックボックスをクリアします。
3. 間隔を変更するには、**更新頻度**をクリックして、フィールドに値を入力します。
4. **OK** をクリックします。

デフォルトのダッシュボード表示設定の設定

ポートレットに表示するデフォルトのダッシュボードを設定できます。設定を変更するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard ポートレットのタイトルバーで、をクリックします。ポートレットの編集ページが表示されます。
2. **選択済みダッシュボードツリー**で、このポータルページを開くときにデフォルトで表示するダッシュボードを選択します。このツリーには、組織によって作成されたダッシュボードが表示されます。

注: 参照権限のあるダッシュボードのみ選択できます。

3. **OK** をクリックします。

インジケータのズームイン

インジケータのズームを有効化した場合、インジケータのタイトルバーにズーム+アイコンが表示されます。

インジケータがズームされていないと、一部のインジケータコンテンツが表示されなかったり読みにくかったりする場合があります。をクリックすると、インジケータが拡大され、コンテンツが意図されたように表示されます。ただし、インジケータの拡大により、ダッシュボード内の他のインジケータが隠れてしまう場合があります。インジケータを元のサイズに縮小するには、をクリックします。

注: マウスにホイールが付いている場合は、マウスホイールを使用して、インジケータのズームインやズームアウトができます。

ダッシュボードまたはインジケータの印刷

ダッシュボード全体またはインジケータのみ印刷できます。

- ダッシュボードを印刷するには、ダッシュボードタイトルバーのをクリックします。印刷ウィンドウが表示されます。

- インジケータを印刷するには、インジケータタイトルバーで 、インジケータの印刷の順にクリックします。印刷ウィンドウが表示されます。

SAS BI Dashboard ビューアのダッシュボード表示への切り替え

SAS BI Dashboard ビューアによるダッシュボードの表示を選択できます。SAS BI Dashboard ビューアに切り替えると、コメント、お気に入り、個人用インジケータアラートを使用できます。また、SAS BI Dashboard ビューアには、ダッシュボードを表示する多くのスペースが提供されます。SAS BI Dashboard ビューアに切り替えるには、ダッシュボードタイトルバーの  をクリックします。

詳細については、4 章、「ダッシュボードビューア」(17 ページ)を参照してください。

ダッシュボードポートレットタイトルの変更

ダッシュボードポートレットのタイトルを変更するには、次のステップを実行します。

1. ダッシュボードポートレットタイトルバーで  をクリックします。ポートレットプロパティの編集ページが表示されます。
2. 名前フィールドで、ポートレットの新たな名前を入力します。
3. OK をクリックします。

ダッシュボードデザインの管理

BI Dashboard 管理者グループのメンバは、ダッシュボードを表示するだけでなく、デザインや変更ができます。このグループメンバのダッシュボードタイトルバーには、ダッシュボードの管理アイコンが表示されます。SAS BI Dashboard デザイナでダッシュボードを開くには、 をクリックします。

詳細については、6 章、「SAS BI Dashboard デザイナ」(45 ページ)を参照してください。

SAS BI Dashboard ポートレットのログオフ

SAS BI Dashboard ポートレットからログオフするには、SAS Information Delivery Portal からログオフする必要があります。ユーザーインターフェイスの右上隅のログオフユーザー名をクリックします。このユーザー名はポータルユーザー名です。

注: セッションの非アクティブ期間が SAS Information Delivery Portal のタイムアウト値より長い場合、自動的にログオフされます。

3 部

ダッシュボードのデザイン

6 章	SAS BI Dashboard デザイン	45
7 章	ダッシュボードのデザイン	51
8 章	インジケータデータの定義	55
9 章	範囲の定義	67
10 章	インジケータの操作	73
11 章	ダッシュボードコンテンツのレイアウト	91
12 章	ダッシュボードへの相互作用機能の追加	103
13 章	アラートのカスタマイズ	119
14 章	ダッシュボードのテスト	127

6 章

SAS BI Dashboard デザイナ

ダッシュボードデザイナのアクセス	45
SAS BI Dashboard デザイナインターフェイス	46
SAS BI Dashboard デザイナインターフェイスの初期表示	46
メニュー	47
ツールバー	48
オブジェクトペイン	49
ワークスペース	50
プロパティペイン	50

ダッシュボードデザイナのアクセス

注: ダッシュボードをデザインし変更するには、SAS BI Dashboard 管理者グループのメンバである必要があります。このグループのメンバである場合、次のオプションを使用できます。

- SAS BI Dashboard ビューアのツールバーに**ダッシュボードの管理**が表示されます。
- SAS BI Dashboard ポートレットツールバーにが表示されます。

ダッシュボードデザイナは、次の方法でアクセスできます。

- Web ブラウザに、Web アドレス `http://server:port/SASBIDashboard` を入力します。

`server:port` は、SAS BI Dashboard Server の Web アドレスです。

注: SAS BI Dashboard のポートとデフォルトルートディレクトリは製品にインストール時に設定されます。各組織で使用される Web アドレスとは異なる場合があります。

SAS BI Dashboard ビューアが表示されます。ダッシュボードデザイナを開くには、ツールバーの**ダッシュボードの管理**をクリックします。

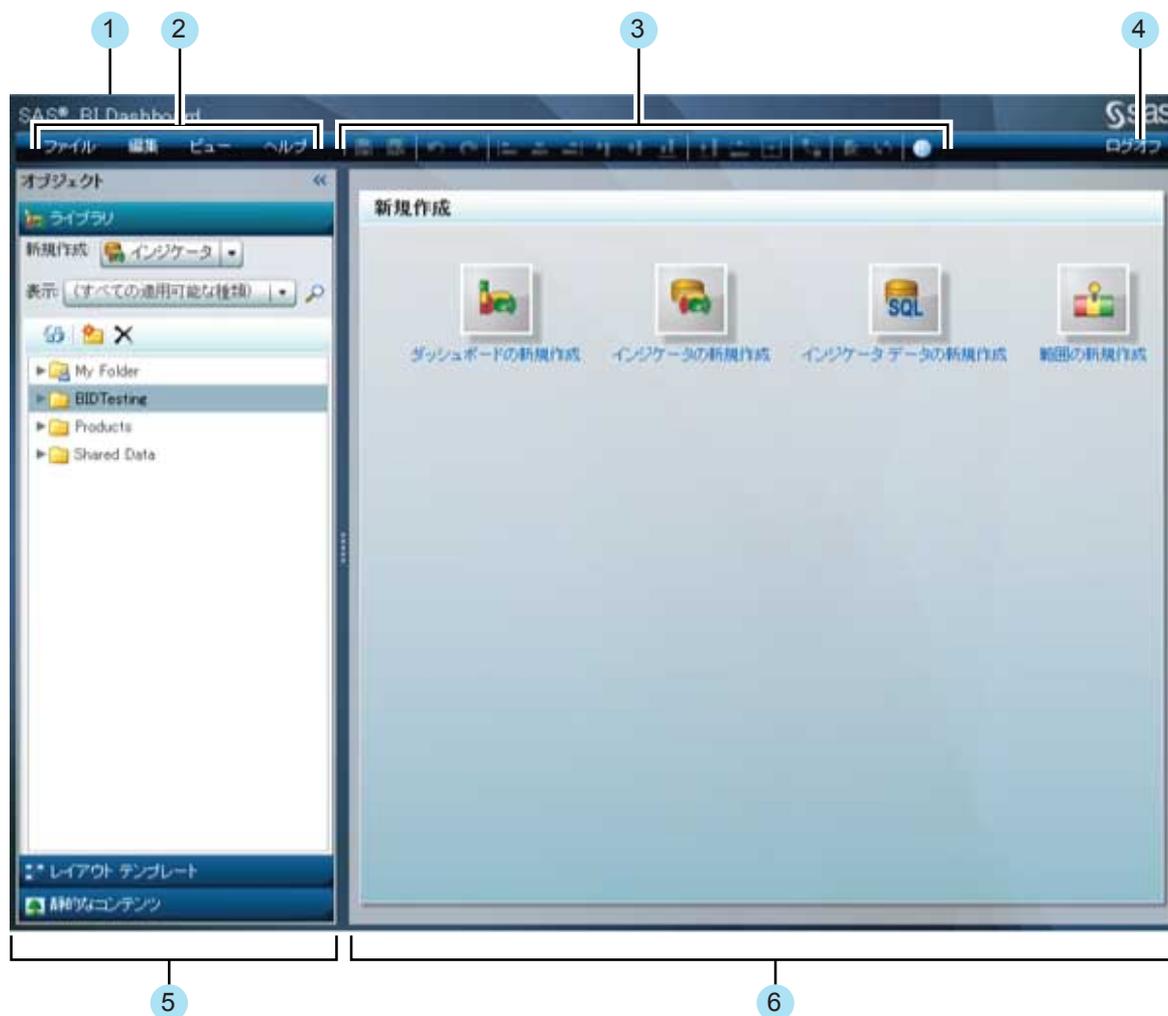
- SAS BI Dashboard ポートレットツールバーの をクリックします。

SAS BI Dashboard デザインインターフェイス

SAS BI Dashboard デザインインターフェイスの初期表示

次の図に、ダッシュボードデザイナーの基本的な機能を示します。

ヒント 全体のインターフェイスを表示するため、特にインジケータとダッシュボードの操作時は解像度を 1280 x 1024 に設定することをお勧めします。



- 1 バナー。
- 2 メニュー。詳細については、「メニュー」(47 ページ)を参照してください。
- 3 ツールバー。詳細については、「ツールバー」(48 ページ)を参照してください。
- 4 ログオフ。

注: SAS BI Dashboard デザインに Information Delivery Portal 経由でアクセスする場合、この機能には**ポータルに戻る**というラベルが付けられます。

- 5 オブジェクトペイン。詳細については、“[オブジェクトペイン](#)” (49 ページ)を参照してください。
- 6 ワークスペース。詳細については、“[ワークスペース](#)” (50 ページ)を参照してください。

メニュー

ダッシュボードデザイナメニューには、ダッシュボードのデザイン時に使用する次のタスクと機能が提供されます。

ファイル

- **新規作成。**新しいインジケータデータ、範囲、インジケータ、ダッシュボードを作成します。
- **開く。**既存するインジケータデータ、範囲、インジケータ、ダッシュボードを開きます。
- **閉じるとすべて閉じる。**
- **保存と名前を付けて保存。**
- **最新の情報に更新。**ワークスペースのダッシュボードまたはインジケータを最新の情報に更新します。

編集

- **元に戻す。**インジケータまたはダッシュボードに行った最終変更を取り消します。
- **やり直し。**インジケータまたはダッシュボードに行った、前に取り消した変更を実行します。
- **配置。**ダッシュボードのオブジェクトのレイアウトを左揃え、右揃え、下揃え、上揃え、横中央揃え、縦中央揃えのいずれかに配置します。配置ツールの詳細については、“[オブジェクトの配置とサイズ変更](#)” (95 ページ)を参照してください。
- **サイズ。**ダッシュボードまたはインジケータのオブジェクトを同じ高さ、同じ幅、同じ高さと同幅のいずれかにサイズ変更します。サイズ変更ツールの詳細については、“[オブジェクトの配置とサイズ変更](#)” (95 ページ)を参照してください。
- **相互作用の設定。**詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。

ビュー

- **ワークスペースの最大化。**オブジェクトペインとプロパティペインを折りたたんで、ワークスペースを最大サイズに展開します。
- **レイアウトガイドの表示。**ダッシュボードまたはインジケータのオブジェクトのレイアウトに役立つドットのグリッドを表示します。
- **ダッシュボードのプレビュー。**詳細については、“[ダッシュボードのプレビューを使用したダッシュボードのテスト](#)” (127 ページ)を参照してください。
- **ダッシュボードビューアの表示。**詳細については、4 章、“[ダッシュボードビューア](#)” (17 ページ)を参照してください。

ヘルプ

製品に関する情報と、SAS BI Dashboard 製品 Web ページへのリンクが提供されます。このページでは、製品ドキュメントとその他のサポート情報が提供されます。

また、このメニューには、SAS カスタマサポートと SAS ホームページへのリンクも含まれます。

ツールバー

ダッシュボードデザインツールバーには、ダッシュボードオブジェクトでよく使用されるタスク用に簡単にクリックできるアイコンが用意されています。

アイコン	説明
	ワークスペースで現在アクティブなタブのコンテンツを保存します。コンテンツとして、インジケータ、範囲、インジケータデータ、ダッシュボードが挙げられます。
	ワークスペースの現在アクティブなタブのコンテンツを新しい名前で保存します。コンテンツとして、インジケータ、範囲、インジケータデータ、ダッシュボードが挙げられます。
	インジケータまたはダッシュボードに行った最終変更を取り消します。
	インジケータまたはダッシュボードに行った、前に取り消した変更を実行します。
	最初に選択されたオブジェクトを使用して、ダッシュボードで選択されているオブジェクトのレイアウトを調整します。1つのオブジェクトのみ選択されている場合、ダッシュボードの左端(位置 0)に移動されます。配置ツールの詳細については、「 オブジェクトの配置とサイズ変更 」(95 ページ)を参照してください。
	最初に選択されたオブジェクトを使用して、ダッシュボードで選択されているオブジェクトのレイアウトを調整します。1つのオブジェクトのみ選択されている場合、ダッシュボードの横中央に移動されます。
	最初に選択されたオブジェクトを使用して、ダッシュボードで選択されているオブジェクトのレイアウトを調整します。1つのオブジェクトのみ選択されている場合、ダッシュボードの右マージンに移動されます。
	最初に選択されたオブジェクトを使用して、ダッシュボードで選択されているオブジェクトのレイアウトを調整します。1つのオブジェクトのみ選択されている場合、ダッシュボードの上マージンに移動されます。
	最初に選択されたオブジェクトを使用して、ダッシュボードで選択されているオブジェクトのレイアウトを調整します。1つのオブジェクトのみ選択されている場合、ダッシュボードの縦中央に移動されます。
	最初に選択されたオブジェクトを使用して、ダッシュボードで選択されているオブジェクトのレイアウトを調整します。1つのオブジェクトのみ選択されている場合、ダッシュボードの下マージンに移動されます。
	オブジェクトのサイズを同じ高さに変更します。現在選択されているオブジェクトの高さが使用されます。サイズ変更ツールの詳細については、「 オブジェクトの配置とサイズ変更 」(95 ページ)を参照してください。
	オブジェクトのサイズを同じ幅に変更します。現在選択されているオブジェクトの幅が使用されます。
	オブジェクトのサイズを同じ高さと同幅に変更します。現在選択されているオブジェクトの高さと幅が使用されます。

アイコン	説明
	相互作用の設定ウィンドウを開きます。詳細については、“ インジケータ間の相互作用の追加 ” (104 ページ)を参照してください。
	ダッシュボードのプレビューウィンドウに現在のダッシュボードを開きます。ダッシュボードデザイナーに戻るには、 閉じる をクリックします。詳細については、“ ダッシュボードのプレビューを使用したダッシュボードのテスト ” (127 ページ)を参照してください。
	ワークスペースのインジケータまたはダッシュボードを更新します。
	SAS BI Dashboard ビューアに現在のダッシュボードを開きます。詳細については、4 章、“ ダッシュボードビューア ” (17 ページ)を参照してください。

オブジェクトペイン

概要

ダッシュボードデザイナーのオブジェクトペインには、ライブラリ、レイアウトテンプレート、静的なコンテンツのセクションが表示されます。各セクションには、ダッシュボードの作成に使用できるオブジェクトが表示されます。

ライブラリセクション

ライブラリセクションには、SAS フォルダツリーと、インジケータデータ、範囲、インジケータ、ダッシュボードなど、利用可能なダッシュボードオブジェクトが表示されます。

- ツリーに表示されるオブジェクトをフィルタするには、**表示リスト**をクリックします。
- ツリーのオブジェクトを開くには、**ダブルクリック**します。オブジェクトは、ワークスペースの別々のタブに表示されます。
- ワークスペースにダッシュボードが開いている場合、セクションからワークスペースにオブジェクトをドラッグアンドドロップできます。
- ライブラリセクションを更新するには、 をクリックします。
- ツリーに新しいフォルダを作成するには、 をクリックします。
- ツリーからオブジェクトを削除するには、 をクリックします。

注: 削除できるのは、空のフォルダのみです。

レイアウトテンプレートセクション

レイアウトテンプレートセクションには、ダッシュボードのインジケータのフローを制御するテンプレートオブジェクトが表示されます。詳細については、“[テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト](#)” (100 ページ)を参照してください。

静的なコンテンツセクション

静的なコンテンツセクションには、ダッシュボード:ラベルとイメージの静的なコンテンツのオブジェクトが表示されます。詳細については、“[静的なコンテンツの追加による、他の情報へのリンク](#)” (99 ページ)を参照してください。

ワークスペース

ダッシュボードを作成する際、ワークスペースでダッシュボード作成に使用するオブジェクトを操作します。

ワークスペースのダッシュボード表示により多くの領域が必要な場合、**ビュー ⇨ ワークスペースの最大化**をクリックして、オブジェクトペインとプロパティペインを折りたたみます。または、各パネルの右上端の<<と>>をクリックできます。ペインを元の位置に戻すには、折りたたんだペインの>>と<<をクリックします。

プロパティペイン

概要

インジケータまたはダッシュボードを開くと、プロパティペインが表示されます。ダッシュボードデザイナーのプロパティペインには、ダッシュボード、インジケータ、静的なコンテンツに対するプロパティ設定が表示されます。

インジケータプロパティペイン

インジケータタブを表示している場合、プロパティペインには全般設定、表示設定、個人用設定のセクションが表示されます。

- 全般設定セクションの詳細については、“[インジケータのプロパティの設定](#)” (75 ページ)を参照してください。
- 表示設定セクションと各種インジケータの表示設定の詳細については、[付録 1, “インジケータディクショナリ”](#) (131 ページ)を参照してください。
- 個人用設定セクションの詳細については、[13 章, “アラートのカスタマイズ”](#) (119 ページ)を参照してください。

ダッシュボードプロパティペイン

ダッシュボードタブを表示している場合、プロパティペインはコンテキストに依存します。最初にダッシュボードを開くと、ダッシュボードオブジェクトのプロパティのみ表示されます。ダッシュボードセクションには、ダッシュボード固有のプロパティが表示されません。ダッシュボード内のオブジェクトを選択すると、そのオブジェクト固有の詳細プロパティがプロパティペインのオブジェクトセクションに表示されます。

- ダッシュボードプロパティの詳細については、“[ダッシュボードプロパティの設定](#)” (96 ページ)を参照してください。
- ダッシュボードオブジェクトプロパティの詳細については、“[ダッシュボードのインジケータとその他のオブジェクトのプロパティの設定](#)” (97 ページ)を参照してください。
- 静的なラベルと静的なイメージの使用例については、“[静的なコンテンツの追加による、他の情報へのリンク](#)” (99 ページ)を参照してください。

7 章

ダッシュボードのデザイン

概要	51
ダッシュボードとそのコンポーネント	51
フォルダ編成とコンポーネントファイル名	52
概要	52
コンポーネントファイル名	52
フォルダ編成	52
ダッシュボードのデザイン前に実行するステップ	53
ダッシュボードのデザイン	53

概要

SAS BI Dashboard デザイナでダッシュボードをデザインするには、次の概念を理解する必要があります。

- ダッシュボードを構成するコンポーネント
- フォルダ編成とコンポーネント名
- ダッシュボードで使用する情報やデータ

ダッシュボードとそのコンポーネント

ダッシュボードは、1 つ以上のインジケータと、ダッシュボードを拡張するラベルとイメージが含まれるコンテナです。ダッシュボードでは、一見して解釈や監視ができるような方法で重要な情報が表示されます。また、ダッシュボードには、Web ページ、レポート、その他のダッシュボードなどを含む、情報の追加種類へのリンクも含まれます。ダッシュボードは、SAS Information Delivery Portal 内のポータルページのポートレットまたはダッシュボードビューアに表示できます。

ダッシュボードは次のコンポーネントで構成されます。

- インジケータオブジェクト
- 静的なオブジェクト

インジケータには関連するインジケータデータが含まれ、範囲を含むインジケータもあります。

フォルダ編成とコンポーネントファイル名

概要

ダッシュボードのデザインを開始する前に、使用するフォルダ編成とファイル命名規則を確認します。

コンポーネントファイル名

コンポーネントファイルを保存すると、次のファイル拡張子が自動的に追加されます。

コンポーネント	ファイル拡張子
ダッシュボード	.dxc
インジケータ	.idx
インジケータデータ	.imx
範囲	.rdx

ヒント コンポーネントファイルの名前は変更できませんが、名前を付けて保存を使用すると、コンポーネントファイルのコピーに新しい名前を付けて保存できます。新しい名前を付けたファイルを使用する場合は、影響を受けるファイルを含む他のダッシュボードコンポーネントを更新する必要があります。たとえば、インジケータファイルを新しい名前で保存する場合は、そのインジケータを使用するすべてのダッシュボードでファイル名を更新する必要があります。

フォルダ編成

SAS BI Dashboard 4.3 以降では、次の場所に SAS BI Dashboard のストレージフォルダがあります。

- Foundation SAS Metadata Repository
- SAS Content Server

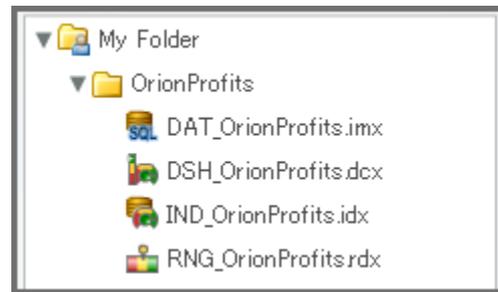
SAS BI Dashboard オブジェクトにはメタデータコンポーネントとコンテンツコンポーネントの両方が含まれるので、このストレージの実装が必要になります。

SAS BI Dashboard 4.3 以降では、選択した場所を使用して、SAS フォルダにダッシュボードコンポーネントファイルを保存できます。独自の命名規則と規格を使用できません。コンポーネントを、識別と使用が簡単なプロジェクトに編成できます。

ヒント ダッシュボードオブジェクトを含むフォルダを編成する際、どのフォルダのオブジェクトも 100 を超えないようにします。個々のフォルダのオブジェクト数が約 100 未満の場合、フォルダ移動の応答時間は 1 秒以内に保たれます。

コンポーネントファイルの編成と命名には十分な柔軟性がありますが、同一フォルダにダッシュボードのコンポーネントファイル(インジケータデータ、範囲、インジケータ、ダッシュボード)をすべて保存することをお勧めします。同じ名前を、ダッシュボードに使用するフォルダに使用します。

図 7.1 推奨される SAS フォルダ構造



ダッシュボードのデザイン前に実行するステップ

SAS BI Dashboard デザイナによって、ダッシュボードの作成が以前よりも簡単になりました。しかし、ダッシュボードデザイナを使用する前に、ダッシュボードのデザインを検討する必要があります。

1. ダッシュボードで伝達する情報の種類の決定
2. ダッシュボードに表示するインジケータの選択
3. 必要なデータソースの検索または定義

選択したインジケータによって、ダッシュボードの構築に必要なデータの種類の種類が決定されます。新しいデータソース、計算フィールドまたは要約テーブルの作成が必要になる場合もあります。

ダッシュボードのデザイン

ダッシュボードをデザインするには、次のステップを実行する必要があります。

1. インジケータデータを定義します。

インジケータデータの作成の詳細ステップについては、「[インジケータデータの作成](#)」(59 ページ)を参照してください。

注: インジケータデータオブジェクトを作成する前に、新しい Information Map、要約テーブルまたは Stored Process の作成が必要になる場合があります。詳細については、8 章、「[インジケータデータの定義](#)」(55 ページ)を参照してください。

2. 必要に応じて、範囲を作成します。

範囲の作成の詳細ステップについては、「[範囲の作成](#)」(69 ページ)を参照してください。

注: 範囲が不要なインジケータを選択することも可能です。詳細については、「[範囲をサポートするインジケータの種類](#)」(67 ページ)を参照してください。

3. インジケータを 1 つ以上作成します。

インジケータの作成の詳細ステップについては、10 章、「[インジケータの操作](#)」(73 ページ)を参照してください。

4. ダッシュボードを作成してコンテンツをレイアウトします。
詳細については、11章, “[ダッシュボードコンテンツのレイアウト](#)” (91 ページ)を参照してください。
5. ダッシュボードとその機能をテストします。
詳細については、14章, “[ダッシュボードのテスト](#)” (127 ページ)を参照してください。

8 章

インジケータデータの定義

概要	55
データフローとダッシュボード	56
インジケータデータの定義のガイドライン	56
インジケータに適合するようにデータを定義	56
効率的で反応が早いダッシュボードのデータのデザイン	57
データの集計または要約	57
その他のガイドライン	58
インジケータデータに使用する Stored Process の作成	59
インジケータデータの作成	59
インジケータデータの編集	65
データ列の表示属性	65

概要

SAS BI Dashboard のインジケータデータオブジェクトによって、インジケータのデータを取得するデータソースおよびクエリが定義されます。

注: 以前は、インジケータデータはデータモデルと呼ばれていました。

主要なオブジェクトはインジケータです。ダッシュボードは単なるインジケータのコレクションです。1つのインジケータに、複数のインジケータデータは含まれません。また、インジケータデータなしで使用されることもほとんどありません。SAS BI Dashboard では、次の4種類のデータソースの使用がサポートされています。

- リレーショナルデータと OLAP キューブにアクセスできる SAS Information Map
- 各種データにアクセスできる SAS Stored Process

注: SAS BI Dashboard では、WORK データセットを生成してアーカイブ(SPK パッケージ)にパブリッシュする特定の種類の Stored Process が使用されます。

- リレーショナルデータにアクセスできる SQL クエリ
- SAS メタデータに登録されている SAS データセットのデータにアクセスできるテーブル

注: SAS BI Dashboard 管理者は、その他のデータソースのアクセスを追加できます。

データフローとダッシュボード

ダッシュボードを作成する前に、インジケータデータの作成方法を理解する必要があります。SAS BI Dashboard のデータフローを理解すると、組織の BI システム内で効率的に動作する企業ダッシュボードを作成できます。

比較的単純なフローが多いレポートのデータフローとは異なり、ダッシュボードのデータフローには非常にさまざまなフローが可能です。自動車のダッシュボードを考えます。自動車の状態は一見して確認できますが、実際には、ダッシュボードが受け取るさまざまな種類のデータのコレクションです。たとえば、燃料計は燃料タンク、速度計は車輪、バッテリーゲージはバッテリーからそれぞれデータを受け取ります。自動車のダッシュボードと同様、SAS BI Dashboard にはさまざまなデータソースを含めることができます。

SAS Web Report Studio で作成されるレポートでは 1 つの Information Map のデータが複数の画面に表示されるのに対して、ダッシュボードでは SQL クエリ、JDBC クエリ、Information Map の結果データが小さい領域に表示されます。静的なイメージを生成する Stored Process の出力をダッシュボードに表示することもできます。

データの取得に Information Map と SQL クエリを使用すると、データの配置方法はデータセットレベルでは制約されません。たとえば、インジケータデータに計算列とグループ化を使用できます。データの構成後、制約がないため、ダッシュボードを迅速に初期設定できます。

インジケータデータの定義のガイドライン

インジケータに適合するようにデータを定義

インジケータに適合するようにデータを定義するには、次のガイドラインに従います。

- インジケータデータに使用されるインジケータの種類と、その結果作成されるインジケータに要求されるデザインを確認します。次に、ニーズを満たすインジケータデータを計画します。

たとえば、KPI インジケータのゲージは、要約データが作成されてデータ行数が限られるインジケータデータに最適であると考えられます。大量データを含むインジケータデータを使用して KPI インジケータを作成する場合、SAS BI Dashboard ではインジケータデータのデータ行ごとに 1 つの KPI ゲージの作成が試行されます。大量データの場合、データが自動的に要約されるインジケータの種類をお勧めします。この種類のインジケータの例には、棒グラフがあります。

- KPI インジケータに単一ゲージを表示するには、インジケータデータが単一データ行を返す必要があります。
- 1 つの KPI インジケータに複数のゲージを表示するには、各数値に分かりやすい名前を関連付ける必要があります。インジケータデータを定義したら、インジケータに含めるデータフィールドを選択します。
- インジケータの種類によっては特定の日付の出力形式しかサポートされない場合があります。選択したインジケータの種類でサポートされている日付の出力形式のみデータに使用されるようにします。インジケータでサポートされていない出力形式をデータに使用すると、インジケータの日付が正しく表示されない場合があります。

インジケータの種類でサポートされる日付の出力形式を確認するには、ダッシュボードデザイナーに選択した種類のインジケータを開きます。プロパティペインの表示設定セクションで、任意の出力形式リスト(X軸の出力形式リストやY軸の出力形式リストなど)にて使用可能値を確認します。

注: すべてのインジケータの種類で、日付の出力形式の設定が使用されているわけではありません。

効率的で反応が早いダッシュボードのデータのデザイン

迅速に実行されるようにインジケータデータを作成します。

- 1 つでも時間がかかるインジケータデータセットがあると、ダッシュボード全体の速度が低下する場合があります。インジケータデータが返すデータ行が 1 行の場合でも、各テーブルにデータが何千行も含まれるテーブルを最初に結合する必要があると、インジケータデータの実行は遅くなります。
- Information Map は、データにフィルタを適用できるため有益です。ただし、フィルタが不要な場合は、インジケータデータから、メタデータに登録されているテーブルを直接参照できます。
- (Information Map データソース)インジケータデータオブジェクトを開くと、クエリ結果タブにデータが挿入されます。クエリ結果の表示に時間がかかるのであれば、効率を高めるために、データの要約や Information Map の変更を検討することが示唆されていると言えます。クエリは、インジケータデータオブジェクトの定義時に時間がかかる場合は、ダッシュボードからの実行時にも時間がかかります。
- (Information Map データソース) Information Map が SAS Web Report Studio レポート専用に構築されている場合は、ダッシュボード向け専用の Information Map の構築を検討してください。これにより、Information Map をダッシュボード用に最適化できます。

データの集計または要約

最良の方法は、データをできる限り集計することです。これにより、ダッシュボードで最良のパフォーマンスが確保され、行やゲージの過多、または不正確な要約などの予想外の結果を避けられます。

注意:

データソースから返されるデフォルト最大行数は 10,000 です。ソースデータの行が 10,000 を超える場合、調整に関するエラーメッセージが表示されます。可能な場合、返す行数を減らすようにデータを集計します。

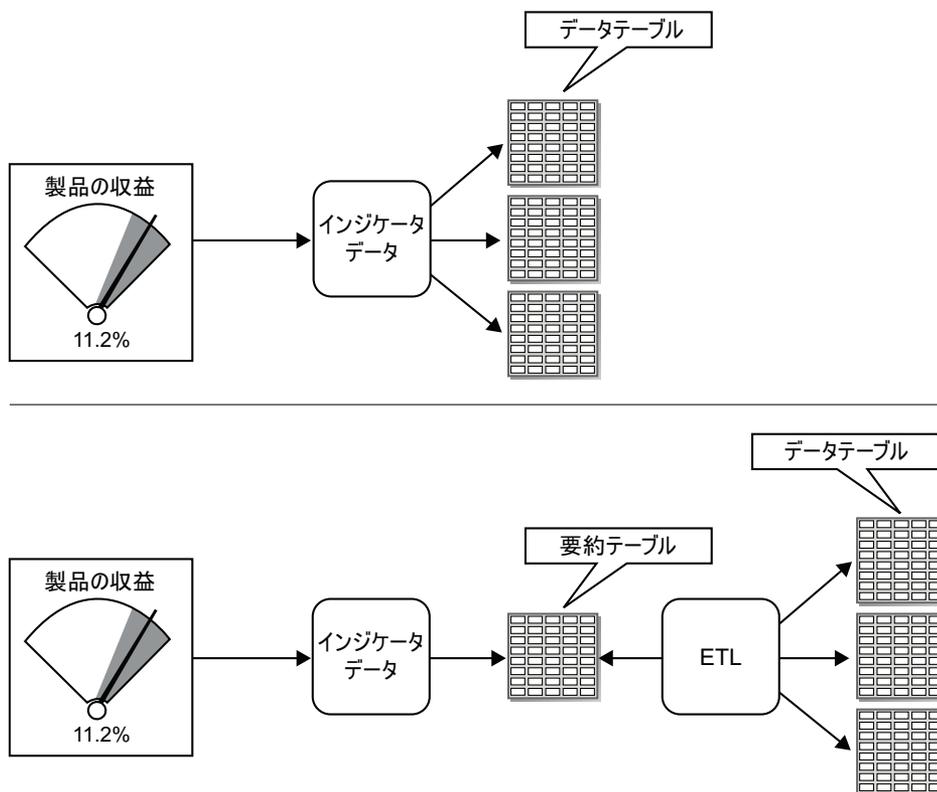
- ソースデータに非常に多くの行が含まれる場合、データを要約します。

インジケータデータまたはソースデータにてデータを要約します。要約の実行をインジケータに依存しないようにします。

ヒント SQL クエリの場合、AVG()などの集計関数と個別のキーワードを使用してデータを要約できます。

別の方法として、要約テーブル内にデータを要約する方法があります。要約テーブルは、SQL クエリの基準または Information Map の基準テーブルとして使用されます。次の 1 番目の図は、複数のテーブルのデータを結合するクエリを使用する SAS BI Dashboard のインジケータデータを示します。2 番目の図は、ETL プログラムにより要約される同一の 2 つのテーブルを示します。SAS BI Dashboard のインジケータデータは、この要約テーブルを使用します。

図 8.1 データ要約の別の方法



1 番目の方法はより設定が簡単で、タイムリなデータが得られる可能性があります。2 番目の方法は、より柔軟性が高く、より拡張性に優れています。SAS BI Dashboard のインジケータデータにより使用される Information Map を作成する際、同様のストラテジを使用できます。

- (Information Map データソース)クエリで選択する列の数を減らせば、行が制限されたり、行が増えすぎて非効率になることを避けられます。
- (Information Map データソース)Information Map データソースでは、データが容易に、そして、1 つの Information Map で複数のダッシュボードインジケータを作成できるような柔軟性を備えて集計されます。
- インジケータの種類によっては、データの要約や平均をサポートするものもあります。このインジケータの種類については、[付録 2, “データを集計するインジケータの種類” \(241 ページ\)](#)を参照してください。

その他のガイドライン

- (SQL クエリデータソース)LIBNAME は事前に割り当てておく必要があります。
- (SQL クエリデータソース)SQL クエリデータソースを定義する際、データソースからデータを取得するクエリを作成します。クエリを作成したら、クエリをサブミットして検証します。クエリが正しくない場合、リストは空で、エラーメッセージが表示されます。
- (OLAP Information Map データソース) OLAP Information Map から返されたデータは、2 次元テーブル構造に変換されます。データソースを定義する際、各ディメンションの役割を割り当てます。役割は、列、行、スライサです。

注: 行の役割は、1 つ以上のデータ列に割り当てる必要があります。

ディメンションに行の役割を割り当てた場合、各階層のレベルがデータフィールドです。レベルの対応するメンバは、フィールド名がレベルのラベルであるデータフィールドの値です。その他のデータフィールドは、通常 OLAP ビューアに表示される列です。データフィールドのフィールド名は、行の役割が割り当てられたディメンションの順である、列の役割が割り当てられたディメンションのカンマ区切りのレベルです。

ヒント 参照線インジケータ付き棒グラフのグループ化機能を OLAP Information Map に使用して、データの多次元表示を作成できます。

インジケータデータに使用する Stored Process の作成

SAS BI Dashboard でインジケータデータのソースとして使用できる SAS Stored Process を作成するには、通常、次のステップを実行します。

注: これらの Stored Process では、表示出力は作成されません。Stored Process を使用してカスタムグラフインジケータのイメージを作成する場合は、“[例: Stored Process を使用するカスタムグラフの作成](#)” (86 ページ)を参照してください。

1. 次の処理を行う Stored Process コードを作成します。
 - a. SAS Work ライブラリへの SAS データセットの作成。
 - b. SAS Publishing Framework を使用した、SAS Package ファイルへのデータのパブリッシュ。
 - c. マクロ変数 `_ARCHIVE_FULLPATH` への、Stored Process で生成されるアーカイブファイルのパスの設定。

注: この Stored Process では、次の処理は行わないようにします。

- `%STPBEGIN` マクロと `%STPEND` マクロの挿入。
 - HTML 出力の生成。SAS BI Dashboard では、HTML コンテンツの表示はサポートされません。
2. SAS 管理コンソールで、Stored Process を SAS メタデータに登録して、パッケージの作成時にこの Stored Process を指定し、ターゲットデータを指定します。
ターゲットデータの指定方法については、SAS 管理コンソールオンラインヘルプを参照してください。
 3. Stored Process のメタデータ登録を保存します。

Stored Process をインジケータデータで使用できるようになりました。

ヒント これらの Stored Process は、SAS BI Dashboard でデータソースとして使用するための Stored Process であることを示すフォルダに保存します。これにより、Stored Process の種類の混在による混乱が解消され、正しい Stored Process の種類を簡単に見つけられるようになります。

インジケータデータの作成

インジケータデータを作成するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行します。

注: ワークスペースにタブが開いている場合は終了します。

1. ワークスペースで、をクリックします。
2. **インジケータデータの作成**ウィンドウで、インジケータデータコンポーネントに使用する名前を入力します。
3. **OK**をクリックします。入力した名前を持つタブが、ワークスペースに表示されません。
4. **データソース**リストから、インジケータデータに使用するデータの種類をクリックします。

Information Map	ステップ 5 に進みます。
SQL クエリ	ステップ 6 に進みます。
Stored Process	ステップ 7 に進みます。
テーブル	ステップ 8 に進みます。

注意:

データソースから返されるデフォルト最大行数は **10,000** です。ソースデータの行が 10,000 を超える場合、調整に関するエラーメッセージが表示されます。可能な場合、返す行数を減らすようにデータを集計します。

5. **Information Map** を選択した場合、次のステップを実行します。

- a. **クエリフィールド**に、使用する SQL クエリコードを入力します。
 - b. **ステップ 9**に進みます。
7. **Stored Process** を選択した場合、次のステップを実行します。

使用するデータソースの種類を選択します。

データソース: * Stored Process

Stored Process

使用するデータセットと Stored Process を選択します。クエリの変更を適用 をクリックして、プレビューにクエリ結果を表示します。

Stored Process: * 参照...

パブリッシュするデータセット名: * ▼

常に SAS ログをサーバーログに追加する

クエリの変更を適用

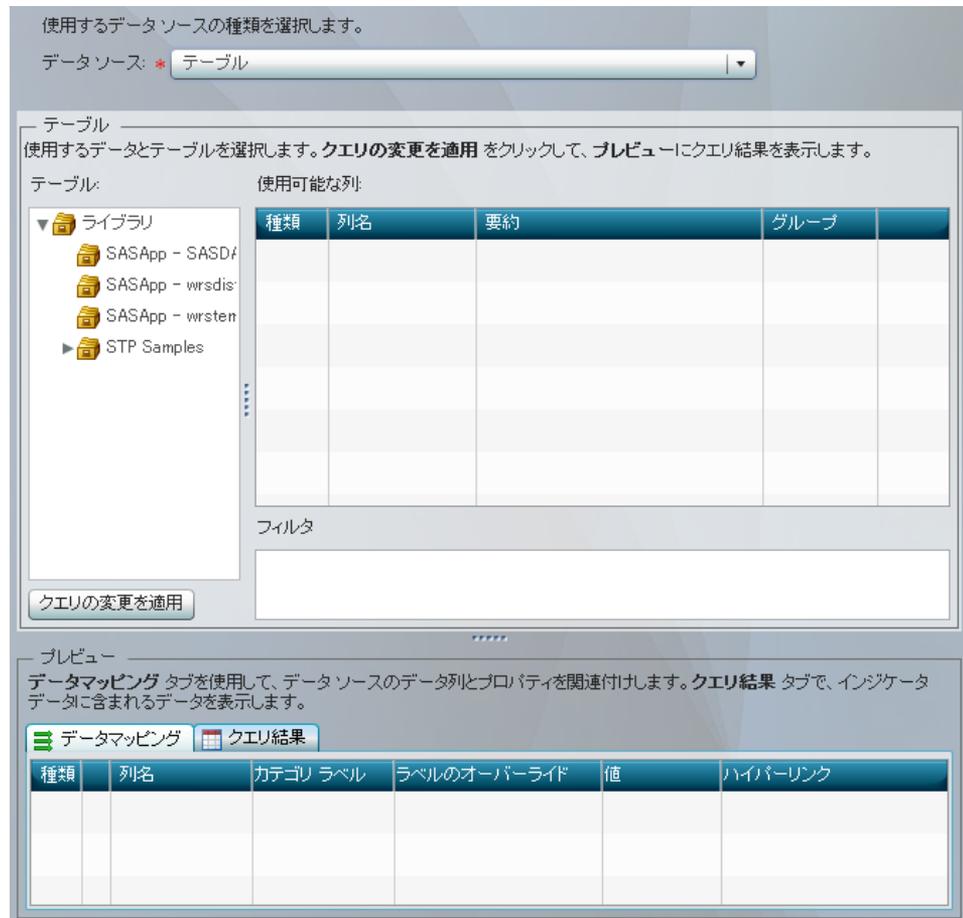
プレビュー

データマッピング タブを使用して、データソースのデータ列とプロパティを関連付けします。クエリ結果 タブで、インジケータデータに含まれるデータを表示します。

データマッピング クエリ結果

種類	列名	カテゴリ	ラベル	ラベルのオーバーライド	値	ハイパーリンク

- a. **Stored process** フィールドの横にある**参照**をクリックします。**開く**ウィンドウが表示されます。
 - b. **Stored Process** に移動して**選択**し、**開く**をクリックします。
 - c. **パブリッシュするデータセット名**リストから、データセットを選択します。
注: **Stored Process** でデータセットが作成されていない場合、その **Stored Process** が**選択**されるとエラーメッセージが表示されます。
 - d. (オプション)**SAS ログをサーバーログに追加するには、常に SAS ログをサーバーログに追加する**をクリックします。
注: このオプションを選択すると、後から **SAS ログ情報**を確認できます。
 - e. **ステップ 9**に進みます。
8. **テーブル**を選択した場合、次のステップを実行します。



- a. テーブルツリーで、テーブルを選択します。テーブルのデータ列は、**使用可能な列**テーブルに表示されます。
- b. **使用可能な列**テーブルで、行の最後にあるチェックボックスをクリックすることにより、インジケータデータに含めるデータ列を選択します。
- c. 選択したデータ列ごとに、データの要約方法を**要約列**から選択します。

ヒント デフォルトでは、(なし)を選択しない限り、すべての数値列が要約されます。要約は、日付値、時間値および日時値に対して、不適切な結果を作成します。これらの値に(なし)を選択すると要約されなくなることに注意します。

- d. 選択したデータ列ごとに**グループ化**列のチェックボックスをクリックすることにより、データをグループ化するかどうかを選択します。
- e. 追加フィルタを指定するには、(SQL 構文を使用して)**フィルタ**フィールドにフィルタを入力します。

注: キーワード `where` を入力しないでください。 `where` は自動的に挿入されるため、エラーが発生します。

9. **クエリの変更を適用**をクリックします。デザインの**プレビュー**領域の**データマッピング**タブと**クエリ結果**タブが、データで更新されます。



10. インジケータデータに含めるデータを表示するには、**クエリ結果タブ**をクリックします。



11. データポイントプロパティをデータソースのデータ列に関連付けるには、データポイントプロパティごとに**データマッピングタブ**で次のステップを実行します。

注: 詳細については、“**データ列の表示属性**” (65 ページ)を参照してください。



- 列名列の横で、インジケータに含める各データポイントプロパティの横にあるチェックボックスをクリックします。
- ラベルのオーバーライドフィールドに、データポイントプロパティで列名列のラベルの代わりに使用するラベルを入力します。
- 値フィールドに、元の値に出力形式が適用された値を含む列の名前を選択します。

注: KPI インジケータのサブタイプがゲージの場合、各ゲージの下部にこの値が表示されます。また、ゲージのツールチップにも値が表示されます。

- ハイパーリンクリストから、データポイントプロパティのハイパーリンクが入ったデータソースのデータ列を選択します。

- ファイル ⇒ 保存をクリックします。
- 名前をつけて保存ウィンドウで、名前を入力して、Products ⇒ BI Dashboard 4.3 ⇒ DashboardConfigs などの場所を選択します。
- 保存をクリックします。

15. オブジェクトペインのライブラリセクションで、**名前を付けて保存**ウィンドウで選択した場所に移動します。インジケータデータファイルが、このディレクトリに保存されています。
注: ファイル名は、指定した名前が使用されています。ファイル拡張子は .imx です。
16. ワークスペースのインジケータデータタブを閉じます。

インジケータデータの編集

インジケータデータを編集するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行します。

1. オブジェクトペインのライブラリセクションで、**表示リストからインジケータデータ**を選択します。
2. 編集するインジケータデータファイルの場所に移動して、ファイル名をダブルクリックします。ワークスペースにインジケータデータタブが表示されます。
3. インジケータデータの編集を完了するには、“[インジケータデータの作成](#)” (59 ページ)のステップ 4 から 16 を参照してください。

データ列の表示属性

インジケータデータを定義する際、取得する各データ列の表示属性も指定します。これらのフィールドの説明を次に示します。

列名

データ列の名前。この値は変更できません。

インジケータの各種類で、**列名**は**ラベルのオーバーライド**のデフォルト値として使用されます。

カテゴリラベル

無視します。以前のバージョンの SAS BI Dashboard との下位互換のために保持されています。

ラベルのオーバーライド

列名によって提供された値をオーバーライドします。よりわかりやすく記述的な名前を列に付ける場合に使用します。

次の表に、一部のインジケータの種類での**ラベルのオーバーライド**の表示を示します。

インジケータの種類	ラベルのオーバーライドの表示
すべてのインジケータの表示設定	列名 の選択項目が提供されるリストに表示されます。
カスタムグラフ	ツールチップテキスト内、コロンの左側に表示されます。

インジケータの種類	ラベルのオーバーライドの表示
ダイナミックプロンプト	ゲージがプロンプトに表示される場合、ラベルのオーバーライドはそのゲージのツールチップには表示されません。
各種グラフインジケータ	グラフやグラフツールチップで使用されている、元の 列名 の値と置換します。
スパークテーブル	テーブルの列ヘッダーに表示されます。
ツールチップ	元の 列名 の値と置換します。

値

表示されるフォーマットされた値を含むデータ列。この列はオプションです。

次の表に、一部のインジケータの種類での**値**の表示を示します。

インジケータの種類	値の表示
一部のグラフインジケータ	ターゲット棒グラフ、参照線付き棒グラフ、参照線付き折れ線グラフなどの一部のインジケータで X 軸ラベルとして表示されます。
カスタムグラフ	範囲値として、ツールチップテキスト内、コロンの右側に表示されます。
ダイナミックプロンプト	コンボボックスの値として表示されます。ツールチップテキストには表示されません。
ダイナミックテキスト	列が範囲データソースとして選択されている場合に、静的なテキスト値として表示されます。
KPI	ツールチップテキストに範囲値として表示されます。また、ゲージの下の値として表示されます。
散布図と Range Map	ポイントラベルに表示されます。
スパークテーブル	列の値として表示されます。

ハイパーリンク

ハイパーリンクを含むデータ列。

インジケータの種類ごとに、ハイパーリンクはゲージまたはグラフの各データポイントに埋め込まれます。

9 章 範囲の定義

概要	67
範囲をサポートするインジケータの種類	67
範囲の作成	69
範囲の編集	71

概要

範囲により、目標を下回る、目標通り、目標を上回るなど、メジャーの評価基準となる測定間隔を定義します。範囲を使用すると、データ値をグループに分けられます。また、範囲により、グループごとに使用できるラベルや色のオプションを設定できます。

範囲をサポートするインジケータの種類

インジケータのすべての種類で範囲を定義することが必要であるというわけではありません。次の表に、インジケータにおける範囲の要件を示します。

注: 範囲を関連付けたインジケータにのみアラートを定義できます。アラートの定義の詳細については、13 章, “アラートのカスタマイズ” (119 ページ) を参照してください。

インジケータの種類	範囲		
	必須	オプション	適用外
棒グラフ(ピュレット)	X		
参照線付き棒グラフ	X		
バブルプロット			X
スライド表示のチャート			X
集合棒グラフ			X
カスタムグラフ		X ¹	

インジケータの種類	範囲		
	必須	オプション	適用外
折れ線グラフ(2本線)			X
ダイナミックプロンプト		X ¹	
ダイナミックテキスト		X	
予測グラフ			X
対話型要約と棒グラフ	X		
対話型要約と散布図	X		
対話型要約とターゲット棒グラフ	X		
KPI	X		
参照線付き折れ線グラフ	X		
ニードルプロット			X
円グラフ			X
Range Map	X		
散布ヒストグラム			X
散布図	X		
スケジュールチャート			X
棒グラフ			X
スパークテーブル		X	
積み上げ棒グラフ			X
ターゲット棒グラフ	X		
タイルチャート	X		
ベクトルプロット	X		
ウォーターフォールチャート	X		

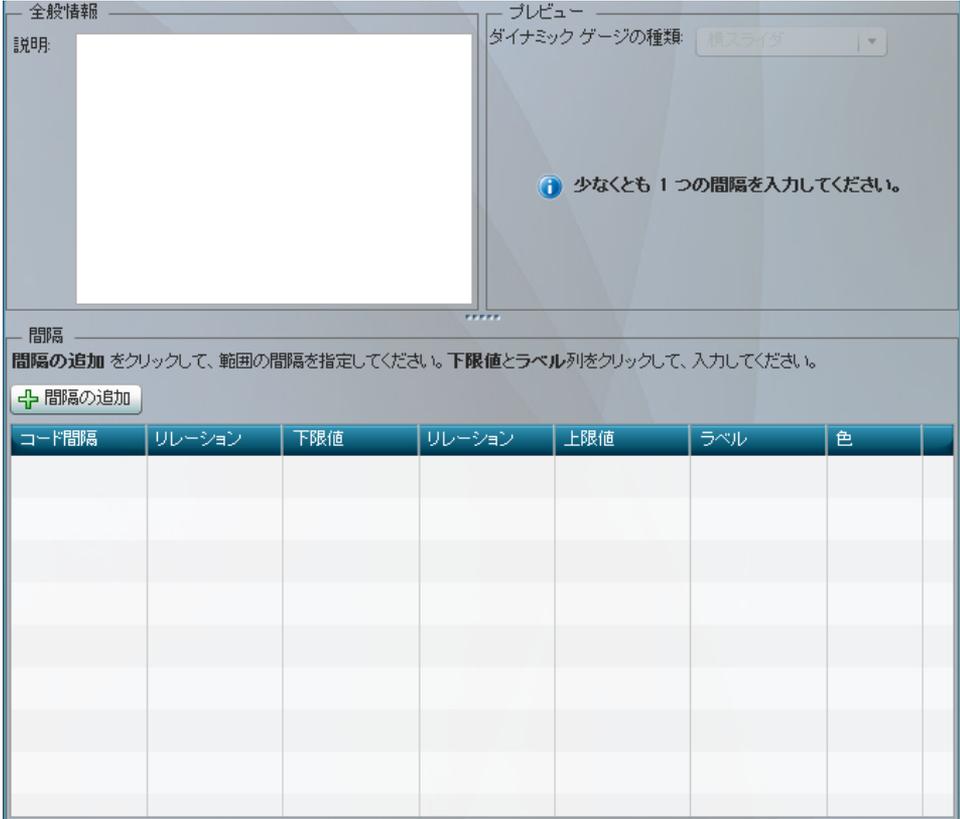
¹ カスタムグラフインジケータに使用するインジケータデータも選択する場合は、範囲が必要です。

¹ ダイナミックプロンプトインジケータを作成する際は、範囲が必須です。ただし、範囲が使用されるのは、コンボボックス(ゲージ)プロパティを選択する場合のみです。選択しない場合、範囲は使用されません。

範囲の作成

範囲を作成するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行します。

1. ワークスペースで、をクリックします。
2. **範囲の作成**ウィンドウで、範囲コンポーネントに使用する名前を入力します。
3. **OK** をクリックします。入力した名前を持つタブが、ワークスペースに表示されま
す。



全般情報

説明:

プレビュー

ダイナミック ゲージの種類: 横スライダ

i 少なくとも 1 つの間隔を入力してください。

間隔

間隔の追加 をクリックして、範囲の間隔を指定してください。下限値とラベル列をクリックして、入力してください。

+ 間隔の追加

コード間隔	リレーション	下限値	リレーション	上限値	ラベル	色

4. (オプション) **説明**フィールドに、範囲の説明を入力します。
5. 範囲に追加する各間隔に対し、次のステップを実行します。
 - ヒント** 間隔は、任意の順序で追加できます。追加された間隔は、ソフトウェアにより正しい順序でテーブル内に配置されます。
 - a. **間隔の追加** をクリックします。**間隔の追加**ウィンドウが表示されます。
 - b. **上限**フィールドに数値間隔値を入力し、**OK** をクリックします。間隔が間隔テーブルに追加されます。

注: 有効な入力値には、記号、数字、およびロケールによって決まる小数点区切り文字などがあります。
6. 各間隔に対し、テーブルで次のステップを実行し、その間隔を定義します。

全般情報

説明

プレビュー

ダイナミック ゲージの種類 横スライダ

625

50 500 750 1000

最初と最後の間隔は、このゲージの種類に表示されません。

間隔

間隔の追加 をクリックして、範囲の間隔を指定してください。下限値とラベル列をクリックして、入力してください。

+ 間隔の追加

コード間隔	リレーション	下限値	リレーション	上限値	ラベル	色	
目標を下回			<	50	目標を下回る		✕
目標を下回	>=	50	およびく	500	目標を下回る		✕
目標通り	>=	500	およびく	750	目標通り		✕
目標を上回	>=	750	およびく	1,000	目標を上回る		✕
目標を上回	>=	1,000			目標を上回る		✕

- a. 固定ゲージの場合、コード間隔列のリストからコード間隔を選択します。
注: 選択できる間隔は、ゲージによって異なります。
 - b. リレーション列のリストから演算子を選択し、隣接する下限値列に値を指定します。
 - c. ラベル列で、セル内をクリックしてラベルを入力します。
 - d. 色列をクリックして、カラーパレットから色を選択します。
注: ユーザー定義の色範囲は、次のインジケータでは使用されません。
 - ダイナミックではない KPI インジケータのサブタイプ。ダイナミックが名前に含まれないサブタイプが該当します。
 - スパークテーブル列に表示される非ダイナミックゲージの種類
 - e. 間隔を削除するには、間隔の隣の✕をクリックします。
7. 範囲の表示をプレビューするには、ダイナミックゲージの種類リストからゲージの種類を選択します。
- ヒント** プレビュー領域により、各種のダイナミックゲージでの範囲の表示を簡単に確認できます。ただし、一部のゲージの種類では、範囲の上限セグメントと下限セグメントが表示されません。
8. ファイル ⇒ 保存をクリックします。
 9. 名前を付けて保存ウィンドウで、名前を入力して、Products ⇒ BI Dashboard 4.3 ⇒ DashboardConfigs などの場所を選択します。
 10. 保存をクリックします。
 11. オブジェクトペインのライブラリセクションで、名前を付けて保存ウィンドウで選択した場所に移動します。範囲ファイルがこのディレクトリに保存されています。

注: ファイル名には、指定した名前が使用されています。ファイル拡張子は.rdx です。

12. ワークスペースの範囲タブを閉じます。

注: SAS BI Dashboard 管理者は、範囲を使用できるユーザーを管理できます。詳細については、SAS Management Console オンラインヘルプを参照してください。

範囲の編集

範囲を編集するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行します。

1. オブジェクトペインのライブラリセクションで、表示リストから**範囲**を選択します。
2. 編集する範囲ファイルの場所へ移動してから、ファイル名をダブルクリックします。範囲タブがワークスペースに表示されます。
3. 範囲の編集を完了するには、“[範囲の作成](#)” (69 ページ)のステップ 4 から 12 を参照してください。

10 章

インジケータの操作

概要	73
インジケータの作成	74
インジケータのプロパティの設定	75
インジケータの高さと幅の指定	75
インジケータの種類の変更	76
グラフスタイルの指定	76
使用するインジケータデータの変更	77
使用する範囲の変更	77
並べ替え順序の指定	77
インジケータのデータ表示方法の指定	77
インジケータアラートのカスタマイズ	78
インジケータのリンクの定義	78
KPI インジケータのカスタマイズ	78
例: スパークテーブルの作成	81
概要	81
使用するインジケータデータの特定	82
スパークテーブルインジケータの作成	83
例: Stored Process を使用するカスタムグラフの作成	86
概要	86
Stored Process の作成	86
カスタムグラフインジケータの作成	87
インジケータの保存	88
インジケータの編集	89

概要

インジケータは、ダッシュボードに表示されるメジャーの表示設定、イメージの種類およびリンクを定義するオブジェクトです。

ダッシュボードにはインジケータを 1 つ以上含められます。SAS BI Dashboard では、25 種類を超えるインジケータを使用できます。各インジケータを選択してカスタマイズし、最も組織に適した方法でデータを表示できます。インジケータの種類には、それぞれ固有の表示設定があります。インジケータのデータ表示は、表示設定のカスタマイズに応じて大きく異なる場合があります。

ヒント 付録 1, “インジケータディクショナリ” (131 ページ)に、各インジケータの種類
の表示設定についての詳細情報が記載されています。ダッシュボードのインジケ
ータを作成する前に、ディクショナリとその例を探索するようにします。

インジケータの作成

インジケータを作成するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行しま
す。

1. ワークスペースで、をクリックします。インジケータの作成ウィンドウが表示さ
れます。



2. **名前**フィールドに名前を入力します。
3. **表示の種類**リストから、使用するインジケータの種類を選択します。

注:

- インジケータの表示の種類については、付録 1, “インジケータディクショナ
リ” (131 ページ)を参照してください。
- インジケータの種類は後でいつでも変更できます。詳細については、“**イン
ジケータの種類の変更**” (76 ページ)を参照してください。
- 選択に応じて、**インジケータの作成**ウィンドウに追加コントロールが表示さ
れる場合があります。

4. KPI を選択した場合は、KPI で使用するゲージの種類を**ゲージの種類**リストから
選択します。
5. 使用するインジケータデータを指定します。

注: インジケータの種類によっては、インジケータデータが不要なものもあります。

既存のインジケ
ータデータ **インジケータ データ**フィールドの横にある**参照**をクリックし、インジケ
ータデータに移動して開きます。

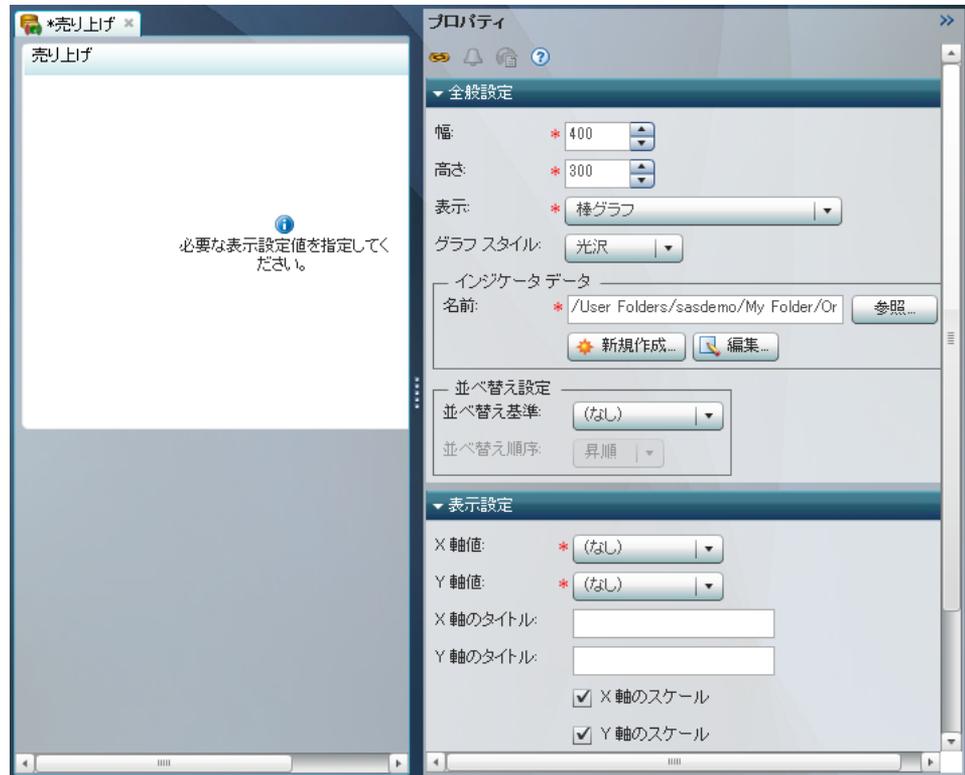
新規のインジケ
ータデータ **インジケータ データ**フィールドの横にある**新規作成**をクリックします。
詳細については、8 章, “**インジケータデータの定義**” (55 ページ)を参
照してください。

6. **範囲**の使用をサポートするインジケータの種類を選択した場合は、使用する**範囲**
を指定します。

既存範囲 **範囲**フィールドの横にある**参照**をクリックし、範囲ファイルに移動して
開きます。

新規範囲 範囲フィールドの横にある**新規作成**をクリックします。詳細については、“[範囲の作成](#)” (69 ページ)を参照してください。

7. 次のインジケータの種類を選択した場合は、X 軸範囲と Y 軸範囲を指定します。
 - 対話型要約と散布図
 - Range Map
8. **OK** をクリックします。ワークスペースにインジケータタブが開きます。プロパティペインを使用して、インジケータの追加設定と機能を指定します。詳細については、“[インジケータのプロパティの設定](#)” (75 ページ)を参照してください。



インジケータのプロパティの設定

インジケータの高さと幅の指定

インジケータの高さと幅は次の方法で変更できます。

- ワークスペースでインジケータをクリックして、サイズ変更ハンドルをドラッグします。
- プロパティペインの全般設定セクションで、高さフィールドと幅フィールドの値を編集して、高さと幅を変更します。

インジケータの高さと幅を設定する際は、次の点に注意します。

- この高さと幅の設定は、インジケータが、ダッシュボード上ではなく、単独で表示される場合のみ適用されます。この幅と高さのプロパティはデフォルトの幅と高さで

す。インジケータをダッシュボードに追加すると、これらの値をさらにカスタマイズできます。ダッシュボード上に表示される場合、インジケータの高さと幅は、ダッシュボードのプロパティペインのオブジェクトセクションで指定します。

- 次のインジケータの種類の判読可能な最小寸法は 380x450 ピクセルです。
 - 対話型要約と棒グラフ
 - 対話型要約と散布図
 - 対話型要約とターゲット棒グラフ

インジケータの種類の変更

インジケータの作成時に、インジケータの種類を選択します。ただし、選択内容はいつでも変更できます。

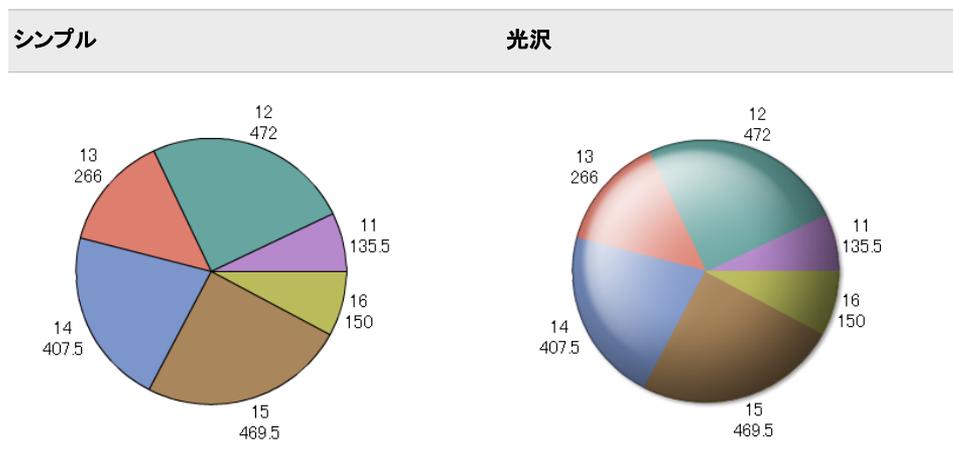
プロパティペインの全般設定セクションで、使用するインジケータの種類を表示リストから選択します。

インジケータの種類	タスク
KPI	KPI を選択する場合は、“KPI インジケータのカスタマイズ” (78 ページ)を参照してください。
スパークテーブル	“例: スパークテーブルの作成” (81 ページ)を参照してください。
すべての他の選択	“インジケータのデータ表示方法の指定” (77 ページ)を参照してください。

グラフスタイルの指定

選択したインジケータに適用するグラフ形式を指定できます。他のものよりも読み取りやすい形式もあります。たとえば、通常、**シンプル**と**クリスプ**は**光沢**よりも読みやすくなります。ビジネスユーザーが使用するコンピュータ画面にさまざまな形式を表示して、適用される画面上でグラフスタイルが読みやすいか確認するようにします。

表 10.1 シンプルグラフスタイルと光沢グラフスタイルの比較



プロパティペインの全般設定セクションで、使用するグラフ形式を**グラフスタイル**リストから選択します。データのスタイルを設定しない場合は、**(なし)**を選択します。

使用するインジケータデータの変更

インジケータの作成時に、使用するインジケータデータを選択します。ただし、選択内容はいつでも変更できます。

プロパティペインの全般設定セクションで、適切なステップを実行します。

既存のインジケータデータ	インジケータデータ フィールドの横にある 参照 をクリックし、インジケータデータに移動して開きます。
新規のインジケータデータ	インジケータデータ フィールドの横にある 新規作成 をクリックします。詳細については、8章、「 インジケータデータの定義 」(55 ページ)を参照してください。

使用する範囲の変更

インジケータを作成した際に、範囲の使用をサポートするインジケータの種類を選択した場合は、使用する範囲を選択します。ただし、選択内容はいつでも変更できます。

プロパティペインの全般設定セクションで、適切なステップを実行します。

既存範囲	範囲 フィールドの横にある 参照 をクリックし、範囲ファイルに移動して開きます。
新規範囲	範囲 フィールドの横にある 新規作成 をクリックします。詳細については、「 範囲の作成 」(69 ページ)を参照してください。

並べ替え順序の指定

一部のインジケータの種類では、表示されるデータを並べ替えられます。インジケータデータの列名にて、並べ替え基準を選択できます。

プロパティペインの全般設定セクションで、使用する列名を**並べ替え基準**リストから選択します。データを並べ替えない場合は、**(なし)**を選択します。**並べ替え順序**リストから、データを昇順と降順のどちらで並べ替えるかを選択します。

注: **並べ替え順序**を選択していない場合は、デフォルトでは、入力インジケータデータ順序が使用されます。

インジケータのデータ表示方法の指定

表示設定では、インジケータに含めるデータ、データのグループ化の方法、データの要約方法などを指定します。

プロパティペインの表示設定セクションで、インジケータに使用する表示設定を選択します。使用できる設定は、選択したインジケータによって異なります。インジケータの各種類の表示設定については、付録 1, 「**インジケータディクショナリ**」(131 ページ)を参照してください。

インジケータアラートのカスタマイズ

SAS BI Dashboard では、インジケータによってアラート機能が提供されます。この機能は、プロパティペインの個人用設定セクションで使用可能で、範囲をサポートするインジケータにのみ使用できます。次の方法でアラートを作成できます。

- ユーザーまたはユーザーグループのインジケータアラートを作成します。“別のユーザーまたはユーザーグループのアラートの操作” (121 ページ)を参照してください。
- ユーザーが個人用インジケータアラートを作成できるようにします。“個人用インジケータアラートの許可” (125 ページ)を参照してください。

インジケータのリンクの定義

インジケータに他のコンテンツを開くリンクを定義できます。詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加” (111 ページ)を参照してください。

KPI インジケータのカスタマイズ

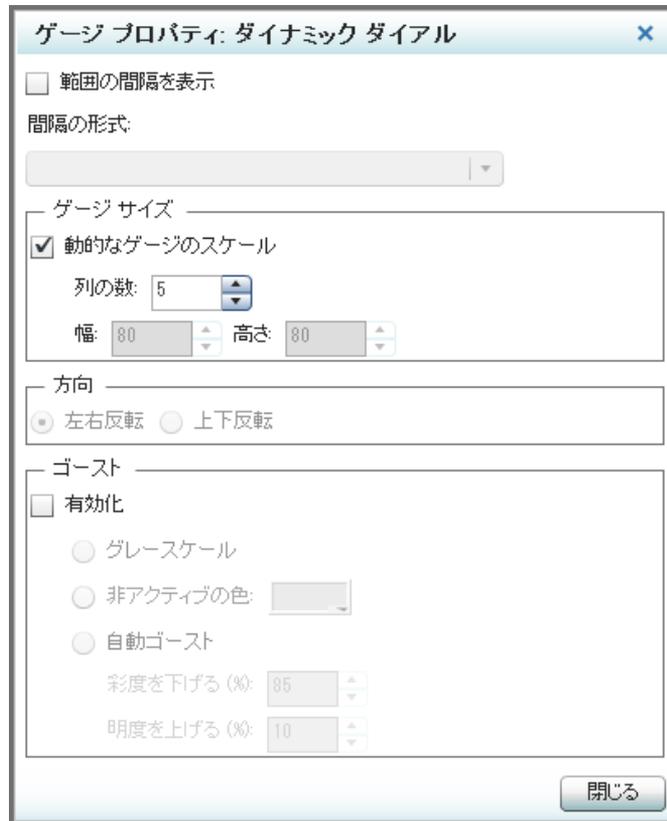
表示リストから KPI を選択した場合は、次のステップを実行します。

注: 詳細については、“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。

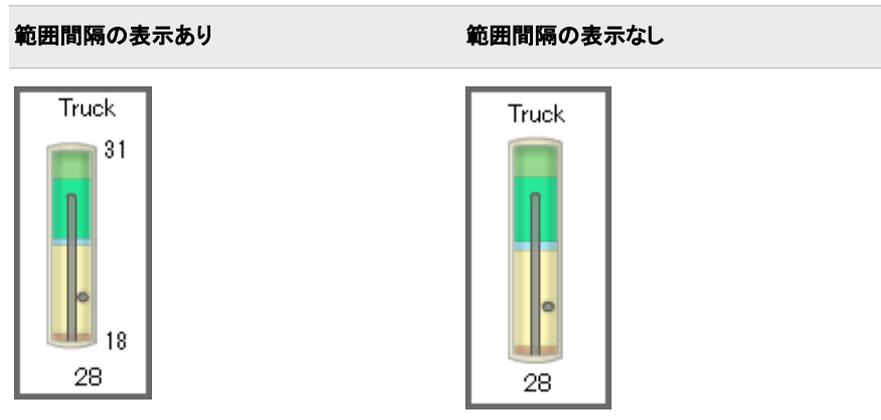
1. プロパティペインの全般セクションで、**ゲージ**リストから、インジケータに使用するゲージの種類を選択します。
2. **ゲージスタイル**リストが表示されたら、ゲージスタイルを選択します。
3. **ダイナミックゲージ**を選択した場合は、次のステップを実行します。

注: ダイナミックゲージのゲージ名には“ダイナミック”という言葉が含まれます。

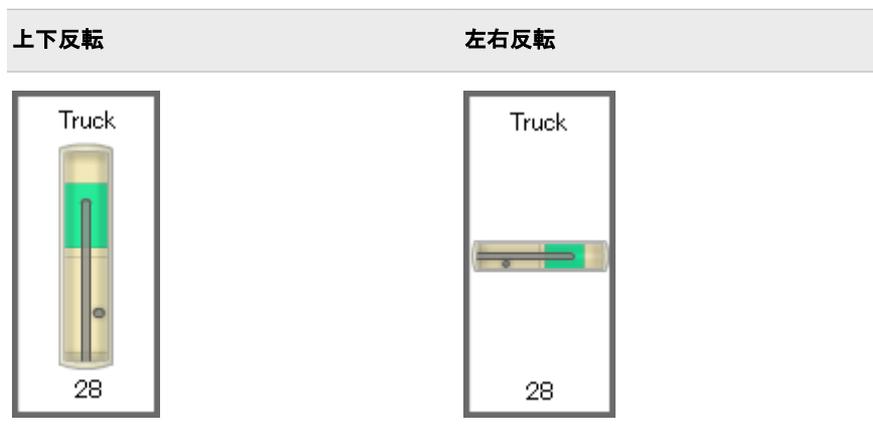
- a. プロパティペイン上部のをクリックします。**ゲージ プロパティ**ウィンドウが表示されます。選択できる設定は、選択したゲージスタイルによって異なります。



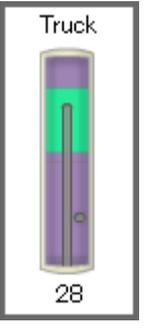
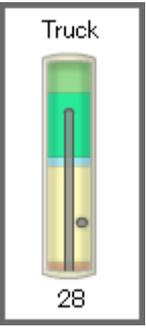
- b. ゲージに範囲の間隔(目盛)を表示するには、**範囲の間隔を表示**をクリックし、**間隔の形式**リストから形式を選択します。



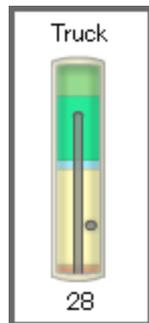
- c. ゲージの寸法を指定するには、**ゲージサイズ**領域で、次のいずれかの操作を行います。
- **動的なゲージのスケール**をクリックして、列数を指定します。
 - **動的なゲージのスケール**をクリアして、高さと幅の値を入力します。
- d. 次のいずれかの設定を選択して、ゲージの方向を指定します。



- e. ゲージの色を変更してゴースト効果を適用するには、**ゴースト領域の有効化**をクリックして、次のいずれかの設定を選択します。

設定	ゲージへの影響	説明
グレースケール		<p>選択された間隔を、他の間隔よりも濃いグレーで表示します。</p>
非アクティブの色		<p>選択した間隔に含まれないエリアを特定の色で表示します。色を選択するには、をクリックします。</p> <p>注: この例では、非アクティブの色設定は、紫に設定されています。</p>
自動ゴースト		<p>各間隔の最適なゴースト色が自動決定されます。</p> <p>イメージの彩度をグレー(無彩色)からどの程度変化させるのかを制限するには、彩度を下げる (%)フィールドに値を入力します。</p> <p>イメージを明るくするには、明度を上げる (%)フィールドに値を入力します。</p> <p>注: この例では、彩度を下げる (%)設定が 60%、明度を上げる (%)設定が 10%に設定されています。</p>

- f. 完了したら、**閉じる**をクリックして**ゲージプロパティ**ウィンドウを終了します。
4. (オプション) **並べ替え設定**領域で、次のステップを実行して、表示領域の**並べ替え**方法を指定します。
 - a. **並べ替え基準**リストから、データの**並べ替え**に使用するデータ列を選択します。
 - b. **並べ替え順序**リストから、昇順か降順を選択します。
5. プロパティペインの表示設定セクションで、**範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
6. **範囲値 2**リストから、ゲージに表す第 2 データ値ポイントを選択します。この例では、次のゲージの点が第 2 データ値ポイントになります。



注: すべてのゲージがこのプロパティを使用するわけではありません。

7. **KPI タイトル**リストから、KPI インジケータに表示されるゲージで使用するタイトルを選択します。たとえば、**名前**を選択すると、データの**名前**列の名前が各ゲージのタイトルになります。
8. KPI タイトルとして選択した値が長い場合は、**タイトルの行数**リストから、KPI タイトルを表示するために予約する行数を選択します。

注: 必要に応じて、文字列の途中で文字の折り返しが行われますが、これは複数のタイトル行を選択している場合に限りです。行が足りない場合、文字列はゲージの幅に合わせて切り捨てられます。
9. インジケータを保存します。詳細については、[“インジケータの保存” \(88 ページ\)](#)を参照してください。

例: スパークテーブルの作成

概要

この例では、スパーク線とゲージを別々の列に表示するスパークテーブルインジケータの作成について説明します。スパークテーブルインジケータでは、定義内容に応じて、要約データ、詳細データまたは傾向データが表示されます。各行に、テーブルデータ、ゲージまたはスパーク線を含められます。

次のスパークテーブルの例では、2 列目にデータとゲージ、3 列目にスパーク線が表示されています。

図 10.1 ゲージとスパーク線グラフを含むスパークテーブルインジケータの例



詳細については、“スパークテーブル” (218 ページ)を参照してください。

使用するインジケータデータの特定

インジケータを作成する前に、使用するインジケータデータを特定する必要があります。この例では、スパークテーブルには 4 つの列があります。

- 製品ライン
- 2007 年合計売り上げ
- 平均月間売り上げ
- 月間売り上げ傾向

この内の 3 列で、使用するデータが集計されています。

- 2007 年売り上げ合計列ではデータが合計されます。
- 平均月間売り上げ列ではデータが平均されます。
- 月間売り上げ傾向列ではデータがスパーク線として合計されます。

これらの各列には、インジケータデータで集計するために十分なデータポイントが必要です。

スパーク線を表示するには、データから次の変数が提供される必要があります。

- X 軸変数
- グループ変数
- メトリック変数

この例では、次のインジケータデータが使用されています。

Actual	Date Order Was Delivered	Product Line	Region
127348.2	Jan 2007	Children	Asia
390431.7025	Jan 2007	Clothing	Asia
331445.64	Jan 2007	Outdoors	Asia
555983.2925	Jan 2007	Sports	Asia
124623.65	Feb 2007	Children	Asia
297837.0625	Feb 2007	Clothing	Asia
325775.98	Feb 2007	Outdoors	Asia
468454.6375	Feb 2007	Sports	Asia
124680	Mar 2007	Children	Asia
348945.6875	Mar 2007	Clothing	Asia
269814	Mar 2007	Outdoors	Asia
384947.2375	Mar 2007	Sports	Asia

このインジケータデータの中で、スパーク線変数として使用される列データは次のとおりです。

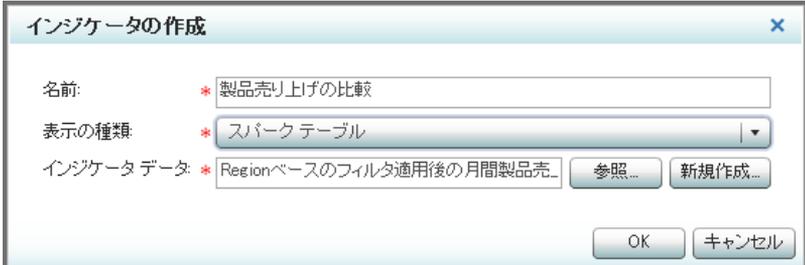
- X 軸変数: **Date Order Was Delivered**
- グループ変数: **Product Line**
- メトリック変数: **Actual**

スパーク線を作成するために、ソースデータとして選択した **Actual** により提供されるデータポイントが、製品ラインごとに合計されます。次に、**スパーク X 軸**として選択された **Date Order Was Delivered** を使用して、スパーク線ごとに合計がプロットされます。この結果生成されるスパーク線は、製品ラインごとの月間売り上げ傾向を示します。

スパークテーブルインジケータの作成

ダッシュボードで使用するスパークテーブルインジケータを作成するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行します。

1. ワークスペースで、 をクリックします。インジケータの作成ウィンドウが表示されます。
2. **名前**フィールドに名前を入力します。
3. **表示の種類**リストから、**スパークテーブル**を選択します。
4. **インジケータ データ**フィールドの横にある**参照**をクリックし、インジケータデータに移動して開きます。



5. **OK** をクリックします。ワークスペースでインジケータタブが開き、スパークテーブルインジケータに使用可能なインジケータデータ列がすべて表示されます。

製品売り上げの比較				
Actual	Date Order Was Delivered	Product Line	Region	
127348.2	2007JAN	Children	Asia	
390431.7025	2007JAN	Clothing	Asia	
331445.64	2007JAN	Outdoors	Asia	
555983.2925	2007JAN	Sports	Asia	
124623.65	2007FEB	Children	Asia	
297837.0625	2007FEB	Clothing	Asia	
325775.98	2007FEB	Outdoors	Asia	
468454.6375	2007FEB	Sports	Asia	
124680	2007MAR	Children	Asia	
348945.6875	2007MAR	Clothing	Asia	
269814	2007MAR	Outdoors	Asia	
384947.2375	2007MAR	Sports	Asia	
141930.45	2007APR	Children	Asia	
425588.5625	2007APR	Clothing	Asia	

6. 表示しないデータ列をスパークテーブルから削除できます。次のステップを実行します。

注: ここでの削除によって影響を受けるのは、スパークテーブルインジケータの表示内容のみです。削除してもインジケータデータオブジェクト自体には影響しません。

- a. 削除するデータ列の列ヘッダーの上にカーソルを合わせます。列メニューが表示されます。



- b.  をクリックして、**列の削除**を選択します。列がスパークテーブルから削除されます。この例では、**Region** 列と **Date Order Was Delivered** 列が削除されます。



7. プロパティペインの表示設定セクションを表示します。
- **スパーク (グループ別)** リストから、グループ化の基準にする値を選択します。この例では、**Product Line** が選択されます。
 - **スパーク X 軸** リストから、スパーク線の X 軸に使用する値を選択します。この例では、**Date Order Was Delivered** が選択されます。
8. スパーク線の列を追加するには、スパーク線列の追加場所の左側にあるデータ列の列ヘッダー上にカーソルを合わせます。 をクリックして、**列の追加**を選択します。スパークテーブルに新しい列が表示されます。
9. 新しい列を構成してスパーク線を表示するには、次のステップを実行します。
- a. 新しい列がハイライトされない場合は、列ヘッダーをクリックしてハイライトにします。
 - b. プロパティペインの列セクションを表示します。
 - c. **ソース データ** リストから、スパーク線の Y 軸に表示するメトリック列を選択します。この例では、**Actual** が選択されます。
 - d. **列のタイトル** フィールドで、スパーク線のラベルにするタイトルを入力します。この例では、**月間売り上げ傾向**が入力されます。このタイトルがビジネスユーザーの傾向データのラベルになります。
 - e. **列の幅 (%)** フィールドで、列に使用する幅を選択します。この例では、**50** が選択されます。
 - f. **集計関数** リストから、列のスパーク線機能を使用する**スパーク線**を選択します。

注: **グループ**では **Product Line** を選択します。ソースデータとして選択した **Actual** により提供されるデータポイントが、製品ラインごとに合計されます。次に、**スパーク X 軸**として選択された **Date Order Was Delivered** を使

用して、スパーク線ごとに合計がプロットされます。この結果生成されるスパーク線は、製品ラインごとの月間売り上げ傾向を示します。

10. **平均月間売り上げ列**を構成するには、次のステップを実行します。
 - a. 列ヘッダーをクリックして列をハイライトし、列セクションにプロパティを表示します。
 - b. **ソース データ**リストから、表示するメトリック列を選択します。この例では、**Actual** が選択されます。
 - c. **列のタイトル**フィールドで、列のラベルにするタイトルを入力します。この例では、**平均月間売り上げ**が入力されます。
 - d. **列の幅 (%)**フィールドに、列に使用する幅を入力します。この例では、**20** が選択されます。
 - e. **集計関数**リストから、製品行ごとの平均を提供する**平均**を選択します。
注: ソースデータとして選択した **Actual** により提供されるデータポイントについて、製品ラインごとに平均が求められます。**グループ**では **Product Line** を選択します。
 - f. **出力形式**リストから、平均月間売り上げデータの出力形式として**\$123,456** を選択します。
 - g. **範囲**フィールドで、使用する範囲定義を指定します。
 - h. **ゲージの種類**リストから、列で使用するゲージの種類を選択します。この例では、**ダイナミックダイヤル**が選択されます。
 - i. **範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。この例では、**Actual** が選択されます。
11. **売り上げ高列**を構成するには、次のステップを実行します。
 - a. 列ヘッダーをクリックして列をハイライトし、列セクションにプロパティを表示します。
 - b. **ソース データ**リストから、表示するメトリック列を選択します。この例では、**Actual** が選択されます。
 - c. **列のタイトル**フィールドで、列のラベルにするタイトルを入力します。この例では、**2007 年売り上げ合計**が入力されます。
 - d. **列の幅 (%)**フィールドに、列に使用する幅を入力します。この例では、**20** が選択されます。
 - e. **集計関数**リストから、製品行ごとの合計を提供する**合計**を選択します。
注: ソースデータとして選択した **Actual** により提供されるデータポイントが、製品ラインごとに合計されます。**グループ**では **Product Line** を選択します。
 - f. **出力形式**リストから、売り上げ合計データの出力形式として**\$123,456** を選択します。
12. **製品ライン列**を構成するには、次のステップを実行します。
 - a. 列ヘッダーをクリックして列をハイライトし、列セクションにプロパティを表示します。
 - b. **ソース データ**リストから、表示するメトリック列を選択します。この例では、**Product Line** が選択されます。
 - c. **列のタイトル**フィールドで、列のラベルにするタイトルを入力します。この例では、**製品ライン**が入力されます。

- d. **列の幅 (%)**フィールドに、列に使用する幅を入力します。この例では、15 が選択されます。
13. スパークテーブルの列を調整するには、各列ヘッダーをクリックしてハイライトします。次に、プロパティペインの列セクションで、ハイライトされた列に使用する幅を**列の幅 (%)**フィールドに入力します。

ヒント

- スパークテーブルの列幅を調整する際は、スパークテーブル内の左から右に向かって作業をします。
 - 列幅を変更するには、列の境界線をドラッグして列のサイズをダイナミックに変更するのではなく、**列の幅 (%)**リストを使用します。ドラッグすると、列内のすべてのデータ(スパーク線など)が再計算されます。再計算はパフォーマンスの遅れを引き起こす場合があります。
 - ドラッグによる列サイズの変更は、インジケータとともに保存されません。**列の幅 (%)**フィールドでの列サイズ変更のみインジケータとともに保存されます。
14.  をクリックしてスパークテーブルインジケータを保存します。



スパークテーブルはダッシュボードで使用できるようになりました。ダッシュボードの作成の詳細については、11 章, “ダッシュボードコンテンツのレイアウト” (91 ページ)を参照してください。

例: Stored Process を使用するカスタムグラフの作成

概要

この例では、Stored Process、および Stored Process を使用するカスタムグラフインジケータの作成について説明します。Stored Process を使用すると、SAS/GRAPH を使用して作成されたイメージを表示するダッシュボードを作成できます。

詳細については、“カスタムグラフ” (154 ページ)を参照してください。

Stored Process の作成

Stored Process を作成する場合、次の要件を満たす必要があります。

- PNG、JPG、GIF (アニメーション GIF は除く)のいずれかの出力形式でイメージファイルを作成する。
- ストリーミング出力を使用する。
- _WEBOUT に直接書き込む。
- %STPBEGIN マクロと%STPEND マクロは挿入しない。

- HTML 出力は**生成しない**。SAS BI Dashboard では、HTML コンテンツの表示はサポートされません。

使用する Stored

Process には、GOPTIONS ステートメントを含めて、特殊ファイル参照名 WEBOUT を介して出力をイメージファイルに送る必要があります。イメージを作成するSAS/GRAPH コー

```
goptions gsfname=_webout gsfmode=replace;
goptions device=png;
```

注: デバイス設定は、GIF、JPG または PNG にする必要があります。

SAS Enterprise Guide にて、次の設定の使用を確認します。

- Stored Process マクロの無効化。

Stored Process Manager ウィンドウで、SAS コードペインを表示します。Stored Process マクロを無効化するには、**コードの挿入**をクリックして **Stored Process マクロ**の選択をクリアします。次のメッセージが表示されます。

```
The append macros setting is disabled and the SAS code does not
contain the %stpbeg and %stpend macros.
Would you like to turn on the append macros setting?"
```

いいえをクリックして、メッセージを閉じます。

- Stored Process Server の指定。

Stored Process Manager ウィンドウで、実行オプションペインを表示します。**実行サーバー**フィールドで、**SASApp** — **論理 Stored Process Server** を選択して、Stored Process Server の場所を指定します。

- 結果の種類をストリーミングに設定。

Stored Process Manager ウィンドウで、実行オプションペインを表示します。**この Stored Process をサポートできる SAS 結果**で、**ストリーミング**を選択します。

Stored Process を実行して、出力が作成されることを確認します。これはオペレーティングシステムの権限が適切かどうかを検出する最良の方法でもあります。

Stored Process が正常に作成されたら、次のステップを実行して、Stored Process を実行する Web アドレスをコピーします。

1. Stored Process Web アプリケーションを開きます。
2. **使用可能な Stored Process のリスト表示**をクリックします。
3. 作成した Stored Process を検索し、クリックして開きます。
4. 右ペインの Stored Process イメージを右クリックして、**プロパティ**を選択します。
5. **プロパティ**ウィンドウで、**アドレス (URL)**フィールドから Web アドレスを選択してコピーします。

注: 一部の Web ブラウザでは、Web アドレス全体をコピーするために、Web アドレスを選択したままスクロールダウンする必要がある場合もあります。

カスタムグラフインジケータの作成

ダッシュボードで使用するカスタムグラフインジケータを作成するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行します。

1. インジケータを新規作成して、**表示の種類**リストから**カスタム グラフ**を選択します。詳細ステップについては、“**インジケータの作成**” (74 ページ)を参照してください。

注: カスタムグラフィインジケータでは、インジケータデータや範囲を選択する必要はありません。

2. 開いているインジケータのプロパティペインを表示します。表示設定セクションの**イメージ Web アドレス**フィールドに、Stored Process Web アプリケーションからコピーした Stored Process Web アドレスを貼り付けます。

注: このフィールドでは、相対パス名はサポートされていません。カスタムグラフィインジケータをパッケージの一部としてインポートまたはエクスポートする場合、このフィールドのパスを更新する必要があります。

詳細については、“[Stored Process の作成](#)” (86 ページ)を参照してください。

3. Stored Process イメージに別のドメインからアクセスする場合は、**プロキシの使用**を選択します。
4.  をクリックしてカスタムグラフィインジケータを保存します。

カスタムグラフはダッシュボードで使用できるようになりました。ダッシュボードの作成の詳細については、11 章、“[ダッシュボードコンテンツのレイアウト](#)” (91 ページ)を参照してください。

ヒント

- ダッシュボードにカスタムグラフィインジケータを追加する際、カスタムグラフのイメージが複雑な場合は、インジケータのズーム機能の有効化を検討します。ダッシュボードでのカスタムグラフの表示が小さい場合でも、そのイメージをズームインして簡単に詳細を参照できます。詳細については、“[インジケータまたは静的なコンテンツのズームの有効化](#)” (115 ページ)を参照してください。
- ダッシュボードでカスタムグラフをテストするには、プレビュー機能を使用します。詳細については、“[ダッシュボードのプレビューを使用したダッシュボードのテスト](#)” (127 ページ)を参照してください。

インジケータの保存

インジケータを保存するには、インジケータタブで次のステップを実行します。

1.  をクリックします。
2. **名前を付けて保存**ウィンドウで、名前を入力して、Products ⇒ BI Dashboard 4.3 ⇒ DashboardConfigs などの場所を選択します。
3. **保存**をクリックします。
4. オブジェクトペインのライブラリセクションで、**名前を付けて保存**ウィンドウで選択した場所に移動します。インジケータファイルがこのディレクトリに保存されています。
注: ファイル名は、指定した名前が使用されています。ファイル拡張子は .idx です。
5. ワークスペースのインジケータタブを閉じます。

インジケータの編集

インジケータを編集するには、SAS BI Dashboard デザイナで次のステップを実行します。

1. オブジェクトペインのライブラリセクションで、**表示リストからインジケータ**を選択します。
2. 編集するインジケータファイルの場所に移動してから、ファイル名をダブルクリックします。インジケータタブがワークスペースに表示されます。

11 章

ダッシュボードコンテンツのレイアウト

概要	92
考慮事項	92
ダッシュボードの作成	93
ダッシュボードワークスペースの操作	94
オブジェクト定義の変更	94
オブジェクトの配置とサイズ変更	95
変更を元に戻す、やり直し	95
ダッシュボードプロパティの設定	96
ダッシュボードの高さと幅の指定	96
ダッシュボードのレイアウトの指定	96
相互作用のグラフ表示	96
ダッシュボードで使用するフォントの指定	96
ダッシュボードのインジケータとその他のオブジェクトのプロパティの設定	97
インジケータまたはオブジェクトのプロパティの表示	97
タイトルバーテキストまたはラベルテキストの指定	97
インジケータファイルの検索	97
オブジェクトの位置の指定	97
ダッシュボードのオブジェクトのサイズ変更	97
オブジェクトのズーム機能の有効化	98
オブジェクトからのリンクの追加	98
ダッシュボード表示時のオブジェクトタイトルバーとツールの有効化	98
静的なイメージに使用するイメージの指定	98
静的なラベルに使用するフォントの指定	98
静的なコンテンツの追加による、他の情報へのリンク	99
概要	99
例: ラベルによるダッシュボードへのメニューの追加	99
例: イメージによるダッシュボードへのコンタクトリストの追加	100
テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト	100
概要	100
テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト	101
既存ダッシュボードの編集	101
新しい名前によるダッシュボードの保存	102

概要

ダッシュボードは、1 つ以上のインジケータと、ダッシュボードを拡張するラベルとイメージが含まれるコンテナです。ダッシュボードでは、一見して解釈や監視ができるような方法で重要な情報が表示されます。また、ダッシュボードには、Web ページ、レポート、その他のダッシュボードなどを含む、情報の追加種類へのリンクも含まれます。ダッシュボードは、SAS Information Delivery Portal 内のポータルページのポートレットまたはダッシュボードビューアに表示できます。

ダッシュボードを作成する際は、次の方法でダッシュボードのコンテンツをレイアウトできます。

- 手動。インジケータとダッシュボードのプロパティ設定を変更して、それぞれのレイアウトを指定できます。
- テンプレートの使用。レイアウトテンプレートを使用して、ダッシュボードのコンテンツを簡単に迅速にレイアウトできます。テンプレートは、インジケータレイアウトをダッシュボードのサイズに合わせてダイナミックに広げます。詳細については、“[テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト](#)” (100 ページ)を参照してください。

考慮事項

ダッシュボードをデザインする際は、次の事項を考慮する必要があります。

- ユーザーがインジケータについてコメントする際、コメントはそのインジケータに関連付けられます。1 つのダッシュボード内のインジケータについて行われたコメントは、別のダッシュボード内のインジケータに適していない場合があります。
- フォント設定はインジケータではなく、ダッシュボードに保存されます。これらの設定は、ダッシュボードごとに、設定を使用するインジケータに対して設定する必要があります。
- (テンプレート使用時のみ) SAS BI Dashboard がダッシュボード内にインジケータを描画する場合、インジケータは、各インジケータとテンプレートの寸法に指定された幅または高さに基づいて、複数の行または列に折り返されます。たとえば、ダッシュボードに幅が 180 ピクセルのインジケータが 10 個含まれる場合、ダッシュボードに必要な幅の合計は 1800 ピクセルです。ダッシュボードの幅が 1000 ピクセルしかない場合、2 行のインジケータが表示されます。インジケータの幅が 900 ピクセルの場合、3 行のインジケータが表示されます。

注: インジケータの幅は、インジケータの表示設定を定義する際に指定します。詳細については、“[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)を参照してください。

KPI インジケータには複数のゲージを含めることができるため、KPI インジケータをダッシュボードに追加する際は特別な考慮事項が適用されます。

- 1 つの KPI インジケータに複数のゲージが含まれる場合、横の配置は正しく管理されます。しかし、インジケータが複数あり、それぞれに 1 つのダイナミックゲージが含まれる場合、種々のダイナミックゲージの高さを操作して、インジケータを正しく配置する必要があります。

この問題は、多くの場合、ある1つのインジケータのタイトルのテキストが2行、隣接するインジケータのテキストが1行のみの場合に発生します。追加テキスト行により、このインジケータは、残りのインジケータよりも下に配置されます。このインジケータの高さをその他の高さより低く設定すると、ダッシュボード全体を適切に配置できます。

- (ダイナミックゲージスタイルのみ) 均衡しない寸法を使用して、ゲージの周りに追加のスペースを作成できます。
- (ダイナミックゲージスタイルのみ) KPI インジケータ幅がダイナミックゲージ幅より小さい場合、スクロールバーがダッシュボードに表示されます。インジケータを適切に折り返すには、KPI インジケータ幅がダイナミックゲージ幅よりも大きくなるようにします。
- (ダイナミックゲージスタイルのみ) ダイナミックゲージは、ゲージイメージのスケールリングが 1:1 を維持するようにスペースが追加されて拡大されます。ゲージは、常に、利用可能なスペースの中央に配置されます。たとえば、100x200 のダイナミックゲージは拡大されず、寸法が 200x400 以上になるまでゲージの周りにスペースが追加されます。ゲージサイズの詳細については、“[KPI インジケータのカスタマイズ](#)” (78 ページ)を参照してください。
- ゲージスタイルが固定サイズの場合、KPI インジケータは境界ボックスの外まで広がる可能性があります。ボックスは元のサイズのまま表示されますが、ゲージはボックス外に広がります。ダッシュボードにインジケータをさらに追加すると、境界ボックス外に広がった KPI インジケータのゲージは隠れてしまいます。結果は読みにくい可能性があり、この状況は回避する必要があります。

ダッシュボードの作成

SAS BI Dashboard デザイナで新しいダッシュボードを作成するには、次のステップを実行します。

1. まずダッシュボードデザイナを開く場合、ワークスペースの  をクリックします。

ダッシュボードの作成ウィンドウが表示されます。

2. 名前を入力して、**OK** をクリックします。
3. 次の方法で、コンテンツをダッシュボードに追加できます。
 - ダッシュボードにインジケータを追加するには、オブジェクトペインのライブラリセクションからダッシュボードまたはコンテナにインジケータをドラッグします。
注: インジケータは、1つのダッシュボードに1回のみ追加できます。
 - ラベルまたはイメージを追加するには、オブジェクトペインの静的なコンテンツセクションからダッシュボードにドラッグします。静的なコンテンツの詳細については、“[概要](#)” (99 ページ)を参照してください。
 - ダッシュボードにテンプレートを追加するには、オブジェクトペインのレイアウトテンプレートセクションからダッシュボードにドラッグします。詳細については、“[テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト](#)” (100 ページ)を参照してください。
4. ダッシュボードプロパティを設定します。詳細については、“[ダッシュボードプロパティの設定](#)” (96 ページ)を参照してください。

5. ダッシュボードに追加したオブジェクトのプロパティを設定します。詳細については、“[ダッシュボードのインジケータとその他のオブジェクトのプロパティの設定](#)”(97 ページ)を参照してください。
6. ダッシュボードを保存するには、をクリックします。
7. **名前を付けて保存**ウィンドウで、名前を入力して、**Products** ⇒ **BI Dashboard 4.3** ⇒ **DashboardConfigs** などの場所を選択します。

ヒント ダッシュボードとそのコンポーネントを作成する前に、フォルダ構造を編成します。ファイルの場所を後で変更することは簡単ではありません。
8. **保存**をクリックします。
9. オブジェクトペインのライブラリセクションで、**名前を付けて保存**ウィンドウで選択した場所に移動します。ダッシュボードファイルがこのディレクトリに保存されています。

注: ファイル名には、指定した名前が使用されています。ファイル拡張子は.dcx です。
10. ダッシュボードをテストします。ダッシュボードのテストと表示の詳細については、[14章, “ダッシュボードのテスト”](#) (127 ページ)を参照してください。
11. ワークスペースのダッシュボードタブを閉じます。

ダッシュボードワークスペースで使用できる機能の詳細については、“[ダッシュボードワークスペースの操作](#)”(94 ページ)を参照してください。

ダッシュボードワークスペースの操作

オブジェクト定義の変更

ダッシュボードのオブジェクト(インジケータまたは静的なコンテンツ)の定義を次の方法で変更できます。

- ダッシュボードでのあるオブジェクトの表示または動作を編集するには、そのオブジェクトを選択します。プロパティペインのオブジェクトセクションで、オブジェクトのプロパティ設定を変更します。
- オブジェクト自体を編集するには、そのオブジェクトを選択します。オブジェクトツールバーが表示されます。



ツールバーには、次の機能が選択したオブジェクトに適用可能な場合に表示されます。

アイコン	説明
	ダッシュボードからオブジェクトを削除します。

アイコン	説明
	インジケータを編集できるように、インジケータワークスペースにインジケータを開きます。詳細については、10章、「インジケータの操作」(73 ページ)を参照してください。
	インジケータデータ定義を編集できるように、インジケータデータワークスペースにインジケータデータ定義を開きます。詳細については、8章、「インジケータデータの定義」(55 ページ)を参照してください。
	範囲定義を編集できるように、範囲ワークスペースに範囲定義を開きます。詳細については、9章、「範囲の定義」(67 ページ)を参照してください。 注: 範囲をサポートするインジケータにのみ使用できます。

オブジェクトの配置とサイズ変更

ツールバーアイコンの配置とサイズ変更の詳細については、「ツールバー」(48 ページ)を参照してください。

ヒント オブジェクトの配置をより簡単に行うには、**表示** ⇒ **レイアウトガイドの表示**をクリックして、ダッシュボードの背景にドットのグリッドを表示します。

ダッシュボードのオブジェクトを配置、サイズ変更するには、次のステップを実行します。

1. 選択した他のオブジェクトの配置またはサイズの変更に使用するオブジェクトを最初に1つクリックします。

注: ダッシュボードに1つのみ存在するオブジェクトを選択して配置する場合、オブジェクトはダッシュボード自体に対して配置されます。たとえば、ダッシュボードに1つしかないインジケータを選択して、**編集** ⇒ **配置** ⇒ **上揃え**をクリックすると、インジケータはダッシュボードの上に移動します。

2. Ctrl キーを押しながら、オブジェクトを1つ以上クリックします。
3. 次のいずれかの配置オプションまたはサイズ変更オプションを選択します。
 - 配置オプションの場合、**編集** ⇒ **配置**をクリックしてから、配置方法を選択します。
 - サイズ変更オプションの場合、**編集** ⇒ **サイズ**を選択してから、サイズ変更方法を選択します。

注: 現在選択されているオブジェクトの高さまたは幅が使用されます。

変更を元に戻す、やり直し

ダッシュボードまたはダッシュボードのオブジェクトの変更は、元に戻したり、やり直したりできます。

- 変更を元に戻すには、をクリックします。
- 変更をやり直すには、をクリックします。

ダッシュボードプロパティの設定

ダッシュボードの高さと幅の指定

プロパティペインのダッシュボードセクションで、高さフィールドと幅フィールドの値を編集して、高さと幅を変更します。

ダッシュボードのレイアウトの指定

ダッシュボードのオブジェクトのレイアウトは、次の方法で制御します。

横	ダッシュボードの左右に並べてオブジェクトを配置し、必要に応じて新しい行に折り返します。
値による配置	<p>オブジェクトの左と上の設定で指定したダッシュボードの正確な位置にオブジェクトを配置します。これらの設定は、プロパティペインのオブジェクトセクションにあります。</p> <p>注: ダッシュボードビューアに表示されるオブジェクトは、他のオブジェクトに重ねて表示したり、完全に上書きしたりできます。重ねて表示した場合、ビジネスユーザーはオブジェクトを適切に対話操作できなくなる可能性があります。</p>
縦	ダッシュボードの上下に並べてオブジェクトを配置し、必要に応じて新しい列に折り返します。

レイアウト設定を指定するには、ダッシュボードタブのプロパティペインを表示します。ダッシュボードセクションで、レイアウトリストからレイアウトを選択します。

相互作用のグラフ表示

インジケータ間の相互作用を作成する場合、影響を受けるインジケータ間に矢印を表示するように、相互作用の表示を選択します。矢印によって、ソースインジケータとターゲットインジケータがわかります。詳細については、「[インジケータ間の相互作用の追加](#)」(104 ページ)を参照してください。

ヒント 相互作用の表示機能は、相互作用を適切に作成するための有効な手段です。

ダッシュボードで使用するフォントの指定

フォント設定グループで、ダッシュボードで使用するフォントの種類とスタイルを選択します。この選択は、インジケータタイトルバーとインジケータラベルに影響します。

注:

- ダッシュボードに最適なフォントを表示するには、ダッシュボードのすべてのインジケータに同じズーム値を指定します。ズームの幅と高さは、通常 100% から 300%までの同じ値を設定します。
- フォント設定領域で、名前に(優先)が含まれる種類を選択できます。優先とは、テキストが収まる大きさのインジケータにのみ、指定したフォントのサイズ

が適用されることを意味します。ただし、インジケータコンポーネントは、インジケータのサイズと、インジケータとテキストを判読可能なサイズに縮小するテキストの縮小アルゴリズムに基づいて、フォントの最適なサイズを決定します。

- フォント設定がインジケータに使用できるのは、インジケータがダッシュボードに含まれている場合のみです。ダッシュボードのオブジェクトとしてインジケータを編集する場合、インジケータを選択して、プロパティペインのオブジェクトセクションを表示します。

ダッシュボードのインジケータとその他のオブジェクトのプロパティの設定

インジケータまたはオブジェクトのプロパティの表示

ダッシュボードには、インジケータ、静的なイメージ、静的なラベルを含めることができます。インジケータまたはオブジェクトのプロパティを表示および編集するには、ダッシュボードで選択します。次にプロパティペインにオブジェクトセクションが表示され、選択したインジケータまたはオブジェクトのプロパティを編集できます。

タイトルバーテキストまたはラベルテキストの指定

設定グループに、オブジェクト名を指定できます。インジケータと静的なイメージの場合、指定した名前がタイトルバーに表示されます。静的なラベルの場合、指定した名前がラベルになります。

インジケータファイルの検索

設定グループに、インジケータファイルの場所が示されます。

ヒント 名前が同じインジケータが異なるディレクトリに複数存在する場合、場所情報を使用して、操作しているインジケータを特定します。

オブジェクトの位置の指定

ダッシュボードのレイアウト設定を値による配置に設定する場合、位置グループを使用して、ダッシュボード上のこのオブジェクトの左上隅の位置を設定します。

ダッシュボードのオブジェクトのサイズ変更

オブジェクトのサイズ変更を行うには、サイズ調整ハンドルを希望するサイズにドラッグするか、サイズグループを使用してオブジェクトのサイズを設定します。

注: インジケータオブジェクトの場合、このサイズはインジケータ定義の寸法設定より優先されます。同じインジケータを別のダッシュボードで使用して、ダッシュボードごとに異なる寸法のインジケータを表示できます。

オブジェクトのズーム機能の有効化

ズーム (%)グループを使用して、オブジェクトにズーム機能を設定します。詳細については、“[インジケータまたは静的なコンテンツのズームの有効化](#)” (115 ページ)を参照してください。

オブジェクトからのリンクの追加

静的なラベルとイメージの場合、**リンク設定グループ**を使用して、オブジェクトから別の情報源へのリンクを定義します。インジケータの場合、インジケータ定義でリンクを設定する必要があります。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“[インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加](#)” (111 ページ)を参照してください。

ダッシュボード表示時のオブジェクトタイトルバーとツールの有効化

オブジェクトごとに、ビジネスユーザーによるダッシュボードの表示時における、オブジェクトタイトルバーとそのツールへのアクセス権を制御します。このタイトルバーには、印刷、コメント、ズーム、お気に入りの追加を行うための機能が表示されます。オブジェクトタイトルも表示されます。タイトルバーを有効化するには、**オプショングループのツールバーと罫線の表示**を選択します。

静的なイメージに使用するイメージの指定

静的なイメージをダッシュボードに追加する場合、このオブジェクトに表示するイメージを指定する必要があります。**オプショングループのイメージ Web アドレスフィールド**にイメージの場所を入力します。

イメージを指定する際に、プロキシを使用するかどうかも指定する必要があります。

- イメージファイルが SAS BI Dashboard Server と同じネットワークドメインにある場合、**プロキシの使用**は選択しません。
- イメージが異なるネットワークドメインにある場合は、**プロキシの使用**を選択します。

注: イメージの認証は、サポートされていません。認証されていない場合、イメージは表示されません。

静的なラベルに使用するフォントの指定

オプショングループで、静的なラベルに対しフォントとテキスト配置を指定できます。この設定は、ダッシュボードフォント設定によって影響を受けません。

ヒント 静的なラベルにリンクが含まれている場合、**ロールオーバーの色**を指定します。ビジネスユーザーがリンクの上にカーソルを置くと、色が変わり、リンクの存在が示されます。

静的なコンテンツの追加による、他の情報へのリンク

概要

ダッシュボードにはインジケータ以外のコンテンツを含めることができます。このコンテンツは、**静的なコンテンツ**と呼ばれます。SAS BI Dashboard では、2 種類の静的なコンテンツオブジェクト(イメージとラベル)が提供されています。これらのオブジェクトは、他の情報にリンクできます。静的なコンテンツを使用して、ダッシュボードから他の種類の情報に移動するメニューや他の方法を作成できます。

ヒント 同じインスタンスの SAS BI Dashboard ビューアに他のダッシュボードを表示するリンクをダッシュボードに提供する場合、ダッシュボードのパフォーマンスを向上できます。このようなリンクを提供する方法として、ダッシュボードへのメニューの作成があります。詳細については、次の例を参照してください。

例: ラベルによるダッシュボードへのメニューの追加

この例では、静的なコンテンツのラベルを使用して、Web ページのメニューをダッシュボードに追加します。この例の Web ページメニューは、ダッシュボードに含まれる製品と関連付けられている製品ページを提供します。

ダッシュボードにメニューを追加するには、次のステップを実行します。

1. リンクのメニューを追加するダッシュボードを開きます。
2. オブジェクトペインで、静的なコンテンツセクションを展開します。
3. **ラベルオブジェクト**をクリックして、ダッシュボードにドラッグします。
4. ダッシュボードで、ラベルオブジェクトをクリックします。ラベルプロパティがプロパティペインに表示されます。
5. **名前フィールド**に、**オリオンスターゴルフクラブ**などのメニュー項目名を入力します。
6. (オプション) **オプショングループ**で、ラベルに使用するフォントを指定できます。詳細については、“**静的なラベルに使用するフォントの指定**” (98 ページ)を参照してください。
7. **リンク設定グループ**で、ラベルが開くリンクを指定できます。たとえば、製品の Web ページのメニューを指定している場合は、ゴルフクラブの Web アドレスを指定できます。詳細については、“**インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加**” (111 ページ)を参照してください。
8. ラベルの位置とサイズを調整する場合、**位置グループ**と**サイズグループ**でプロパティ設定を変更することも、ダッシュボードでラベルオブジェクトをドラッグしたり、ラベルの境界を調整してサイズ変更することもできます。詳細については、“**オブジェクトの位置の指定**” (97 ページ)と“**ダッシュボードのオブジェクトのサイズ変更**” (97 ページ)を参照してください。
9. メニュー項目をさらにダッシュボードに追加するには、ステップ 3 から 8 を繰り返します。

例: イメージによるダッシュボードへのコンタクトリストの追加

この例では、静的なコンテンツのイメージを使用して営業担当者のコンタクトリストをダッシュボードに追加します。コンタクトリストでは、ダッシュボードに含まれる製品と関連付けられている営業担当者が提供されます。

ダッシュボードにコンタクトリストを追加するには、次のステップを実行します。

1. コンタクトリストを追加するダッシュボードを開きます。
2. オブジェクトペインで、静的なコンテンツセクションを展開します。
3. **イメージオブジェクト**をクリックして、ダッシュボードにドラッグします。
4. ダッシュボードで、イメージオブジェクトをクリックします。イメージプロパティがプロパティペインに表示されます。
5. **名前**フィールドに、オブジェクトの名前(営業担当者の名前など)を入力します。
6. (オプション) **オプショングループ**で、イメージファイル(営業担当者の写真などのWeb アドレス場所を指定します。詳細については、“[静的なイメージに使用するイメージの指定](#)” (98 ページ)を参照してください。
7. **リンク設定グループ**で、イメージが開くリンク(営業担当者の電話番号など)を設定します。詳細については、“[インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加](#)” (111 ページ)を参照してください。
8. ラベルの位置とサイズを調整する場合、**位置グループ**と**サイズグループ**でプロパティ設定を変更することも、ダッシュボードでラベルオブジェクトをドラッグしたり、ラベルの境界を調整してサイズ変更することもできます。詳細については、“[オブジェクトの位置の指定](#)” (97 ページ)と“[ダッシュボードのオブジェクトのサイズ変更](#)” (97 ページ)を参照してください。
9. (オプション) **ズームグループ**で、イメージのズームを有効化できます。詳細については、“[インジケータまたは静的なコンテンツのズームの有効化](#)” (115 ページ)を参照してください。
10. 営業担当者をさらにコンタクトリストに追加するには、ステップ 3 から 9 を繰り返します。

テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト

概要

SAS BI Dashboard では、ダッシュボードコンテンツのデザイン時に使用できる 2 つのレイアウトテンプレートが用意されています。

- 横
- 縦

各レイアウトテンプレートは、テンプレートに表示されるインジケータのフローを制御します。横テンプレートと縦テンプレートでは、その中のインジケータが自動的にそれぞれ横または縦に配置されます。インジケータがテンプレートの幅または高さを上回る場合、インジケータのレイアウトは折り返されます。

注: インジケータが横テンプレートまたは縦テンプレートに含まれている場合、次の動作が見られます。

- テンプレートのズーム設定は、含まれるすべてのインジケータに同じように影響します。
- タイトルはインジケータに表示されません。

テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト

テンプレートを使用してダッシュボードコンテンツをレイアウトするには、ダッシュボードで次のステップを実行します。

1. オブジェクトペインで、レイアウト テンプレートセクションを展開します。利用可能なテンプレートが表示されます。
2. ダッシュボードワークスペースにテンプレートをドラッグします。

注:

- ダッシュボードには複数のテンプレートを追加できます。ただし、ダッシュボードのテンプレートの場所は手動で調整する必要があります。
 - ダッシュボードからテンプレートを削除するには、テンプレートの上にマウスポインタを移動します。テンプレートツールバーが表示されます。✕をクリックします。
3. ダッシュボードワークスペースで、テンプレートをクリックします。オブジェクトセクションがプロパティペインに表示されます。
 4. **設定グループ**で、**名前**フィールドにテンプレート名を入力して、Enter キーを押します。名前は、テンプレートのタイトルバーに表示されます。
 5. オブジェクトペインで、ライブラリセクションを展開します。
 6. インジケータを検索して、そのインジケータをダッシュボードワークスペースのテンプレートにドラッグします。
 7. 必要なインジケータをテンプレートに追加するまで続けます。

注: インジケータは、同じダッシュボードに1度のみ追加できます。

既存ダッシュボードの編集

既存するダッシュボードを編集するには、SAS BI Dashboard デザイナで次の操作を実行します。

注: ダッシュボードを編集すると、すべてのユーザーのダッシュボードが変更されます。

1. オブジェクトペインのライブラリセクションで、**表示リスト**から**ダッシュボード**を選択します。
2. ツリーを展開して、使用可能なダッシュボードを表示します。
3. ダッシュボードをダブルクリックして開きます。

新しい名前によるダッシュボードの保存

SAS BI Dashboard では、ダッシュボードの名前を変更できません。ただし、ダッシュボードを新しい名前で保存することはできます。次のステップを実行します。

1. **ファイル** ⇒ **名前を付けて保存**を選択します。**名前を付けて保存**ウィンドウが表示されます。



2. 保存場所に移動します。
3. **名前**フィールドに新しい名前を入力してから、**保存**をクリックします。

12 章

ダッシュボードへの相互作用機能の追加

概要	103
インジケータ間の相互作用の追加	104
概要	104
相互作用の種類	104
対話型ハイライトの例	105
相互作用をサポートするインジケータの種類	107
相互作用の定義のガイドライン	109
インジケータ相互作用の設定	110
インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加	111
概要	111
リンクをサポートするインジケータの種類	112
インジケータでのリンクの設定	112
パラメータの渡す例	114
インジケータまたは静的なコンテンツのズームの有効化	115
概要	115
ダッシュボードのデザインとズーム機能	115
ズームの有効化	116
ズームの無効化	116
対話型スライダを含むインジケータの追加	116

概要

ダッシュボードには、次の種類の相互作用機能を追加できます。

- ダッシュボードに 2 つのインジケータを追加して、インジケータ間の相互作用を指定できます。一方のインジケータのデータをクリックすると、もう一方のインジケータのデータ表示が更新されます。
- インジケータにリンクを追加できます。インジケータのデータポイントをクリックすると、リンクを介して、Web ページ、ポータルページ、SAS Stored Process、Web Report などの追加コンテンツが開かれます。
- インジケータのズームを有効化できます。🔍 をクリックすると、インジケータをズームイン(拡大)できます。
- ダッシュボードにスライダ表示を含むインジケータを追加できます。チャートのスライダを動かして、時系列のデータの変化を表示できます。

インジケータ間の相互作用の追加

概要

ダッシュボードに複数のインジケータを追加する場合、1つのインジケータを他の1つまたは複数のインジケータと相互作用するように選択できます。第1インジケータ(ソース)は、第2インジケータ(ターゲット)に影響します。相互作用によって、ビジネスユーザーはダッシュボード内のデータを直接探索できます。

相互作用の種類

相互作用には、次の3種類があります。

対話形式にデータをハイライト

データブラッシングとも呼ばれるこの種類の相互作用では、ビジネスユーザーがソースインジケータの特定の値を選択すると、ターゲットインジケータの関連する値がハイライトされます。

注: 対話型ハイライトでは、ビジネスユーザーはソースインジケータで複数の項目を選択し、ターゲットインジケータの影響を受けた項目をすべてハイライトできます。たとえば、棒グラフで複数の棒を選択した場合、ターゲットテーブルインジケータの影響を受けた行がすべてハイライトされます。ソースインジケータで複数の項目を選択するには、インジケータの項目をクリックしながらCtrlキーを押します。

ローカルシステムのデータのフィルタリング

クライアント側のフィルタリングとも呼ばれるこの種類の相互作用では、ビジネスユーザーがソースインジケータの特定の値を選択すると、ターゲットインジケータのデータが選択内容に基づいてフィルタリングされます。

この相互作用では、ビジネスユーザーのコンピュータに保存されたデータフィルタリングされます。フィルタは、すべてのターゲットパラメータに対して機能し、その反応は非常に優れています。ただし、このフィルタは、まずターゲットインジケータによってビジネスユーザーのコンピュータ上にすべてのデータがロードされる必要があるため、ロード時間がかかり、使用可能なデータ量に上限があります。1000行を超えるデータをフィルタする場合は、リモートサーバーでデータをフィルタリングする必要があります。

リモートサーバーのデータのフィルタリング

サーバー側のフィルタリングとも呼ばれるこの種類の相互作用は、概念的にはローカルシステムのデータのフィルタリングと同じですが、パラメータがクエリに組み込まれ、そのクエリが新しいパラメータと一緒に中間層(サーバー)に送られる点が異なります。通常、この種類のフィルタは、中間層との通信が必要なため、ローカルシステムのフィルタほど反応は優れていません。また、ターゲットパラメータは、クエリで解釈される唯一のパラメータです。ただし、1000行を超えるデータをフィルタする場合は、リモートサーバーでデータをフィルタリングする必要があります。

対話型ハイライトの例

次に示すダッシュボード例には、2つのインジケータがあります。インジケータ間の相互作用が設定されていないため、ビジネスユーザーが一方のインジケータのデータを探索しても、もう一方のインジケータは変更されません。



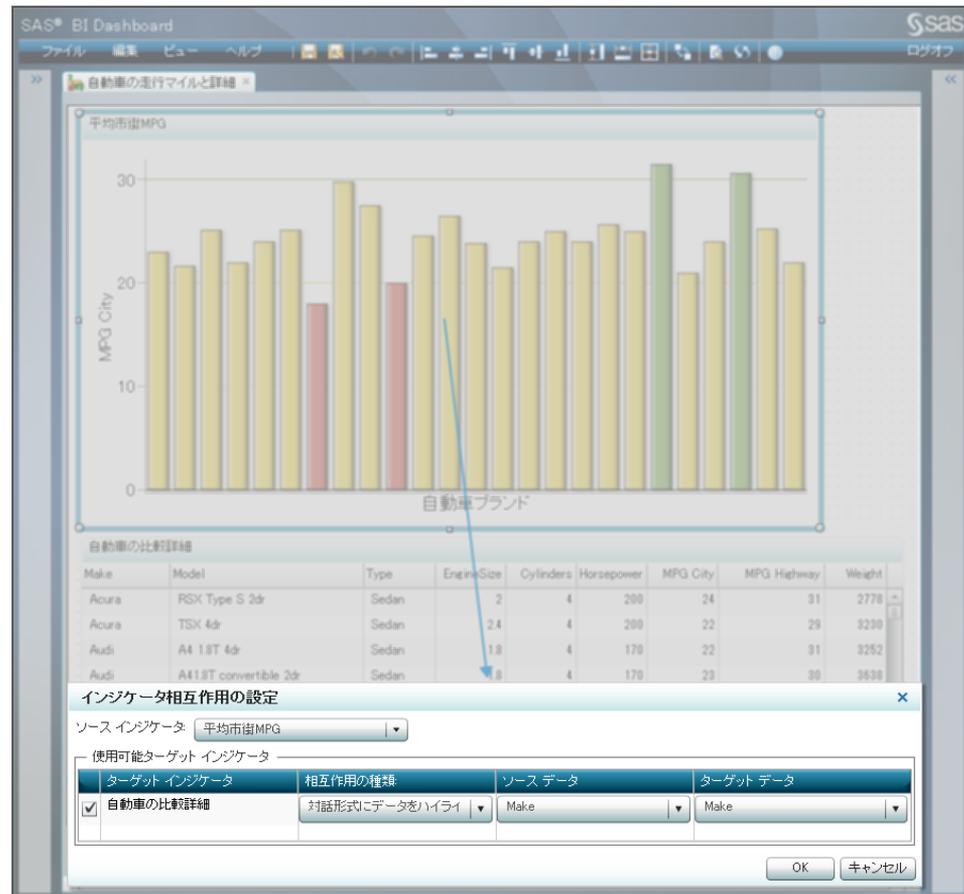
次に、ダッシュボードデザイナーが SAS BI Dashboard デザイナーでインジケータを含むダッシュボードを変更します。

1. ダッシュボードデザイナーは、棒グラフインジケータのソースデータ Make がスパークテーブルインジケータのターゲットデータ Make にマップされるように相互作用を設定します。
2. デザイナーは相互作用の種類として対話形式にデータをハイライトを選択します。

ビジネスユーザーが平均の市街 MPG の棒グラフインジケータの自動車ブランドをクリックすると、次のアクションが発生します。

1. 棒グラフインジケータのデータ Make は、ビジネスユーザーがクリックした自動車ブランドに設定されます。
2. スパークテーブルインジケータのデータ Make も、ビジネスユーザーがクリックした自動車ブランドに設定されます。これは、棒グラフインジケータのデータ Make が、スパークテーブルインジケータのデータ Make にマップされているためです。
3. 次に相互作用が処理され、スパークテーブルインジケータの自動車ブランドがハイライトされます。

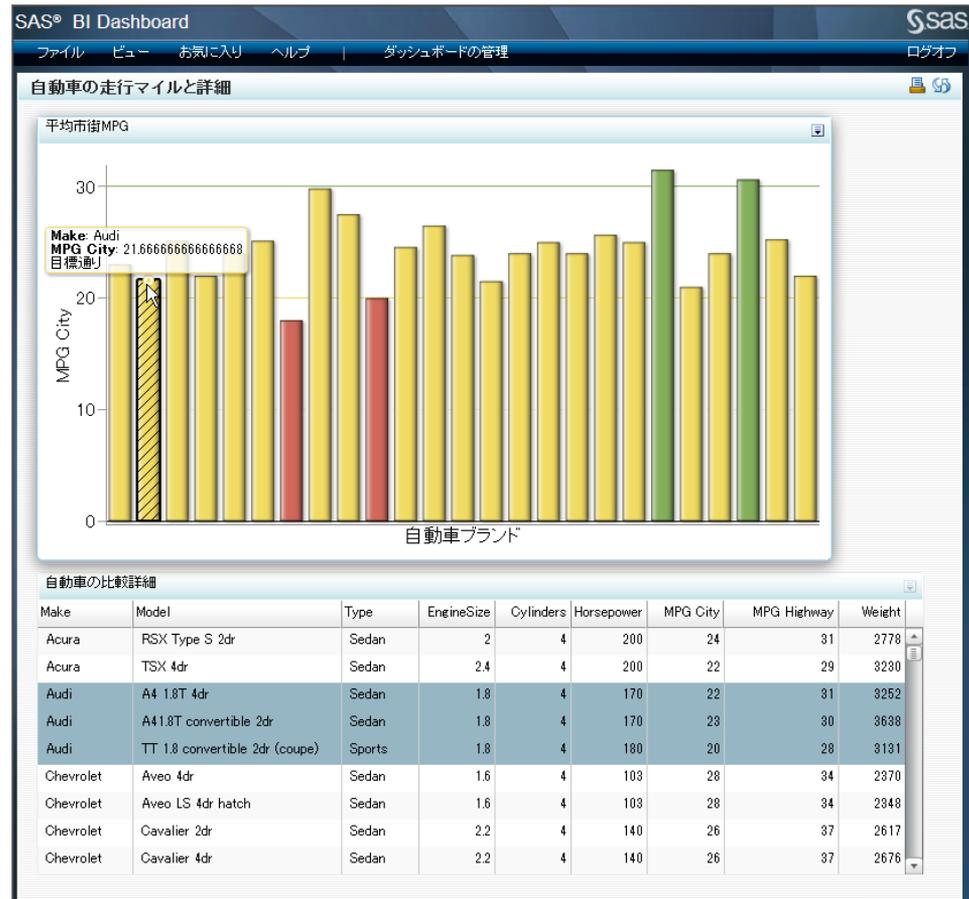
SAS BI Dashboard デザイナでは、このインジケータ相互作用は、棒グラフインジケータからスパークテーブルインジケータへの矢印で示されます。



この矢印を表示するには、ダッシュボードデザイナーは、ダッシュボードのプロパティペインで**相互作用の表示**を選択します。



その後、ビジネスユーザーが、変更されたダッシュボードでデータを探索すると、棒グラフインジケータでクリックした自動車ブランドのデータが、スパークテーブルインジケータでハイライトされます。



相互作用をサポートするインジケータの種類

データフィルタリングのサポート

ソースインジケータのデータポイントをクリックすると、ターゲットインジケータには、クリックしたデータポイントを反映して変更されたデータが表示されます。データフィルタリングを設定するには、ソースインジケータとターゲットインジケータを選択する必要があります。

すべてのインジケータの種類で、データフィルタリングがサポートされるわけではありません。次の表に、サポートの例外を記載します。表に記載されていないインジケータの種類は、ソースインジケータとしてもターゲットインジケータとしても使用できます。

注: 1000 行を超えるデータをフィルタする場合、リモートサーバーのフィルタリングを使用する必要があります。

表 12.1 ローカルシステムのデータフィルタリングをサポートするインジケータの種類

インジケータの種類	ソースに使用	ターゲットに使用
ダイナミックテキスト	いいえ	はい

インジケータの種類	ソースに使用	ターゲットに使用
対話型要約と棒グラフ	いいえ	いいえ
対話型要約と散布図	いいえ	いいえ
対話型要約とターゲット棒グラフ	いいえ	いいえ
KPI ¹	はい	いいえ
スパークテーブル	はい	はい ²

表 12.2 リモートサーバーのデータフィルタリングをサポートするインジケータの種類^{の例外}

インジケータの種類	ソースに使用	ターゲットに使用
スライド表示のチャート	いいえ	はい
ダイナミックテキスト	いいえ	はい
対話型要約と棒グラフ	いいえ	いいえ
対話型要約と散布図	いいえ	いいえ
対話型要約とターゲット棒グラフ	いいえ	いいえ

対話型ハイライトのサポート

対話型ハイライト(データブラッシング)を設定するには、ソースインジケータとターゲットインジケータを選択する必要があります。次の表に記載されたインジケータの種類を除く、インジケータの種類はソースインジケータとターゲットインジケータに使用できません。

すべてのインジケータの種類で、対話型ハイライトがサポートされるわけではありません。次の表に、サポートの例外を記載します。表に記載されていないインジケータの種類は、ソースインジケータとしてもターゲットインジケータとしても使用できます。

表 12.3 対話型ハイライトをサポートするインジケータの種類^{の例外}

インジケータの種類	ソースに使用	ターゲットに使用
スライド表示のチャート	いいえ	いいえ
ダイナミックプロンプト	いいえ	いいえ
ダイナミックテキスト	いいえ	いいえ
対話型要約と棒グラフ	いいえ	いいえ
対話型要約と散布図	いいえ	いいえ

¹ KPI インジケータのすべてのサブタイプを含みます。

² スパークテーブルインジケータをターゲットとして使用するには、**スパーク(グループ別)**と**スパーク X 軸**の設定を(なし)に設定する必要があります。したがって、スパークテーブルインジケータをフィルタのターゲットとして使用する場合、スパーク線は表示できません。

インジケータの種類	ソースに使用	ターゲットに使用
対話型要約とターゲット棒グラフ	いいえ	いいえ
KPI ¹	はい ²	いいえ

相互作用の定義のガイドライン

全般

相互作用のデザイン時には次のガイドラインに従います。

- (対話型ハイライト)複数のターゲットインジケータを指定できます。
- (対話型ハイライト)ハイライトのパラメータは1つだけ指定できます。
- インジケータ A とインジケータ B が相互作用し、インジケータ B とインジケータ C が相互作用するというように、相互作用を連結できます。
- リンクと相互作用の両方を含むインジケータを定義して、リンクが相互作用と同じウィンドウに開かれる場合、リンクの方が相互作用より優先されます。たとえば、レポートを開く、また、別のインジケータと相互作用するダッシュボードを作成した場合、ビジネスユーザーがインジケータをクリックすると、現在のウィンドウにレポートが開かれます。新しいウィンドウにリンクが開かれる場合、現在のウィンドウには相互作用が、新しいウィンドウにはリンクが開かれます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“[インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加](#)” (111 ページ)を参照してください。

パラメータのマッピング

あるインジケータが別のインジケータにどのような影響を与えるかを指定するには、パラメータを使用します。ソースインジケータパラメータがターゲットインジケータパラメータにマップされます。

注: インジケータ間でパラメータを渡すためには、ターゲットインジケータが次のどちらかのデータソースに基づいている必要があります。

- プロンプトフィルタを含む Information Map
- パラメータが定義された Stored Process
- 複数のターゲットインジケータパラメータを指定できます。
- ソースインジケータパラメータとターゲットインジケータパラメータは、同じ種類のデータを参照する必要がありますが、名前が同じである必要はありません。たとえば、ソースインジケータのデータ列 REGION_ID とターゲットインジケータのデータ列 SALES_REGION_ID に同様のデータを保有できます。REGION_ID を SALES_REGION_ID にマッピングして、この2つのデータ列をつなげます。
- データが含まれるデータソースが異なっていても問題ありません。データソースの種類が異なっていても問題ありません。たとえば、SQL クエリによるインジケータデータが含まれるソースインジケータを、Stored Process によるインジケータデータが含まれるターゲットインジケータにマッピングできます。

¹ KPI インジケータのすべてのサブタイプを含みます。

² KPI では、複数のゲージの選択はサポートされません。

- 次のリンクの種類では、オプション指定のパラメータは使用できません。
 - ダッシュボード
 - SAS Information Delivery Portal ページ
 - SAS Information Map

インジケータデータ

次のガイドラインでは、相互作用の使用時のデータ制限について説明します。

対話型ハイライト

対話型ハイライトには、すべての種類のインジケータデータを使用できます。

ローカルシステムのデータのフィルタリング

この種類の相互作用には、すべての種類のインジケータデータを使用できます。

注意:

マップされるパラメータのデフォルト値には、インジケータデータから返されるデータ量を大幅に制限する値を指定しないでください。データが制限され、ローカルシステムでさらにフィルタされると、データ量が減って、一致する行がほとんどない、またはまったくなくなる可能性があります。

リモートサーバーのデータのフィルタリング

- この種類の相互作用で使用できるインジケータデータは、Information Map または Stored Process のみです。いずれのデータも、プロンプトのデフォルト値を指定する必要があります。
- ローカルシステムのデータのフィルタリングは、プロンプトがターゲットインジケータデータに定義されないターゲットパラメータに基づきます。これに対して、リモートサーバーでのデータのフィルタリングは、ターゲットインジケータデータに定義されるターゲットパラメータにのみ基づきます。
- Information Map には、マップされたパラメータであるフィルタを 1 つ以上定義する必要があります。

注意:

SAS BI Dashboard 実行中は、別のアプリケーションでプロンプトのデフォルト値を変更しないでください。SAS BI Dashboard をログオフし、値を変更してから、再度ログインしてください。

- Information Map に日付に基づいたプロンプトを使用する場合、プロンプトに渡す値が、プロンプトで使用可能な出力形式であるかを確認してください。詳細については、“[Information Map の有効な日付出力形式](#)” (243 ページ)を参照してください。

インジケータ相互作用の設定

1 つ以上のインジケータ間の相互作用を設定するには、ダッシュボードワークスペースで次のステップを実行します。

1. ダッシュボードに 2 つ以上のインジケータを追加します。
2. 相互作用のソースにするインジケータを選択して、 をクリックします。インジケータ相互作用の設定ウィンドウが表示されます。

ターゲット インジケータ	相互作用の種類	ソース データ	ターゲット データ
<input type="checkbox"/> 結果			
<input type="checkbox"/> 冠状動脈血流量データ			
<input checked="" type="checkbox"/> 体重	対話形式にデータをハイライ	Chol_Status	Weight

3. **使用可能ターゲットインジケータグループ**の表に、ダッシュボードで使用可能な他のインジケータが示されます。この中から相互作用のターゲットにするインジケータを1つ以上選択します。
 4. 選択したインジケータごとに、**相互作用の種類**列のリストから使用する相互作用の種類を選択します。
 5. 選択したインジケータごとに、**ソースデータ**列のリストから使用するソースデータ列を選択します。ユーザーがソースインジケータでこのデータをクリックすると、相互作用が開始されます。
 6. 選択したインジケータごとに、**ターゲットデータ**列のリストから、使用するターゲットデータ列を選択します。ユーザーがソースインジケータのソースデータをクリックすると、ターゲットインジケータのターゲットデータが反応します。
- 注:** ターゲットインジケータデータでは、Information Map でも Stored Process でも、プロンプトフィルタが必要です。相互作用を設定する際、選択できるターゲットパラメータはプロンプトフィルタのみです。
7. **OK** をクリックして、相互作用を保存し、ウィンドウを終了します。

ヒント 相互作用をグラフィカル表示するには、相互作用の設定後に、ダッシュボードのプロパティペインで**相互作用の表示**をクリックします。相互作用をテストするには、SAS BI Dashboard ビューアまたは SAS BI Dashboard ポートレットでダッシュボードを開く必要があります。

インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加

概要

インジケータから次のコンテンツのいずれかのへのリンクを追加できます。

- 別の SAS BI Dashboard インジケータ

- SAS BI Dashboard ダッシュボード
- Web アドレスへの外部リンク
- ポータルページ
- SAS Information Map
- SAS Stored Process
- SAS Web Report Studio レポート

注: リンクと相互作用の両方を含むインジケータを定義して、リンクが相互作用と同じウィンドウに開かれる場合、リンクの方が相互作用より優先されます。たとえば、レポートを開く、また、別のインジケータと相互作用するダッシュボードを作成した場合、ビジネスユーザーがインジケータをクリックすると、現在のウィンドウにレポートが開かれます。新しいウィンドウにリンクが開かれる場合、現在のウィンドウには相互作用が、新しいウィンドウにはリンクが開かれます。詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。

リンクをサポートするインジケータの種類

インジケータに別の情報ソースを開くリンクを定義できます。

注: 次のインジケータの種類では、リンクはサポートされません。

- スライド表示のチャート
- ダイナミックプロンプト
- ダイナミックテキスト

別のインジケータへのリンクを定義できます。

注: 次のインジケータの種類へのリンクは定義できません。

- 対話型要約と棒グラフ
- 対話型要約と散布図
- 対話型要約とターゲット棒グラフ

ヒント インジケータへのリンクを定義する際、インジケータではどのフォント設定も使用されません。ダッシュボードに含まれている場合のみ、フォント設定がインジケータに適用されます。

一部のリンク先ではパラメータがサポートされます。選択したリンクの種類でパラメータがサポートされている場合は、リンクの設定時に、使用するパラメータ値を含む列データをパラメータデータリストから選択できます。

インジケータでのリンクの設定

インジケータにリンクを設定するには、インジケータタブで次のステップを実行します。

1. プロパティペイン上部の  をクリックします。リンクの設定ウィンドウが表示されます。

注: 次のインジケータの種類では、リンクはサポートされません。

- スライダ表示のチャート
- ダイナミックプロンプト
- ダイナミックテキスト

2. **リンクの種類**リストから、設定するリンクの種類を選択します。
3. **リンクターゲット**リストから、リンクターゲットを現在のウィンドウか新しいウィンドウに開くかを選択します。
4. **リンクフィールド**で、該当するステップを実行します。

外部リンクの場合	リンクフィールドにリンクの Web アドレスを入力します。
----------	-------------------------------

外部リンク以外の場合	リンクフィールドの隣の 参照 をクリックして、項目を選択します。選択できる項目は、リンクの種類によって異なります。
------------	--

5. (オプション)外部リンク、インジケータ、SAS Stored Process、SAS Web Report Studio レポートに対して、**(任意)リンクで使用されるパラメータグループ**で次のステップを実行します。詳細については、“[パラメータの渡す例](#)” (114 ページ)を参照してください。

注: (SAS Web Report Studio レポートのみ)プロンプトが定義された Web レポートにリンクする場合のみ、パラメータを渡せます。

- a. **+**をクリックします。**パラメータ名**フィールドおよび**パラメータデータ**リストがテーブルに表示されます。



注: リンクの種類として SAS Web Report Studio レポートを選択した場合、テーブルの最初の列に表示テキストフィールドが表示されます。

- b. パラメータ名フィールドに、リンクで渡すパラメータの名前を入力します。

注:

- SAS Stored Process を選択した場合、パラメータ名は Stored Process のパラメータを指します。パラメータ名の先頭には&を入力する必要があります(&model など)。
- 名前は、大文字小文字も含めて、必要な名前に完全に一致する必要があります。
- リンクの種類として SAS Web Report Studio レポートを選択した場合は、表示テキストフィールドにレポートに表示するテキストを入力します。

- c. パラメータデータリストから、リンクで渡すデータを選択します。

注: パラメータデータは、インジケータデータのデータ列です(Car など)。

- d. テーブルにはさらにパラメータを追加できます。パラメータの順序を変更するには、パラメータを選択して、パラメータテーブルの横にある矢印ボタンをクリックします。

パラメータを削除するには、行を選択して、行の横にある✕をクリックします。

6. リンクを保存してウィンドウを終了するには、OK をクリックします。

7.  をクリックすると、インジケータにリンク定義が保存されます。

ヒント リンクをテストするには、SAS BI Dashboard ビューアまたは SAS BI Dashboard ポートレットで、インジケータかまたはインジケータを含むダッシュボードを開く必要があります。

パラメータの渡す例

最初の例では、Google Web ページへの外部リンクが指定されます。リンクのパラメータは、Google 検索を生成するものです。この例では、次のオプションのリンクパラメータが指定されます。

- パラメータ名列で、select_date が選択されます。
- パラメータデータ列で、date が選択されます。

次のリンクが生成されます。

```
http://www.google.com/search?hl=en&q={select_date}
```

2 番目の例は、SAS Stored Process へのリンクを説明します。この例では、KPI インジケータで SASHELP.CLASS が参照され、範囲値というインジケータ表示設定が AGE に設定されます。次のオプションのリンクパラメータが指定されます。

- パラメータ名列で、select_age が選択されます。
- パラメータデータ列で、Age が選択されます。

選択した Stored Process (パラメータを含む Stored Process)は、次のように定義されま

```
(stpWithParameter.sas)
options gsfname=_webout gsfmode=replace;
options device=png;
data temp; set sashelp.class;
if age="&select_age" then output;
run;
proc gchart data=temp; vbar age / discrete; run; quit;
```

インジケータまたは静的なコンテンツのズームの有効化

概要

ズーム機能を使用して、インジケータをズームイン(拡大)できます。この機能では、ズームを有効化するのみではなく、インジケータのズーム率も指定できます。ズームを有効化した場合、インジケータのタイトルバーにズーム+アイコンが表示されます。

注: インジケータのタイトルバーも有効化した場合のみ、ズーム機能が有効化されます。タイトルバーを有効化するには、**ツールバーと罫線の表示**を選択します。

ダッシュボードのデザインとズーム機能

インジケータがズームされていないと、一部のインジケータコンテンツが表示されなかったり読みにくかったりする場合があります。をクリックすると、インジケータが拡大され、コンテンツが意図されたように表示されます。ただし、インジケータの拡大により、ダッシュボード内の他のインジケータが隠れてしまう場合があります。インジケータを元のサイズに縮小するには、をクリックします。

ズーム機能を有効化した場合、ズームを選択する際にインジケータの拡大率(パーセント)を指定できます。たとえば、インジケータを2倍に拡大する場合は、ズーム率に200%を指定します。

注: ズーム機能を無効化するには、ズーム率に100%を指定します。

ズーム機能は、スペースの節約に使用できます。ダッシュボードのインジケータを縮小しても、詳細を表示するズームイン機能を提供できます。ダッシュボードのインジケータごとに異なるズーム設定を割り当てることができます。ズーム機能はインジケータで設定しますが、設定は、実際にはインジケータが表示されるダッシュボードに関連付けられます。インジケータを複数のダッシュボードで使用する場合、インジケータが表示されるダッシュボードごとにズーム設定を変更できます。

注:

- ダイナミックプロンプトを除くすべてのインジケータの種類で、この機能がサポートされます。
- 静的なコンテンツでもズームがサポートされています。
- オブジェクトがレイアウト(横または縦)テンプレートに含まれる場合、テンプレートをズーム設定すると、オブジェクトにも同じように影響します。詳細について

は、“[テンプレートを使用したダッシュボードコンテンツのレイアウト](#)” (100 ページ)を参照してください。

ズームの有効化

インジケータでズームを有効化するには、次のステップを実行します。

1. 開いているダッシュボードで、インジケータをクリックします。プロパティペインにオブジェクトセクションが表示されます。
2. **ズーム (%)**グループで、インジケータの拡大に使用する幅と高さを設定します。
3. **オプション**グループで、**ツールバーと罫線の表示**が選択されている必要があります。
4.  をクリックして設定を保存します。
5. 設定が適切であることを確認するには、 をクリックします。プレビューウィンドウが表示されます。
6. 影響を受けるインジケータのタイトルバーで  をクリックします。インジケータがズーム設定に合わせて拡大します。
7. ズーム設定を調整するには、**プレビューウィンドウの閉じる**をクリックして、ダッシュボードワークスペースに戻ります。**ズーム (%)**グループの設定を変更して、ダッシュボードを再度プレビューします。

ズームの無効化

インジケータでズームを無効化するには、次のステップを実行します。

1. 開いているダッシュボードで、インジケータを選択します。プロパティペインにオブジェクトセクションが表示されます。
2. **ズーム (%)**グループで、幅と高さを 100 に設定します。
3.  をクリックして設定を保存します。

対話型スライダを含むインジケータの追加

SAS BI Dashboard では、対話型スライダを含むインジケータの種類が提供されます。対話型スライダを使用して、データセットの時系列の変化を表示できます。インジケータの作成については、“[インジケータの作成](#)” (74 ページ)を参照してください。インジケータの種類の詳細については、インジケータディクショナリのエントリを参照してください。

次のインジケータの種類では、対話型スライダを利用できます。

- スライダ表示のチャート (“[スライダ表示のチャート](#)” (148 ページ)を参照してください。)
- 対話型要約と棒グラフ (“[対話型要約と棒グラフ](#)” (170 ページ)を参照してください。)
- 対話型要約と散布図 (“[対話型要約と散布図](#)” (175 ページ)を参照してください。)

- 対話型要約とターゲット棒グラフ(“対話型要約とターゲット棒グラフ”(182 ページ)を参照してください。)

13 章

アラートのカスタマイズ

概要	119
アラートについて	119
アラート定義	119
アラートのトリガ方法	120
アラート基準とデータ集計	120
アラート計算に影響する可能性のある変更	121
別のユーザーまたはユーザーグループのアラートの操作	121
概要	121
インジケータアラートの作成	121
インジケータアラートの編集	125
インジケータアラートの削除	125
個人用インジケータアラートの許可	125

概要

ダッシュボードデザインは、次のようにインジケータ機能をカスタマイズできます。

- ユーザーまたはユーザーグループのインジケータアラートを作成する
- ユーザーが個人用インジケータアラートを作成できるようにする

注:

- 範囲を関連付けたインジケータにのみアラートを定義できます。詳細については、「[範囲をサポートするインジケータの種類](#)」(67 ページ)を参照してください。
- SAS BI Dashboard 4.3 では、個人用設定として、個人用アラートの許可のみ用意されています。

アラートについて

アラート定義

アラートを定義する際、アラートの発生条件を指定します。この条件がトリガです。トリガを定義するには、次の選択を行う必要があります。

- 評価する範囲
- その範囲でのデータポイント値の発生間隔
- その間隔でのデータポイントの発生パーセント

アラートのトリガ方法

アラートは次の手順でトリガされます。

1. SAS BI Dashboard で、インジケータデータの変更と、インジケータのアラート定義の更新のどちらかまたは両方が確認されます。デフォルトでは、この確認は 3 分ごとに行われます。SAS BI Dashboard の管理者はこの設定を変更できます。
2. 間隔内のデータポイントのパーセントが変更されている場合、アラート基準が評価されます。
3. 基準に一致する場合、アラートがトリガされて、サブスクライバに通知が送信されます。

注: アラートの作成時にアラート基準が満たされていると、アラートは即時にトリガされます。その後、データが変更され、アラート基準が満たされたときのみ、アラートはトリガされます。

アラート基準が評価される際、評価はサブスクライバごとに行われます。サブスクライバのアラートが複数ある場合は、そのサブスクライバの各アラートが評価されてから、次のサブスクライバに進みます。したがって、同一アラートに多数のサブスクライバが設定されている場合、あるサブスクライバが別のサブスクライバよりも遅れてアラート通知を受け取ることもあります。時間が経過したために、アラートの評価が変わる場合さえあります。ただし、メンバを複数含むグループは、1 サブスクライバとして処理されます。したがって、複数のサブスクライバを個々にアラートに追加するよりも、サブスクライバグループに対してアラートを設定する方が効率的です。

アラート基準とデータ集計

インジケータでデータが集計される場合、アラートのトリガに使用されるパーセントは、インジケータデータを評価して、間隔内のデータポイント数を特定することで計算されることを理解することが重要になります。グラフビューに示される集計結果は、評価されません。棒グラフに 3 本の棒があるとします。それぞれの棒は、複数のデータポイントの平均を表します。ある棒は、アラート間隔に含まれます。しかしながら、その棒に関連付けられている個々のデータポイントはどれもこの間隔に含まれない可能性があります。この場合、3 本の棒は、アラート計算に使用されるデータポイントではなく、集計データを反映しています。

次のインジケータでは、アラートがサポートされています。また、データを集計できません。

- 棒グラフ(ビュレット)
- 参照線付き棒グラフ
- 対話型要約と棒グラフ
- 対話型要約とターゲット棒グラフ
- ターゲット棒グラフ
- タイルチャート
- ウォーターフォールチャート

アラート計算に影響する可能性のある変更

データの変更以外に、次のインジケータコンポーネントの更新によっても、間隔パーセントの計算が影響を受け、アラートの再評価が引き起こされる場合があります。

- インジケータのソースデータが変更されると、評価に使用可能なデータが変更される場合があります。たとえば、Information Map に定義したフィルタを更新する場合、新規フィルタ定義によって、評価されるデータポイント数が変更される可能性があります。
- インジケータデータの定義が変更されると、評価に使用可能なデータが変更される場合があります。評価対象データが変更される変更例を次に示します。
 - インジケータデータの定義を更新して、SQL クエリを変更する。
 - Information Map の選択済み項目を変更する。
 - テーブルのグループ基準を更新する。
- 範囲を変更すると、計算されたパーセントが変更される場合があります。たとえば、範囲の上限を 100 から 200 に変更すると、その範囲内および間隔内に存在するデータポイントのパーセントが変更される場合があります。
- インジケータの定義を変更すると、評価されるデータ値が変更される場合があります。たとえば、高さから重みに Y 軸値設定を変更すると、評価されるデータが変更されます。

別のユーザーまたはユーザーグループのアラートの操作

概要

ダッシュボードデザイナーは、別のユーザーやユーザーグループのアラートを作成できます。ビジネスユーザーは、これらのアラートの作成や編集はできません。

ヒント アラート定義は、インジケータ定義ファイルに保存されます。他のユーザーのアラートを設定する際は、影響を受けるすべてのサブスクライバがアクセスできる場所にインジケータ定義ファイルを保存する必要があります。たとえば、特定ユーザーのマイフォルダの場所にインジケータ定義ファイルを保存すると、他のサブスクライバはそのファイルを参照できません。この場合、アラートが予想どおりに機能しないことがあります。

インジケータアラートの作成

インジケータアラートを作成する際、トリガの間隔を指定する必要があります。トリガの間隔は、範囲に依存します。このため、範囲を含むインジケータの種類にのみ、インジケータアラートを作成できます。詳細については、「[範囲をサポートするインジケータの種類](#) (67 ページ)を参照してください。

インジケータアラートを作成するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard デザイナーで、アラートを作成するインジケータを開きます。
2. プロパティペイン上部の🔔をクリックします。インジケータアラートの作成ウィンドウが表示されます。

3. **アラート名**フィールドで、アラートの名前を入力します。

4. **ゲージ定義**リストから、評価する範囲を選択します。

注: ほとんどのインジケータは範囲を1つしか使用しないので、その範囲がデフォルトになります。ただし、次のインジケータでは範囲が2つ使用されます。したがって、評価する範囲を選択する必要があります。

- 対話型要約と散布図
- Range Map

5. **トリガの間隔**リストから、アラートがトリガされる値の発生間隔を選択します。

6. アラートがトリガされる、選択した間隔に含まれる値(すなわち、データポイントやゲージ)の数を指定します。

- **ゲージが間隔に含まれる場合**
- **% 以上が間隔に含まれる場合**

注: この設定を選択した場合、チェックボックスの横にあるフィールドに値を入力します。

7. アラートの配信方法として、**アラート ポートレット**または**電子メール サブスクライバ**を選択します。

注:

- 両方の方法を選択することもできます。
- **アラート ポートレット**を選択するには、SAS Information Delivery Portal に受信者のアラートポートレットが定義されている必要があります。アラートポートレットが定義されていない場合、アラートはサーバーに保存されたままに

なります。アラートポートレットをポータルに追加すると、アラートポートレットにこれまでのアラートがすべて表示されます。

- ビジネスユーザーの電子メールアドレスは、SAS メタデータから使用できる必要があります。詳細については、*SAS Management Console: Guide to Users and Permissions* を参照してください。

8. (オプション)電子メール サブスクライバを選択した場合は、次のステップを実行します。

- a. **電子メールテンプレート**リストから、アラートの電子メール通知に使用するテンプレートを選択します。

テンプレートの種類	説明
リンクのみ	電子メールに、影響を受けたインジケータを SAS BI Dashboard ビューアに開くリンクが含まれます。 <i>注:</i> すべてのインジケータの種類で、このテンプレートがサポートされます。
デフォルト	電子メールに、影響を受けたインジケータのイメージと、影響を受けたインジケータを SAS BI Dashboard ビューアに開くリンクが含まれます。 <i>注:</i> 次のインジケータの種類で、このテンプレートがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • 参照線付き棒グラフ • KPI • 参照線付き折れ線グラフ • Range Map • 散布図 • ターゲット棒グラフ

- b. **件名**フィールドに件名を入力します。**電子メールに追加するメッセージ**フィールドに、電子メールに含める追加メッセージを入力します。
- c. ユーザーやユーザーグループを選択するには、アラートサブスクライバのリストの横にある **+** をクリックします。**ユーザーまたはグループの追加**ウィンドウが表示されます。



- d. 検索するテキストを**検索**フィールドに入力します。
注: 部分テキストは有効です。ワイルドカード値*がサポートされています。
 - e. 検索するカテゴリ(**ユーザー**または**グループ**、あるいはその両方)を選択します。
 - f. **検索**をクリックします。検索条件に一致するすべてのエントリがテーブルに表示されます。
 - g. テーブルから、追加する各エントリの横にあるチェックボックスを選択します。
注: テーブルから**アラート サブスクライバ**のリストにエントリをドラッグすることもできます。
 - h. サブスクライバを削除するには、リストから**ユーザー**を選択して**X**をクリックします。
 - i. **OK**をクリックして、**ユーザーまたはグループの追加**ウィンドウを閉じます。
9. アラートの数を制限するには、**インジケータ変更頻度のアラートの制限**を選択し、フィールドに値を入力して、フィールドの横にあるリストから時間間隔を選択します。

ヒント ウィンドウのサイズによっては、この選択項目を表示するために左ペインのスクロールダウンが必要になる場合があります。

10. **アラートの保存**をクリックします。**アラート**表にアラートが表示されます。
11. 別のアラートを作成する場合、**アラートの新規作成**をクリックします。**インジケータアラートの作成**ウィンドウを終了するには、**OK**をクリックします。
12. インジケータワークスペースでをクリックして、インジケータのアラート定義の変更を保存します。

注: アラートの作成時にアラート基準が満たされていると、アラートは即時にトリガされます。その後、データが変更され、アラート基準が満たされたときのみ、アラートはトリガされます。

インジケータアラートの編集

インジケータアラートを編集するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard デザイナで、編集対象のアラートがあるインジケータを開きます。
2. プロパティペイン上部のをクリックします。**インジケータアラートの管理**ウィンドウが表示されます。
注: **インジケータアラートの管理**ウィンドウが表示されると、**アラート表**の最初のアラートが自動的にハイライトされて、ウィンドウの左側にプロパティが表示されます。
3. **アラート表**で、アラートを選択します。アラートのプロパティがウィンドウの左側に表示されます。
4. “**インジケータアラートの作成**” (121 ページ)の説明に従ってプロパティを編集します。
5. **アラートの保存**をクリックします。
6. **OK**をクリックして、**インジケータアラートの管理**ウィンドウを終了します。
7. インジケータワークスペースでをクリックして、インジケータのアラート定義の変更を保存します。

注: 最後の評価以降に編集によって計算された間隔パーセントが変更され、なおもアラート基準が満たされている場合は、アラートがトリガされます。

インジケータアラートの削除

アラートを削除するには、次のステップを実行します。

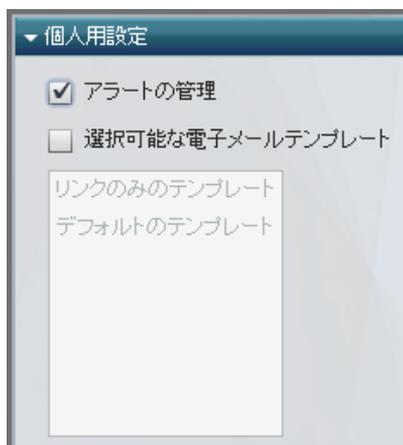
1. **インジケータアラートの管理**ウィンドウで、**アラート表**からアラートを選択します。
2. をクリックします。
3. **OK**をクリックして、**インジケータアラートの管理**ウィンドウを終了します。
4. インジケータワークスペースでをクリックして、インジケータのアラート定義の変更を保存します。

個人用インジケータアラートの許可

ダッシュボードデザイナーは、ビジネスユーザーによる個人用インジケータアラートの作成や編集を許可できます。**個人用インジケータアラート**は、このアラートを作成したユーザーにのみ送信されます。個人用インジケータアラートは、ダッシュボードデザイナーによってインジケータに作成されるアラートに加えて送信されます。

ユーザーによる個人用インジケータアラートの作成を許可するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard デザイナで、アラートを許可するインジケータを開きます。
2. プロパティペインで、下部にある**個人用設定**セクションを展開します。



3. **アラートの管理**を選択します。
4. ビジネスユーザーがアラートの電子メール通知に使用できるテンプレートのカスタマイズする場合は、**選択可能な電子メールテンプレート**を選択します。

テンプレートの種類	説明
リンクのみ	電子メールに、影響を受けたインジケータを SAS BI Dashboard ビューアに開くリンクが含まれます。 注: すべてのインジケータの種類で、このテンプレートがサポートされます。
デフォルト	電子メールに、影響を受けたインジケータのイメージと、影響を受けたインジケータを SAS BI Dashboard ビューアに開くリンクが含まれます。 注: 次のインジケータの種類で、このテンプレートがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • 参照線付き棒グラフ • KPI • 参照線付き折れ線グラフ • Range Map • 散布図 • ターゲット棒グラフ

- 参照線付き棒グラフ
- KPI
- 参照線付き折れ線グラフ
- Range Map
- 散布図
- ターゲット棒グラフ

5.  をクリックしてインジケータを保存します。

ダッシュボードビューアで、**アラートの個人用設定**が  メニューに表示されます。

14 章

ダッシュボードのテスト

概要	127
ダッシュボードのプレビューを使用したダッシュボードのテスト	127
SAS BI Dashboard ビューアを使用したダッシュボードのテスト	128
SAS BI Dashboard ポートレットを使用したダッシュボードのテスト	128

概要

次の方法でダッシュボードをテストできます。

- SAS BI Dashboard デザイナのダッシュボードのプレビュー機能を使用する
- SAS BI Dashboard ビューアでダッシュボードを表示する
- SAS BI Dashboard ポートレットでダッシュボードを表示する

ダッシュボードのプレビューを使用したダッシュボードのテスト

注: ダッシュボードのプレビューでは、次の機能のテストはサポートされていません。

- リンク
- アラート
- コメント

プレビュー機能を使用してダッシュボードをテストするには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard デザイナでダッシュボードを開きます。
2. ツールバーから、 をクリックします。ダッシュボードのプレビューウィンドウが表示されます。
3. プレビューで問題がない場合、**閉じる** をクリックします。

注: **閉じる** ボタンは、プレビューウィンドウの右下端にあります。

SAS BI Dashboard ビューアを使用したダッシュボードのテスト

SAS BI Dashboard ビューアを使用してダッシュボードをテストするには、SAS BI Dashboard デザイナーツールバーのをクリックします。SAS BI Dashboard ビューアが開いて、現在のダッシュボードが表示されます。ダッシュボードのテストで問題がない場合、**ダッシュボードの管理**をクリックして、ダッシュボードデザイナーに戻ります。

SAS BI Dashboard ポートレットを使用したダッシュボードのテスト

SAS BI Dashboard ポートレットを使用してダッシュボードをテストするには、ポータルを開いて SAS BI Dashboard ポートレットに移動します。ダッシュボードを開きます。ダッシュボードテストに問題がない場合、をクリックして、ダッシュボードデザイナーに戻ります。

4 部

付録

付録1	
インジケータディクショナリ	131
付録2	
データを集計するインジケータの種類	241
付録3	
Information Map の有効な日付出力形式	243

付録 1

インジケータディクショナリ

このディクショナリの使い方	132
インジケータの種類: カテゴリ別	132
棒グラフ(ピュレット)	138
参照線付き棒グラフ	141
バブルプロット	145
スライダ表示のチャート	148
集合棒グラフ	151
カスタムグラフ	154
折れ線グラフ(2本線)	158
ダイナミックプロンプト	162
ダイナミックテキスト	165
予測グラフ	167
対話型要約と棒グラフ	170
対話型要約と散布図	175
対話型要約とターゲット棒グラフ	182
KPI (Key Performance Indicator)	187
参照線付き折れ線グラフ	193
ニードルプロット	196
円グラフ	199
Range Map	202
散布ヒストグラム	205
散布図	208
スケジュールチャート	212
棒グラフ	215
スパークテーブル	218
積み上げ棒グラフ	223
ターゲット棒グラフ	226
タイルチャート	229

ベクトルプロット	232
ウォーターフォールチャート	236

このディクショナリの使い方

このディクショナリでは、SAS BI Dashboard で提供されている使用可能なすべてのインジケータについて説明しています。インジケータはアルファベット順に表示されていますが、インジケータをカテゴリ別にクロス参照するテーブルも提供されています。

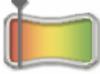
ディクショナリのインジケータエントリーにはそれぞれ、次の情報が提供されています。

- 定義とサンプル図。サンプル図には、インジケータのサンプルの表示設定とインジケータデータも示されます。
- インジケータが適しているデータと適していないデータについて説明する使い方の情報。この情報には、インジケータによるデータ集計、範囲、アラート、リンク、相互作用のサポートの有無も含まれます。
- 全般設定、設定の変更方法に関する情報。
- 使用可能な各表示設定についての説明。サンプル図の表示設定の例は、その設定がインジケータの表示にどのように影響するかを示すために提供されます。
- サンプル図のインジケータデータ構造のサンプル。この情報は、インジケータでの使用に必要なインジケータデータを表示するために提供されます。インジケータデータ要件に関する特有な情報も提供されています。

インジケータの種類: カテゴリ別

カテゴリ	インジケータの種類	アイコン	ページ
ダイナミックゲージ	ダイナミックビュレットバー		これらのゲージは、KPI インジケータの種類の子タイプです。“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。
	ダイナミックダイアル		
	ダイナミックスライダ		
	ダイナミックスピードメータ		
	ダイナミック温度計		
	ダイナミックストップライト		

カテゴリ	インジケータの種類	アイコン	ページ
ダイアル	ゲージ		これらのゲージは、KPI インジケータの種類のサブタイプです。“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。
	シンプルタコメータ		
	タコメータ(単色)		
	リバースタコメータ		
	様式的タコメータ		
	様式的強調タコメータ		
	ダイナミックダイアル		
ダイアル(続く)	ダイナミックスピードメータ		これらのゲージは、KPI インジケータの種類のサブタイプです。“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。
	シンプルダイアル		
	印付きダイアル		
	温度計(放射状)		

カテゴリ	インジケータの種類	アイコン	ページ
スライダ	ダイナミックスライダ		これらのゲージは、KPI インジケータの種類のサブタイプです。“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。
	様式的スライダ		
	縦スライダ		
	スライダ		
	曲線スライダ		
	シリンダ		
ストップライト	ダイナミックストップライト		これらのゲージは、KPI インジケータの種類のサブタイプです。“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。
	ストップライト		
インジケータ	ポインタ		これらのゲージは、KPI インジケータの種類のサブタイプです。“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。
	アロー		
インジケータ(続く)	シンプルアロー		これらのゲージは、KPI インジケータの種類のサブタイプです。“KPI (Key Performance Indicator)” (187 ページ)を参照してください。
	ファンシーアロー		
	ボタン		

カテゴリ	インジケータの種類	アイコン	ページ
Gauged Graph	参照線付き棒グラフ		“参照線付き棒グラフ” (141 ページ)を参照してください。
	ターゲット棒グラフ		“ターゲット棒グラフ” (226 ページ)を参照してください。
	参照線付き折れ線グラフ		“参照線付き折れ線グラフ” (193 ページ)を参照してください。
	散布図		“散布図” (208 ページ)を参照してください。
	散布ヒストグラム		“散布ヒストグラム” (205 ページ)を参照してください。
	カスタムグラフ		“カスタムグラフ” (154 ページ)を参照してください。
Range Map	Range Map		“Range Map” (202 ページ)を参照してください。
	ツリーマップ(タイルチャートから変更)		“タイルチャート” (229 ページ)を参照してください。

カテゴリ	インジケータの種類	アイコン	ページ
グラフとプロット	棒グラフ		“棒グラフ” (215 ページ)を参照してください。
	積み上げ棒グラフ		“積み上げ棒グラフ” (223 ページ)を参照してください。
	棒グラフ(ビュレット)		“棒グラフ(ビュレット)” (138 ページ)を参照してください。
	集合棒グラフ		“集合棒グラフ” (151 ページ)を参照してください。
	参照線付き折れ線グラフ		“参照線付き折れ線グラフ” (193 ページ)を参照してください。
	折れ線グラフ(2 本線)		“折れ線グラフ(2 本線)” (158 ページ)を参照してください。
	予測グラフ		“予測グラフ” (167 ページ)を参照してください。
	バブルプロット		“バブルプロット” (145 ページ)を参照してください。
	ニードルプロット		“ニードルプロット” (196 ページ)を参照してください。
	円グラフ		“円グラフ” (199 ページ)を参照してください。

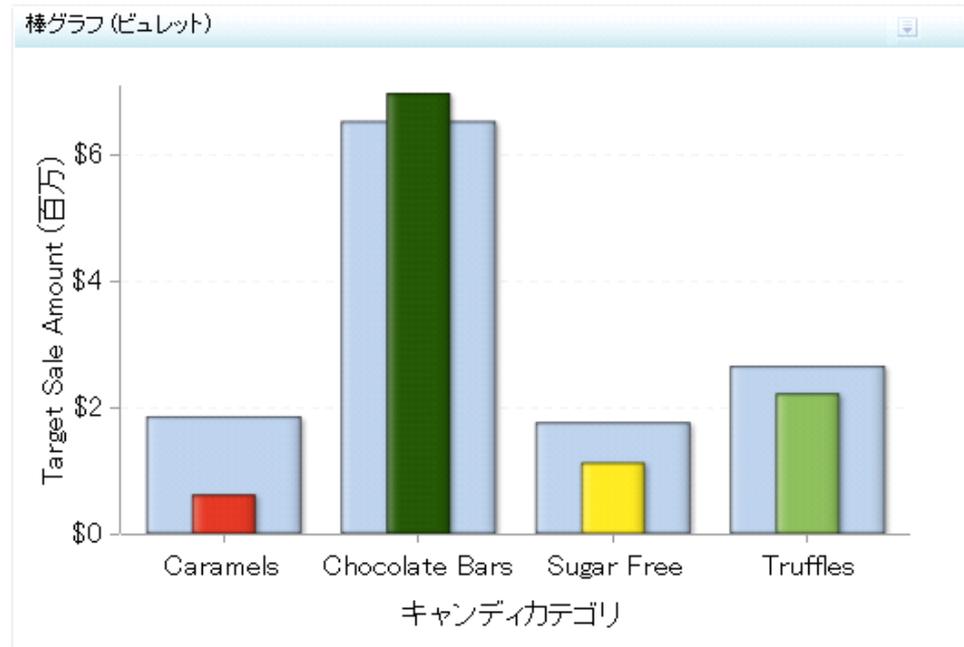
カテゴリ	インジケータの種類	アイコン	ページ
チャートとプロット(続く)	スパークテーブル		“スパークテーブル” (218 ページ)を参照してください。
	スケジュールチャート		“スケジュールチャート” (212 ページ)を参照してください。
	ベクトルプロット		“ベクトルプロット” (232 ページ)を参照してください。
	ウォーターフォールチャート		“ウォーターフォールチャート” (236 ページ)を参照してください。
相互作用	ダイナミックプロンプト		“ダイナミックプロンプト” (162 ページ)を参照してください。
	ダイナミックテキスト		“ダイナミックテキスト” (165 ページ)を参照してください。
	スライダ表示のチャート		“スライダ表示のチャート” (148 ページ)を参照してください。
	対話型要約と棒グラフ		“対話型要約と棒グラフ” (170 ページ)を参照してください。
	対話型要約と散布図		“対話型要約と散布図” (175 ページ)を参照してください。
	対話型要約とターゲット棒グラフ		“対話型要約とターゲット棒グラフ” (182 ページ)を参照してください。

棒グラフ(ビュレット)

定義

棒グラフ(ビュレット)は、1つのグリッド、複数の縦または横の列(棒)と各棒の内側のビュレット線で構成されます。各棒の長さは量的メジャーを表し、棒の内側のビュレットにより、このメジャーをターゲットなど別のメジャーと比較します。ビジネスユーザーは、棒とそのビュレットを使用して、ビュレットメジャーと棒の値を迅速に比較できます。

図 A1.1 棒グラフ(ビュレット)インジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	棒グラフ(ビュレット)は、主メジャーを別のメジャーと比較する場合に使用します。たとえば、棒グラフ(ビュレット)は、売り上げ高をターゲットと比較したり、現在の気温を平均気温や最高気温と比較したりする場合に適しています。
適さないデータ	棒グラフ(ビュレット)は、簡単に比較できなかったり、互いに関連しない2つのメジャーを比較する場合は使用しません。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。

データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13章、「アラートのカスタマイズ」(119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、「インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加」(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、「インジケータ間の相互作用の追加」(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定” (75 ページ)
- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)
- “グラフスタイルの指定” (76 ページ)
- “並べ替え順序の指定” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	Sale Amount
X 軸値	Category
棒の値	Target Sale Amount
ビュレットの値	Sale Amount
X 軸のタイトル	キャンディカテゴリに設定

表示設定	図に使用された選択内容
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Target Sale Amount に設定) 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (百万) がタイトルに追加され ます。
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)範囲値リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択しま
す。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表
されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
注: この設定は、インジケータに描画されるビュレットバーの色に影響します。
- (必須)棒の値リストから、インジケータで描画される棒に使用する値を選択します。
注: この設定は、インジケータの幅が広い薄い青の棒に影響します。色は変更で
きません。
- (必須)ビュレットの値リストから、インジケータで描画されるビュレットに使用
する値を選択します。
注: この設定は、定義された範囲の色に対応する幅が狭い棒に影響します。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力しま
す。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使
用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸の
スケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力
します。タイトルを指定しない場合、棒の値リストから選択した値がデフォ
ルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力
します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加され
ます。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データ
が数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸
のタイトルが収益に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸
のタイトルは収益 (百万) と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸のスケールを選択します。選択すると、データ
が数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸
のタイトルが収益に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸
のタイトルは収益 (百万) と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛ラベルを非表示
にするには、X 軸目盛りラベルの非表示を選択します。軸目盛ラベルは、ユー
ザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト
時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にする
には、ズームアウト時の軸の非表示を選択します。軸は、ユーザーがズーム
インすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やす
くする場合に選択します。

- **行グループ化**リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **X 軸ラベル**リストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

棒グラフ(ビュレット)を作成するには、1 つの変数(X 軸値)と、少なくとも 2 つのメジャー(棒の値とビュレットの値)を指定する必要があります。この例では、2 つのメジャーが指定されています。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Category (X 軸値)	Sale Amount (棒の値)	Target Sale Amount (ビュレットの値)
Caramels	\$625,601	\$1,862,471
Chocolate Bars	\$6,988,757	\$6,544,357
Sugar Free	\$1,133,940	\$1,770,507
Truffles	\$2,230,216	\$2,666,718

参照線付き棒グラフ

定義

参照線付き棒グラフは、1 つのグリッドと複数の縦または横の列(棒)で構成されます。各列は量的データを表します。さらに、参照線はチャートの特定データ値を強調するために描画されます。

図 A1.2 参照線付き棒グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	グラフに平均間隔を表示する場合、参照線付き棒グラフの使用が最も簡単です。各データ系列のツールチップは、表示された値が平均間隔であることを示します。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。参照線により、特に、ユーザーは値の間隔を簡単に特定し、間隔のいき値からの値の乖離を迅速に把握できるようになります。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13 章、“アラートのカスタマイズ” (119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定” (75 ページ)
- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)
- “グラフスタイルの指定” (76 ページ)
- “並べ替え順序の指定” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Product_Line
棒の値	Profit
X 軸のタイトル	製品ラインに設定
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Profit に設定) 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (千) がタイトルに追加されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸の出力形式	\$123,456 が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- (必須)棒の値リストから、インジケータで描画される棒に使用する値を選択します。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが収益に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸のタイトルは収益 (百万) と表示されます。

- Y 軸をスケールするには、**Y 軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **Y 軸のスケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、**X 軸目盛りラベルの非表示**を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、**ズームアウト時の軸の非表示**を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に参照線を非表示にするには、**参照線の非表示**をクリックします。参照線は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- **行グループ化**リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **X 軸ラベル**リストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

参照線付き棒グラフを作成するには、1 つの変数(X 軸値)と 1 つのメジャー(棒の値)を指定する必要があります。オプションで、**行グループ化**リストと**列グループ化**リストを使用して、追加変数を指定できます。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Product Line (X 軸値)	Profit (棒の値)
Children	4,123
Clothes & Shoes	9,947
Outdoors	5,010
Sports	15,213

注: 参照線付き棒グラフインジケータで集計しないようにするには、インジケータデータレベルでデータを集計します。

最適な結果を得るには、インジケータデータは、カテゴリラベルデータ列の重複しない値ごとに1つの値のみ返す必要があります。インジケータデータが1つの値のみ返す場合、参照線付き棒グラフインジケータではデータを集計する必要はありません。カテゴリ変数は、データソースが定義される際、カテゴリラベルフィールドに選択されたデータ列により指定されます。

参照線付き棒グラフインジケータでデータを集計する場合、参照線付き棒グラフでは次の2つの処理が行われます。

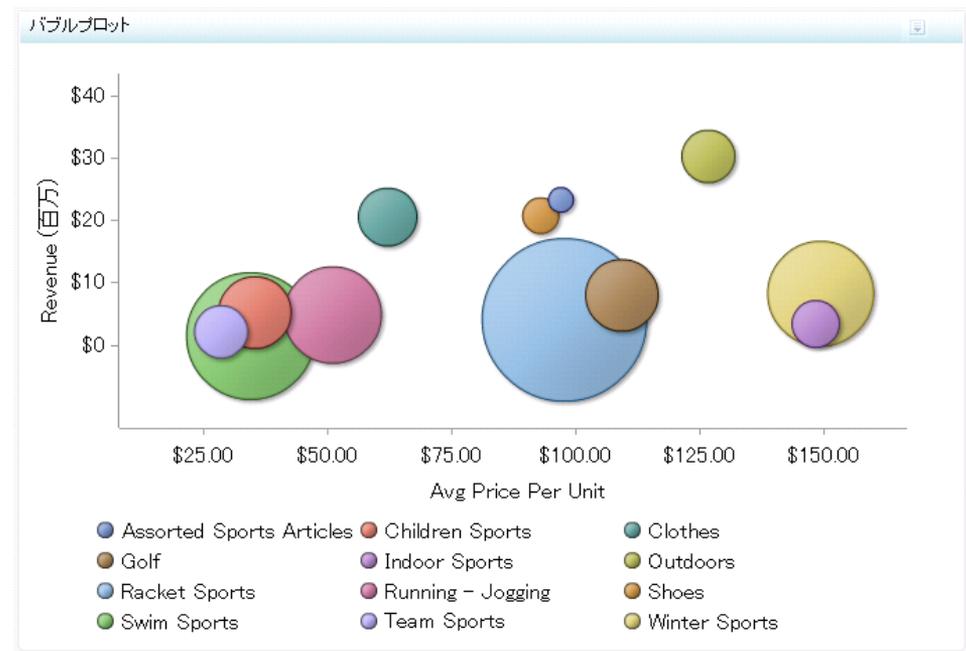
1. 各データ系列の平均間隔にデータポイントが表示されます。
2. 集計される間隔のインデックスが平均され、表示する間隔と棒の色が決定されます。

バブルプロット

定義

バブルプロットは、値間の関係を表示するためにプロットされるデータポイントのセットから構成されるチャートです。プロットの各データポイントは、相関による第3変数への影響を示すためにサイズが調整されたバブルです。

図 A1.3 バブルプロットインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	バブルの直径に企業の規模、X 軸に企業の成長、Y 軸に企業の現在の収益を表すことができます。複数のバブルがオーバーラップし、すべてのバブルを表示する必要がある場合、透明バブルを使用できます。色付きバブルは、類似するバブルをグループ化する場合に使用します。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。ただし、ユーザーが個々のディメンション(バブル配置、サイズ、色)の意味を解釈できるように、明確で読みやすい凡例をバブルプロットに提供することは重要です。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ”(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加”(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)”(75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)”(76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)”(77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)”(77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)”(76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)”(77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
グループ (値別)	Product Category
X 軸値	Avg Price per Unit
Y 軸値	Revenue
バブルサイズ値	Profit %
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Avg Price per Unit に設定)
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Revenue に設定) 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (百万) がタイトルに追加され ます。
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **グループ(値別)** リストから、インジケータに表示されるデータのグループ化に使用する値を選択します。
- (必須) **X 軸値** リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須) **Y 軸値** リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須) **バブルサイズ値** リストから、インジケータで描画されるバブルのサイズに使用する値を選択します。
- **X 軸タイトル** フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- **Y 軸のタイトル** フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、**X 軸のスケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが **収益** に設定されている場合に **X 軸のスケール** を選択すると、X 軸のタイトルは **収益 (百万)** と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、**Y 軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイ

トルが収益に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸のタイトルは収益(百万)と表示されます。

- X 軸の出力形式リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- Y 軸の出力形式リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

バブルプロットを作成するには、1 つの変数(グループ(値別))と 3 つのメジャー(X 軸値、Y 軸値、バブルサイズ値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

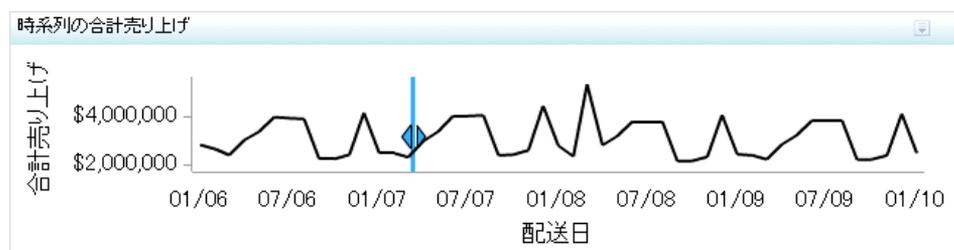
Product Category (グループ(値別))	Average Price Per Unit (X 軸値)	Revenue (Y 軸値)	Profit % (バブルサイズ値)
Golf	\$109.38	\$8,040,846	54.06%
Racket sports	\$97.81	\$4,072,029	60.21%
Swim sports	\$34.59	\$1,486,572	57.81

スライダ表示のチャート

定義

スライダ表示のチャートは、グリッド線、線内を移動できるスライダから構成されるグラフです。スライダ表示では、時間に関連するチャートの値や、チャートの特定のデータポイントに関連するその他の値を確認できます。

図 A1.4 スライダ表示のチャートインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	スライダ表示のチャートは、時間が関連要素である場合によく使用されます。時間値は、通常、横軸に表示されます。スライダ表示のチャートは、データが時間に伴って大きく変化し、チャートのユーザーが特定時点の値を知る必要がある場合に使用します。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。チャートに表示する期間を選択する機能により、値と関連性がユーザーに提供されます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンク先としてのみ使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: <ul style="list-style-type: none"> (ローカルシステムでのデータフィルタリングの場合)このインジケータは、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 (リモートサーバーでのデータフィルタリングの場合)このインジケータは、ターゲットインジケータとしてのみ使用できます。 対話型ハイライトサポート: このインジケータでは、対話型ハイライトはサポートされていません。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Date Delivered
Y 軸値	Sales
X 軸のタイトル	配送日に設定
Y 軸のタイトル	合計売り上げに設定
Y 軸の出力形式	\$123,456 が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、**X 軸目盛りラベルの非表示**を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、**ズームアウト時の軸の非表示**を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

スライダ表示のチャートを作成するには、1 つの変数(X 軸値)と1 つのメジャー(Y 軸値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

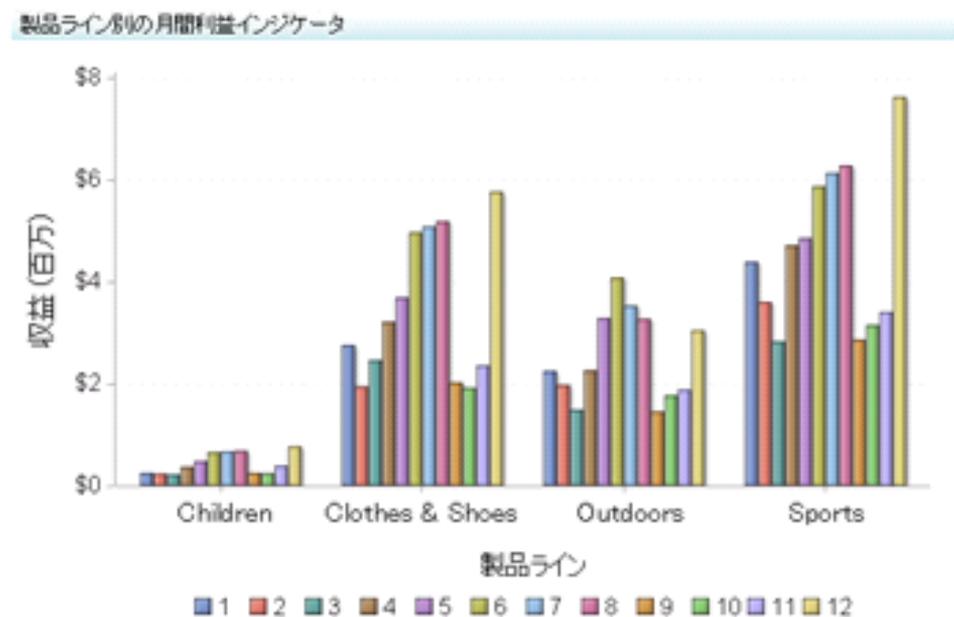
Date Delivered (X 軸値)	Sales (Y 軸値)
12/1/2009	4099652.48
1/1/2010	4099652.48

集合棒グラフ

定義

集合棒グラフは、1つのグリッドと、グループ(クラスター)に配置される複数の縦または横の列(棒)で構成されています。各棒は量的データを表します。各データ系列の棒は、常にチャートの各クラスター内の同じ位置にあります。通常、色、シェア、またはパターンを変えて、各データ系列が区別されます。

図 A1.5 集合棒グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	集合棒グラフは、複数のディメンション内で、特定のサブディメンションの値を比較する場合に使用します。棒グラフにより、関連するディメンション(時間または他の変数)内で値を比較できます。クラスタ化により、上位の傾向がサブディメンション(時間または他の変数)内で細分化され、より多くの関連情報が提供されるようになります。サブディメンションは、合計の個々の要素です。サブディメンションの各値は、お互いに関連がありません。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが合計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ”(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加”(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)”(75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)”(76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)”(77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)”(77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)”(76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)”(77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Product Line
クラスタグループ	Month
Y 軸値	Sales
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Product Line に設定)
Y 軸のタイトル	収益に設定 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (百万) がタイトルに追加されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- (必須) クラスタグループリストから、インジケータのクラスタ定義に使用する値を選択します。
- (必須) Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。Y 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが収益に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸のタイトルは収益 (百万) と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸のスケールを選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが収益に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸のタイトルは収益 (百万) と表示されます。
- X 軸の出力形式リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **X 軸ラベル**リストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

集合棒グラフを作成するには、2 つの変数(棒とクラスター)と1 つのメジャーを指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

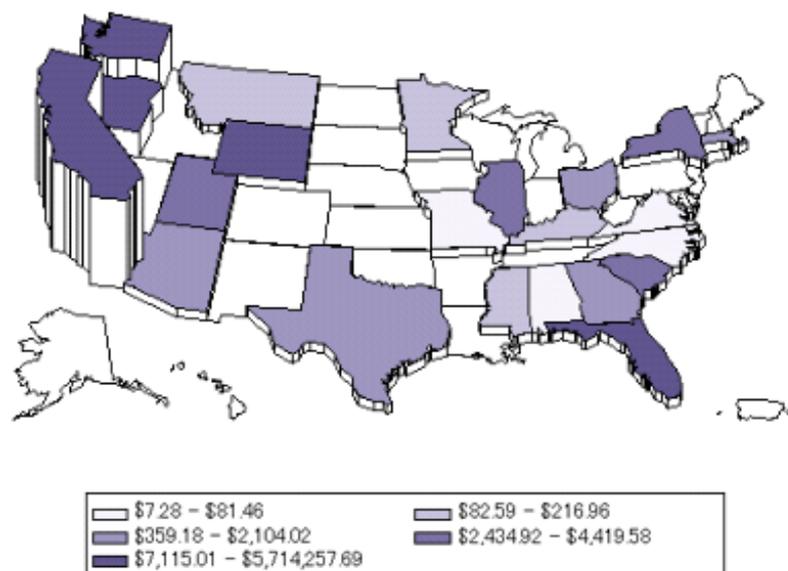
Product Line (X 軸値)	Month (クラスターグループ)	Sales (Y 軸値)
Children	1	\$256,803
Clothes & Shoes	1	\$2,762,409
Outdoors	1	\$2,253,080
Sports	1	\$4,393,168
Children	2	\$237,388
Clothes & Shoes	2	\$1,953,145
Outdoors	2	\$1,977,344
Sports	2	\$3,607,938

カスタムグラフ

定義

カスタムグラフは、イメージとして存在するグラフです。そのイメージ内の情報はグラフである必要はありませんが、イメージによって表されるものである必要があります。

図 A1.6 Stored Process を使用するカスタムグラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

このインジケータの使用には、次の方法があります。

- インジケータデータを指定する方法。指定する場合、イメージとともに表示される単一ゲージを選択できる追加設定が使用できるようになります。この単一のゲージでは、選択したインジケータデータの第 1 データ行のみ読み込まれます。このゲージは、指定範囲の範囲間隔をそのデータ行に適用します。

注: ゲージは指定するイメージと関係がない場合があるため、イメージの指定はオプションです。

- インジケータデータを指定しない方法。表示するインジケータに対しイメージを指定できますが、ゲージは伴いません。

このインジケータの使用例については、“[例: Stored Process を使用するカスタムグラフの作成](#)” (86 ページ)を参照してください。

最適なデータ

カスタムグラフインジケータは、ゲージと、SAS BI Dashboard で参照として使用される外部イメージの組み合わせです。Web アドレスを指定して、イメージを参照します。カスタムグラフはさまざまな目的で使用できますが、特に図が結果またはステータスの説明に必要な場合に便利です。たとえば、企業で多種多様の類似製品を販売している場合、製品のイメージを売り上げデータの隣に表示できます。

カスタムグラフのインジケータに Stored Process を使用して、SAS BI Dashboard で生成できないグラフ表示を生成することもできます。Stored Process を使用するには、ダッシュボードへの挿入に適した Stored Process を作成してから、Stored Process 出力を表示する Web アドレスを取得する必要があります。Stored Process の使用の詳細については、“[サンプルデータ構造](#)” (158 ページ)を参照してください。

適さないデータ	静的なイメージを表示する場合は、このインジケータは使用しないようにします。代わりに、SAS BI Dashboard で提供されている静的なイメージコンポーネントを使用します。静的なコンテンツの詳細については、“ 静的なコンテンツの追加による、他の情報へのリンク ” (99 ページ)を参照してください。
ターゲットの利用者	ゲージに慣れていない利用者もいます。ただし、ゲージは解釈が難しいわけではありません。そのため、このインジケータの種類を慣れていない場合でも理解できます。カスタムイメージを追加することで、ユーザーに理解を助けるコンテキストが提供されます。このインジケータの種類に慣れている利用者として、ビジネスアナリスト、ビジネスユーザー、経営幹部、財務アナリストなどが挙げられます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はオプションでサポートされます。 注: カスタムグラフインジケータに使用するインジケータデータも選択する場合は、範囲が必要です。
アラートサポート	アラートは、範囲がインジケータと関連付けられている場合のみサポートされます。詳細については、13 章、“ アラートのカスタマイズ ” (119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)” (76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

 をクリックしてカスタムグラフインジケータの種類を選択した際に、インジケータデータが指定されていると、**ゲージリスト**と**範囲リスト**が表示されます。これらのリストから、使用するゲージサブタイプと範囲を選択できます。使用可能なサブタイプについては、[表 A1.1](#) (188 ページ)を参照してください。

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
KPI タイトル	(なし)に設定
イメージ Web アドレス	http://sasbi.demo.sas.com:8080/SASStoredProcess/do?_action=form,properties,execute,nobanner,newwindow&program=%2FOrion+Star%2FSales+Department%2FStored+Processes%2FUSGeoSales_Map

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- **範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。

注: インジケータデータと範囲を指定しない場合、この設定は使用できません。
- **KPI タイトル**リストから、ゲージのタイトルに使用する値を選択します。

注: インジケータデータと範囲を指定しない場合、この設定は無視されます。
- **イメージ Web アドレス**フィールドに、インジケータ内のイメージや他の情報に使用する Web アドレスを入力します。サポートされているイメージファイルの種類は、JPG、PNG、GIF (アニメーション GIF は除く)です。詳細については、“[サンプルデータ構造](#)” (158 ページ)を参照してください。

注: このフィールドでは、相対パス名はサポートされていません。カスタムグラフィックインジケータをパッケージの一部としてインポートまたはエクスポートする場合、このフィールドのパスを更新する必要があります。
- イメージ Web アドレスを指定する場合、プロキシの使用を選択できます。**プロキシの使用**をクリックして、インジケータで使用されるサーバープロキシを指定します。

プロキシを使用する場合	<p>イメージファイルは、SAS BI Dashboard Server と同じネットワークドメインにある必要があります。</p> <p>注: Adobe Flash では、Web サーバーのルートにクロスドメインポリシーファイルを作成して、他のドメインからイメージをロードできます。詳細については、Adobe Web サイトで、cross-domain policy file specification (クロスドメインポリシーファイルの仕様)を検索してください。</p>
プロキシを使用しない場合	<p>イメージファイルは、SAS 中間層からアクセスできる必要があります。Web アドレスにアクセスできる適切なユーザー認証が SAS 中間層にあることを確認する必要があります。</p>

注: Stored Process を使用する際、Web アドレスからターゲットが Stored Process 要求であることがプロキシサーバーで検出されるように、**プロキシの使用**を選択します。プロキシサーバーにより、現在のユーザーの認証が SAS 中間層に追加されます。

サンプルデータ構造

このインジケータをインジケータデータと範囲とともに使用すると、結果として作成されるゲージではインジケータデータによって提供される第 1 データ行のみ読み込まれます。

カスタムグラフインジケータの種類では、イメージが表示されます。イメージは、Stored Process または他のソフトウェアの出力の場合があります。Stored Process 使用の詳細については、“例: Stored Process を使用するカスタムグラフの作成” (86 ページ)を参照してください。

Stored Process の使用時には次のガイドラインに従います。

- Stored Process の出力の種類は、ストリーミングに設定する必要があります。
- Stored Process の Web アドレスを設定するには、Stored Process Web アプリケーションを使用します。プロパティウィンドウを開き、Web アドレスをハイライトします。次に Ctrl キーを押しながら C キーを押して、Web アドレスをコピーします。

ヒント ハイライト時、マウスを下にドラッグし、ページをスクロールして、Web アドレスすべてを表示する必要があります。

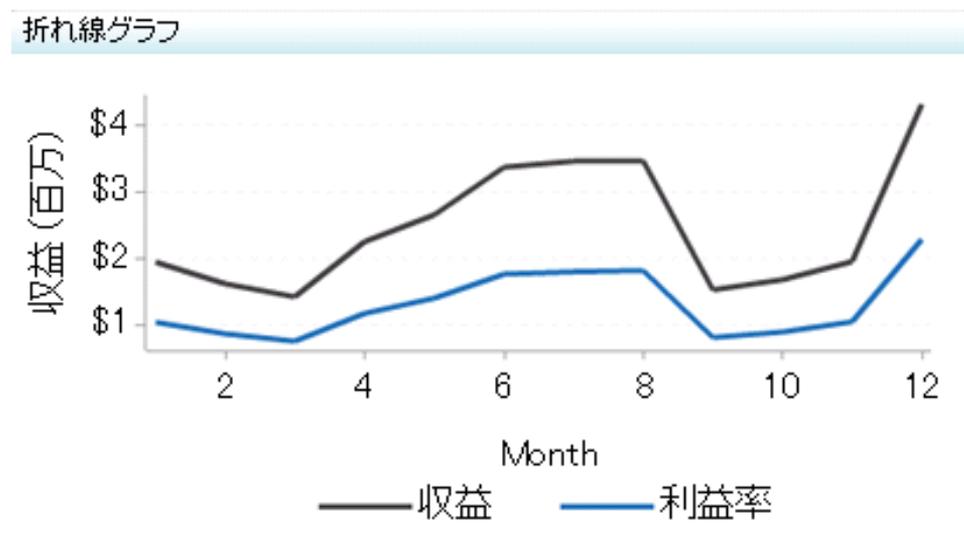
- HTML 出力はサポートされていません。Stored Process 出力では、インジケータにストリームされるイメージのみ作成される必要があります。
- %STPBEGIN マクロと%STPEND マクロを使用しないでください。
- Stored Process は、予約されているファイル参照名 WEBOUT に書き込む必要があります。
- Stored Process を使用する際、Web アドレスからターゲットが Stored Process 要求であることがプロキシサーバーで検出されるように、**プロキシの使用**を選択します。プロキシサーバーにより、現在のユーザーの認証が SAS 中間層に追加されます。

折れ線グラフ(2 本線)

定義

折れ線グラフ(2 本線)には、2 つのデータがそれぞれ線として同じチャートに表示されます。データ系列は、2 つの変数の関係を表します。通常、ある期間のデータの推移や傾向を示します。折れ線グラフはソースデータの要約を示し、非連続のカテゴリ値に対する応答値のグラフを作成するために使用します。

図 A1.7 折れ線グラフ(2本線)のインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	折れ線グラフ(2本線)は、指定された時点または状況で2つの異なるカテゴリに含まれる複数の値の比較が重要な場合に使用します。線がオーバーラップする場合に明確に区別できるように、各線に異なる色を使用する(自動的に設定)ことは重要です。折れ線グラフ(2本線)は、Y軸の要約値がそれぞれ比較的近い場合、または特定値の表示が相対傾向と比較して重要でない場合に使用されます。折れ線グラフ(2本線)では、2つの線のみサポートされています。
適さないデータ	折れ線グラフ(2本線)インジケータでは、1つのY軸の表示のみサポートされています。両方の線を1つのY軸で表すことができない場合は、このインジケータを使用しないようにします。また、X軸値には文字データではなく、数値データの使用がより適しています。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ”(111ページ)を参照してください。

- 相互作用サポート
- **データフィルタサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
 - **対話型ハイライトサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
- 詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Month
Y 軸値	Sales
Y 軸値	Profit
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Month に設定)
Y 軸のタイトル	収益に設定 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (百万) がタイトルに追加されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須) Y 軸値リストから、折れ線グラフの第 2 番線を構成するポイント値に使用する値を選択します。

- **X軸タイトル**フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**X軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**X軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- **Y軸のタイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**Y軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**Y軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、**X軸のスケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **X軸のスケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、**Y軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **Y軸のスケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- **X軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **X軸ラベル**リストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

折れ線グラフ(2本線)を作成するには、1つの変数と2つのメジャー(各線に対し)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Month (X 軸値)	Sales (Y 軸値)	Profit (Y 軸値)
1	\$9,665,459	\$5,183,824
2	\$7,775,815	\$4,196,567
3	\$7,014,698	\$3,755,988
4	\$10,574,099	\$5,515,781
5	\$12,339,657	\$6,524,972

ダイナミックプロンプト

定義

ダイナミックプロンプトは、選択項目を含むドロップダウンリスト(またはメニュー)です。選択されるメニュー値に基づいて、別のインジケータの種類がダイナミックに変更されます。

図 A1.8 ダイナミック温度計ゲージの選択項目を含むダイナミックプロンプトインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	ダイナミックプロンプトは、値ごとに関連データが異なり、それ自体で意味のある重複しないメニュー値を操作する場合に使用します。たとえば、値 2005、2006、2007、2008、2009、2010 が含まれるダイナミックプロンプトの場合、ユーザーがいずれかの年を選択すると、選択した年に基づいて、別のインジケータがダイナミックに変更されます。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。KPI インジケータをリストの値に追加すると、追加情報がユーザーに提供されるため、ユーザーがリストのオプションを迅速に選択できるようになります。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はオプションでサポートされます。 注: ダイナミックプロンプトインジケータを作成する際は、範囲が必須です。ただし、範囲が使用されるのは、コンボボックス(ゲージ)プロパティを選択する場合のみです。選択しない場合、範囲は使用されません。
アラートサポート	アラートは、範囲がインジケータと関連付けられている場合のみサポートされます。詳細については、13 章、“アラートのカスタマイズ”(119 ページ)を参照してください。

リンクサポート	このインジケータの種類は、リンク先としてのみ使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータは、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータでは、対話型ハイライトはサポートされていません。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

注: ダイナミックプロンプトインジケータでは、SAS Prompting Framework は使用されません。また、プロンプト間の依存関係を自動的に作成して、カスケードプロンプトを作成しません。同様の動作を実行するには、次を行う必要があります。

1. Information Map または Stored Process のいずれかをインジケータデータとして使用します。
2. Information Map または Stored Process でプロンプトを手動で作成します。
3. インジケータデータのダイナミックプロンプトごとにフィルタの組み合わせを手動で作成します。
4. ダッシュボードでプロンプト間の相互作用を手動で定義します。データのニーズによって、クライアント側またはサーバー側のいずれかの相互作用になります。

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)” (76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	Sale Amount
範囲値 2	Sale Amount
メニュー値	Country
プロンプトの種類	コンボ ボックス (ゲージ)

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。

注: ダイナミックプロンプトインジケータを作成するには、範囲を指定する必要があります。ただし、インジケータの作成後はその範囲を使用する必要はありません。

- (必須) **メニュー値**リストから、ダイナミックプロンプトインジケータのリストに使用可能な値を提供するパラメータを選択します。

注意:

コンボ ボックス (ゲージ) を選択する場合、メニュー値が重複していないことを確認します。メニュー値が重複すると、予期しない動作を引き起こします。

- **プロンプトの種類**リストから、ダイナミックプロンプトインジケータに表示するプロンプトの種類を選択します。詳細については、“[サンプルデータ構造](#)” (164 ページ) を参照してください。

注: **コンボ ボックス (ゲージ)** を選択した場合、ゲージを選択する必要があります。**コンボ ボックス** を選択した場合、範囲を選択できません。

サンプルデータ構造

ダイナミックプロンプトをゲージ付きのリストボックスとして作成するには、メニュー項目の値(メニュー値)と各メニュー項目に関連付ける範囲値(範囲値)を指定して、**プロンプトの種類**リストから**コンボ ボックス (ゲージ)**を選択します。ゲージを含める場合、データが集計され、メニュー値ごとに 1 行のみ存在する必要があります。たとえば、次のデータサンプルでは、国ごとに複数のデータ行が存在しない必要があります。存在する場合、メニューには行ごとに選択項目とゲージが表示されるため、複数のデータ行がある国はメニューに複数回表示されます。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Country (メニュー値)	Sales Amount (範囲値と範囲値 2)
Canada	\$7,334,520
France	\$899,771
UK	\$1,395,636
United States	\$619,852,310

ダイナミックプロンプトをリストボックスとして作成するには、メニュー値のみ指定し、**プロンプトの種類**リストから**コンボボックス**を選択します。通常、この種類のダイナミックプロンプトは、別のターゲットインジケータと相互作用するためのソースインジケータとして使用されます。ターゲットインジケータには、ダイナミックプロンプトのメニュー値に指定された値と同じ値を含むデータ列が含まれている必要があります。列名は一致する必要はありません。ただし、ダイナミックプロンプトにてターゲットインジケータにフィルタを適用できるように、列の値は一致する必要があります。詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ) を参照してください。

ダイナミックテキスト

定義

ダイナミックテキストは、センテンスまたはテキストベースのラベル内において変化するテキストです。

図 A1.9 ダイナミックプロンプトコンボボックスに関連付けられたダイナミックテキストインジケータの表示例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	ダイナミックテキストは、テキストに含まれる静的でない唯一の値です。ダイナミックテキストは、範囲と組み合わせられた場合、範囲の間隔の色を示せません。たとえば、“The current security level is medium”というダイナミックテキストでは、“medium”がダイナミック値です。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。前述の例にあるようにダイナミックテキストがコンテキスト内に使用されている場合、ほとんどのユーザーはこのインジケータの種類を慣れているため、簡単に解釈できます。ダイナミックテキストは、ユーザーが関心のある値を迅速に検索できるようになるため、有益です。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はオプションでサポートされます。
アラートサポート	アラートは、範囲がインジケータと関連付けられている場合のみサポートされます。詳細については、 13 章, “アラートのカスタマイズ” (119 ページ) を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンク先としてのみ使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: ローカルシステムとリモートサーバーのデータフィルタリングとも、このインジケータはターゲットインジケータとしてのみ使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータでは、対話型ハイライトはサポートされていません。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定” (75 ページ)
- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
静的なテキスト	@var1@ 利益率:
範囲	Product Category
データソースの範囲	Profit %

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **静的なテキストフィールド**で、ダイナミックテキストインジケータに表示するテキストを入力します。テキストには、テキスト文字列、データソースの列のいずれか、またはその両方を使用できます。

注:

- データの列を静的なテキストに表示する場合、@var1@と入力します。範囲値がデータの列に適用され、結果値が@var1@文字列と置き換わります。この例として、前述の表の静的なテキストの設定を参照してください。
- このフィールドに静的なテキストを必ず含める必要はありません。@var1@のみ含めることができます。
- 各ダイナミックテキストインジケータに対し、インジケータデータソースの1列のデータのみ含めることができます。
- **範囲**フィールドに保存済みの範囲のファイル名を入力するか、**参照**をクリックしてファイルに移動します。ファイルを選択して、**OK** をクリックします。
注: 範囲はオプションです。範囲を選択した場合、範囲値のテキストの色は、範囲の間隔の色に基づいて表示されます。
- (必須) **データソースの範囲**リストから、範囲に使用するデータソースの列を選択します。
- **出力形式**リストから、列のデータに適用する出力形式を選択します。

サンプルデータ構造

ダイナミックテキストインジケータを作成するには、範囲のデータソース(データソースの範囲)と、表示するテキスト(静的なテキスト)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Product Category (範囲)	Profit % (データソースの範囲)
Indoor sports	54.06%
Swim sports	57.81%
Winter sports	56.25%

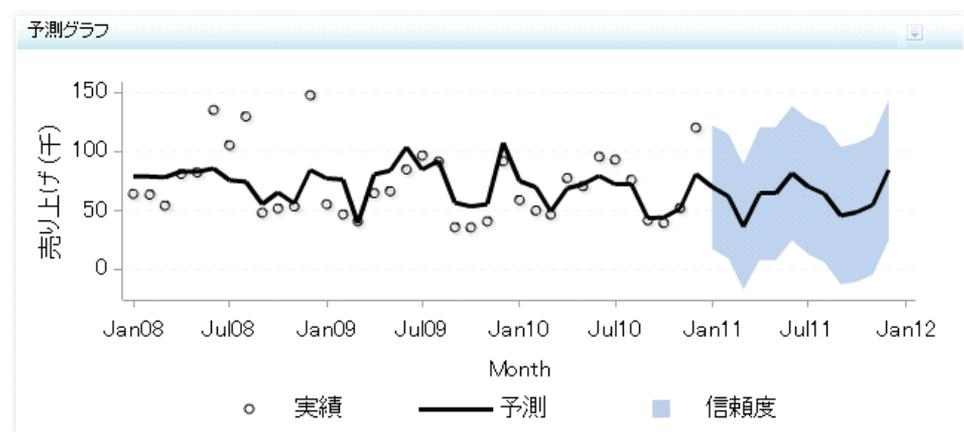
予測グラフ

定義

予測グラフは、時系列の実績データと予測データを表示する折れ線グラフです。さらに、予測グラフには将来の予測値に対する信頼区間を表示できます。

注: 予測データと信頼区間は、SAS Time Series Forecasting を使用して生成されるインジケータデータによって提供されます。適用可能なタスクは、時系列グループの基本的な予測タスクです。

図 A1.10 予測グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	予測グラフは、予測データが存在するときに使用されます。ダッシュボードデザインは予測手法を決定し、予測を表示するためにこのデータをデータソースとして指定する必要があります。予測が使用できるまたは行われている将来の期間をビジネスユーザーが認識できるように、予測にはタイムフレームを関連付ける必要があります。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザー、特に統計に関する予備知識のあるユーザーにとって、このインジケータの種類を簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Month

表示設定	図に使用された選択内容
実績値	ColumnACTUAL
予測値	ColumnFORECAST
下側帯	ColumnL95
上側帯	ColumnU95
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Month に設定)
Y 軸のタイトル	売上げに設定 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (千) がタイトルに追加されます。
実績の凡例ラベル	実績に設定
予測の凡例ラベル	予測に設定
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- (必須) 実績値リストから、予測グラフインジケータの実績値に使用する値を選択します。
- (必須) 予測値リストから、予測グラフの予測値に使用する値を選択します。
- (必須) 下側帯リストから、予測グラフの下側信頼帯に使用する値を選択します。
- (必須) 上側帯リストから、予測グラフの上側信頼帯に使用する値を選択します。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- 実績の凡例ラベルフィールドで、予測グラフインジケータの実績値のデフォルトの凡例ラベルを置換するテキストを入力します。
- 予測の凡例ラベルフィールドで、予測グラフの予測値のデフォルトの凡例ラベルを置換するテキストを入力します。
- 帯の凡例ラベルフィールドで、予測グラフのデフォルトの帯の凡例ラベルを置換するテキストを入力します。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタ

タイトルが収益に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸のタイトルは収益(百万)と表示されます。

- Y 軸をスケールするには、Y 軸のスケールを選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが収益に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸のタイトルは収益(百万)と表示されます。
- X 軸の出力形式リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- Y 軸の出力形式リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

予測グラフを作成するには、1 つの変数またはメジャー(X 軸値)と 4 つのメジャー(実績値、予測値、下側帯、上側帯)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。このデータは、2011 年の日付が将来の日付だったときに生成されました。

Month (X 軸値)	Actual (実績値)	Forecast (予測値)	Lower Limit (下側帯)	Upper Limit (上側帯)
10/01/2010	\$39,482.29	\$44,163.35		
11/01/2010	\$52,031.64	\$51,549.97		
12/01/2010	\$120,083.94	\$80,948.36		
01/01/2011		\$69,889.80	\$17,457.73	\$122,321.88
02/01/2011		\$61,965.83	\$9,231.34	\$114,700.31
03/01/2011		\$36,283.89	(\$16,767.06)	\$89,334.85

対話型要約と棒グラフ

定義

対話型要約と棒グラフは、1 つのグリッドと複数の縦または横の列(棒)、棒群を切り替えるスライダから構成されるグラフです。

対話型の表示により、ダッシュボードユーザーは、要約グラフ内を移動することで、対話形式で大量の詳細データを移動できます。次の 2 つの方法を使用して、簡単に詳細データを比較できます。

- 表示の定義時に、ダッシュボードデザイナーは、データをグループ化する基準列を選択します。

- 表示中、ビジネスユーザーは、比較する別の詳細スライスを選択できます。

注: このインジケータは、時系列の実績データと予測データを示します。さらに、将来の予測値の信頼区間も示します。これらの値は、SAS Time Series Forecasting を使用して生成されるインジケータデータから得られます。

図 A1.11 対話型要約と棒グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

注: SAS BI Dashboard 4.3 以降では、SAS BI Dashboard 4.2 から移行された環境をサポートするためにこのインジケータを提供しています。SAS BI Dashboard 4.3 以降のユーザーがこのインジケータを使用することはお勧めしません。代わりに、スライド表示のチャートインジケータと棒グラフインジケータのいずれかを併用して、同じ機能を利用できるようにこれらの 2 つのインジケータ間の相互作用を定義します(ただし、表示設定により、より高度な制御を利用できます)。

- 詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)”(104 ページ)を参照してください。
- “[棒グラフ\(ピュレット\)](#)”(138 ページ)を参照してください。
- “[参照線付き棒グラフ](#)”(141 ページ)を参照してください。
- “[スライド表示のチャート](#)”(148 ページ)を参照してください。

最適なデータ	対話型要約と棒グラフは、時間に伴ってデータが大きく変化し、複数のカテゴリを定義して、異なる棒で表示する場合に最もよく使用されます。このグラフでは、範囲も使用して、特定の範囲値に対する進捗を各棒の長さで表すこともできます。対話型要約と棒グラフには含まれるコンポーネントが多いため、それぞれの値やデータポイントのグラフでの役割を特定し、値やデータポイントの表示方法を検討する必要があります。
適さないデータ	インジケータデータは、棒グラフに適している必要があります。単一行を返し、KPI インジケータに適しているインジケータデータは、このインジケータには適していません。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。チャートで表示する期間を選択する機能により、値と関連性がユーザーに提供されます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。 注: 詳細棒グラフでは常にデータが平均化されます。ただし、インジケータの要約グラフのデータ要約時に使用する集計方法を選択できます。デフォルトでは 合計 が選択されます。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、 13 章, “アラートのカスタマイズ” (119 ページ) を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義にのみ使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータでは、データフィルタリングはサポートされていません。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータでは、対話型ハイライトはサポートされていません。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)

注: このインジケータの種類の高さと幅を設定する際は、判読可能な最小寸法が 380x450 ピクセルであることに注意してください。

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Product_Line
棒の値	ACTUAL
予測値	FORECAST
下側信頼区間	Lower Limit
上側信頼区間	Upper Limit
概要グラフの種類	線が選択されます。
概要機能	合計が選択されます。
デフォルトのデータカラー	青が選択されます。
凡例の表示	この設定が選択されます。
集計の方法	Delivery Date
列グループ化	Customer_Group
軸の出力形式 (詳細)	\$123,456 が選択されます。
軸の出力形式 (要約)	\$123,456 が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)棒の値リストから、インジケータで描画される棒に使用する値を選択します。
- (必須)予測値リストから、予測グラフの予測値に使用する値を選択します。
- 下側信頼区間リストから、対話型表示の下側信頼限界に使用する値を選択します。
- 上側信頼区間リストから、対話型インジケータの上側信頼限界に使用する値を選択します。
- 要約する代わりに値リストから、要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- 要約する代わりに予測リストから、予測値の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- 要約する代わりに下側信頼区間リストから、下側信頼区間の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。

- 要約する代わりに上側信頼区間リストから、上側信頼区間の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- 概要グラフの種類リストから、対話型インジケータの要約データの表示に使用するグラフの種類を選択します。
- 概要機能リストから、対話型インジケータのデータの要約に使用する機能を選択します。
- 概要グラフのラベルのカスタマイズフィールドで、対話型インジケータの概要グラフのデフォルトのタイトルの置換に使用するテキストを入力します。
- デフォルト データの色フィールドで、対話型インジケータでデータを示すデフォルトの色を選択します。
- インジケータに凡例を表示するには、凡例の表示を選択します。
- (必須)集計の方法リストから、対話型インジケータのデータの集計に使用する値を選択します。
- 列グループ化リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、(なし)を選択します。
- 軸の出力形式(詳細)リストから、軸(詳細)のデータに適用する SAS 出力形式を選択します。
- 軸の出力形式(要約)リストから、要約軸のデータに適用する出力形式を選択します。

サンプルデータ構造

対話型要約と棒グラフを作成するには、2 つの変数(X 軸値と集計の方法)と、少なくとも 2 つのメジャー(棒の値、予測値)を指定する必要があります。この例の 2011 年のデータでは、オプションの下側信頼区間と上側信頼区間の設定に対する値も提供されています。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Region/ Country (列グループ化)	Product Line (X 軸値)	Delivery Date (集計の方法)	Actual (棒の値)	Forecast (予測値)	Lower Limit (下側信頼区間)	Upper Limit (上側信頼区間)
Asia	Children	01/01/2009	\$4,454.00	\$5,418.00		
Asia	Children	02/01/2009	\$3,456.10	\$5,418.00		
Asia	Children	01/01/2011		\$11,292.68	\$4,451.85	\$18,141.50
Asia	Children	02/01/2011		\$10,281.50	\$3,349.61	\$17,213.39
Europe	Children	01/01/2009	\$18,045.60	\$24,646.82		
Europe	Children	02/01/2009	\$17,145.60	\$25,983.78		
Europe	Children	01/01/2011		\$48,590.64	\$9,029.84	\$88,151.43
Europe	Children	02/01/2011		\$49,339.80	\$9,342.16	\$89,337.44

Region/ Country (列グループ 化)	Product Line (X 軸値)	Delivery Date (集計の方法)	Actual (棒の値)	Forecast (予測値)	Lower Limit (下側信頼区 間)	Upper Limit (上側信頼区 間)
U.S.	Children	01/01/2009	\$24,677.70	\$26,960.89		
U.S.	Children	02/01/2009	\$20,917.20	\$28,943.96		
U.S.	Children	01/01/2011		\$88,852.77	\$41,141.66	\$136,563.88
U.S.	Children	02/01/2011		\$82,747.69	\$34,497.79	\$130,997.59

対話型のインジケータを使用して最適な結果を得るには、インジケータデータが次の要件を満たす必要があります。

- インジケータデータは、棒グラフに適している必要があります。単一行を返し、KPI インジケータに適しているインジケータデータは、対話型インジケータには適していません。
- インジケータデータには、データの要約に使用されるカーディナリティが低いグループ化列が 1 つ含まれる必要があります。カーディナリティが低いグループ化列とは、グループ化する重複しない値が少ない列です。
- (オプション) 対話型インジケータでビジネスユーザーへの予測データの表示を有効化するには、インジケータデータに予測値、下側信頼区間の値、上側信頼区間の値の列が含まれる必要があります。

対話型インジケータでは、詳細グラフに表示される詳細データか、または別のフィールドのデータを要約できます。

インジケータレベルの対話型インジケータの設定は、対話型インジケータでデータを使用する方が高機能である点を除いて、基本的に棒グラフと同じです。唯一の大きな違いは、対話型インジケータが依存範囲の概念をサポートしている点です。依存範囲では、範囲定義として別の範囲の値を使用します。このスキームでは、SAS BI Dashboard と対話型インジケータには、SAS Forecast Server により生成されるデータセットが、複雑な中間データ変換の必要がないため有益です。

対話型要約と散布図

定義

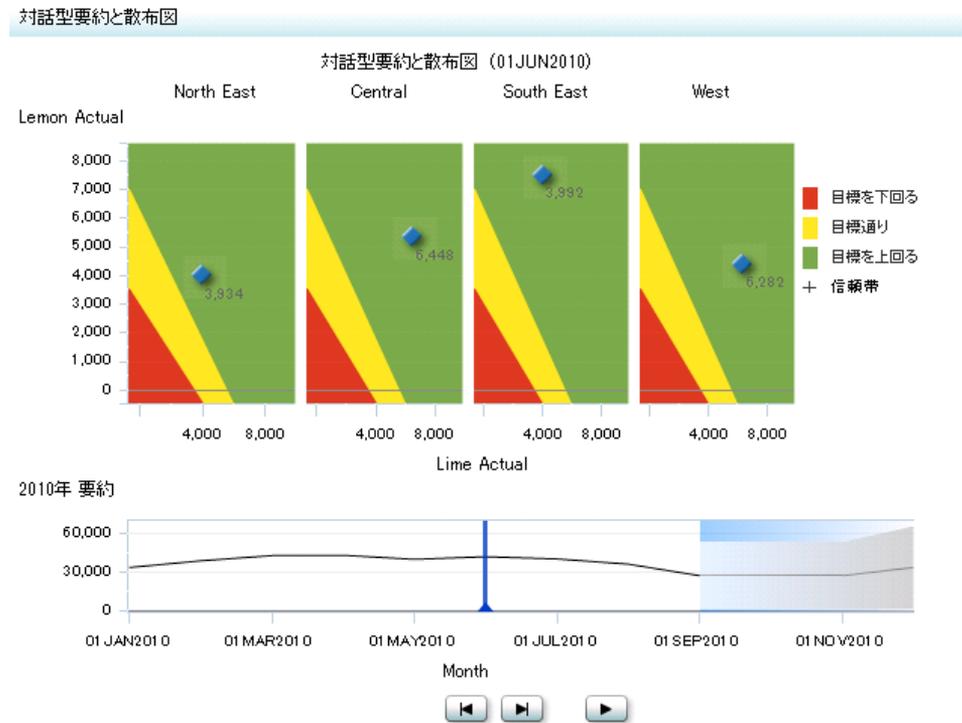
対話型要約と散布図は、グラフィックチャートの組み合わせです。スライダが時間を表す折れ線グラフ内を移動すると、個々のデータポイントの時系列での変化が示されません。散布図は、値間の関係を表示するためにプロットされるデータポイントのセットから構成されます。対話型要約により、ユーザーはデータポイントの時系列の変化を表示できます。

対話型の表示により、ダッシュボードユーザーは、要約グラフ内を移動することで、対話形式で大量の詳細データを移動できます。次の 2 つの方法を使用して、簡単に詳細データを比較できます。

- 表示の定義時に、ダッシュボードデザイナーは、データをグループ化する基準列を選択します。
- 表示中、ビジネスユーザーは、比較する別の詳細スライスを選択できます。

注: このインジケータは、時系列の実績データと予測データを示します。さらに、将来の予測値の信頼区間も示します。これらの値は、SAS Time Series Forecasting を使用して生成されるインジケータデータから得られます。

図 A1.12 対話型要約と散布図インジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

注: SAS BI Dashboard 4.3 以降では、SAS BI Dashboard 4.2 から移行された環境をサポートするためにこのインジケータを提供しています。SAS BI Dashboard 4.3 以降のユーザーがこのインジケータを使用することはお勧めしません。代わりに、スライド表示のチャートインジケータと散布図インジケータを併用して、同じ機能を利用できるようにこれらの2つのインジケータ間の相互作用を定義します(ただし、表示設定により、より高度な制御を利用できます)。

- 詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。
- “[スライド表示のチャート](#)” (148 ページ)を参照してください。
- “[散布図](#)” (208 ページ)を参照してください。

最適なデータ

対話型要約と散布図インジケータは、時系列の売り上げ高とターゲットの比較を示す場合によく使用されます。プロットされる各データポイントは、特定時点の売り上げとターゲットの関係を表します。スライドを移動すると、データポイントが変化し、新しい売り上げとターゲット値の関係が示されます。範囲による背景色の色付けを行うには、ターゲットディメンションを追加します。

適さないデータ	インジケータデータは、散布図に適している必要があります。単一行を返し、KPI インジケータに適しているインジケータデータは、このインジケータには適していません。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。チャートで表示する期間を選択する機能により、値と関連性がユーザーに提供されます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13 章、「アラートのカスタマイズ」(119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義にのみ使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、「インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加」(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータでは、データフィルタリングはサポートされていません。 対話型ハイライトサポート: このインジケータでは、対話型ハイライトはサポートされていません。 <p>詳細については、「インジケータ間の相互作用の追加」(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定” (75 ページ)
- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)

注: このインジケータの種類の高さと幅を設定する際は、判読可能な最小寸法が 380x450 ピクセルであることに注意してください。

このインジケータでは、X 軸範囲と Y 軸範囲の 2 つの範囲を指定することが要求されます。前の例では、次の範囲が使用されます。

全般設定	選択範囲
X 軸範囲	Lime Range
Y 軸範囲	Lemon Range

範囲を指定する際には、次のガイドラインに従う必要があります。

- 両方の範囲に同じ間隔数が定義されている必要があります。異なる場合、次のメッセージが表示されます。

X の範囲と Y の範囲は同じ数字を使用した間隔にしてください。

- インジケータには、Y 軸の範囲の色のみ表示されます。
- X 軸範囲と Y 軸範囲の交差により、グラフの三角のシェーディングが定義されません。

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Lime Actual
予測 X 軸値	Lime Forecast
X 軸下側信頼区間	Lime Low
X 軸上側信頼区間	Lime Up
Y 軸値	Lemon Actual
予測 Y 軸値	Lemon Forecast
Y 軸下側信頼区間	Lemon Low
Y 軸上側信頼区間	Lemon Up
概要グラフの種類	線が選択されます。
概要機能	合計が選択されます。
概要グラフのラベルのカスタマイズ	2010 年 要約に設定
デフォルトのデータ カラー	青が選択されます。
凡例の表示	この設定が選択されます。
集計の方法	Month
列グループ化	Store Region
X 軸の出力形式 (詳細)	123,456 が選択されます。
Y 軸の出力形式 (詳細)	123,456 が選択されます。
軸の出力形式 (要約)	123,456 が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。

この設定の値は、グラフツールチップで使用されます。ポイントを区別するために、追加情報をツールチップに表示することはできません。ただし、**列グループ化**設定を使用して、ポイントに関する情報を提供することはできます。

- (必須) **予測 X 軸値**リストから、X 軸の予測値に使用する値を選択します。
- **X 軸下側信頼区間**リストから、対話型インジケータの X 軸の下側信頼限界に使用する値を選択します。
- **X 軸上側信頼区間**リストから、対話型インジケータの X 軸の上側信頼限界に使用する値を選択します。
- (必須)**Y 軸値**リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- **予測 Y 軸値**リストから、Y 軸の予測値に使用する値を選択します。
- **Y 軸下側信頼区間**リストから、対話型インジケータの Y 軸の下側信頼限界に使用する値を選択します。
- **Y 軸上側信頼区間**リストから、対話型インジケータの Y 軸の上側信頼限界に使用する値を選択します。
- **要約する代わりに値**リストから、要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- **要約する代わりに予測**リストから、予測値の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- **要約する代わりに下側信頼区間**リストから、下側信頼区間の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- **要約する代わりに上側信頼区間**リストから、上側信頼区間の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- **概要グラフの種類**リストから、対話型インジケータの要約データの表示に使用するグラフの種類を選択します。
- **概要機能**リストから、対話型インジケータのデータの要約に使用する機能を選択します。
- **概要グラフのラベルのカスタマイズ**フィールドで、対話型インジケータの概要グラフのデフォルトのタイトルの置換に使用するテキストを入力します。
- **デフォルト データの色**フィールドで、対話型インジケータでデータを示すデフォルトの色を選択します。
- インジケータに凡例を表示するには、**凡例の表示**を選択します。
- (必須)**集計の方法**リストから、対話型インジケータのデータの集計に使用する値を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **X 軸の出力形式 (詳細)**リストから、X 軸(詳細)のデータに適用する出力形式を選択します。
- **Y 軸の出力形式 (詳細)**リストから、Y 軸(詳細)のデータに適用する出力形式を選択します。

- **軸の出力形式(要約)**リストから、要約軸のデータに適用する出力形式を選択します。

サンプルデータ構造

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Month (集計の方法)	Store Region (列グループ化)	Lime Actual (X 軸値)	Lime Forecast (予測 X 軸値)	Lime Low (X 軸下側信頼区 間)	Lime Up (X 軸上側信頼区 間)	Lemon Actual (Y 軸値)	Lemon Forecast (予測 Y 軸値)	Lemon Low (Y 軸下側信頼区 間)	Lemon Up (Y 軸上側信頼区 間)
01AUG2010	North East	3509	3899.25			5180	4010.1666667		
01AUG2010	West	3479	4028.5714286			4379	4309.2619048		
01AUG2010	Central	3934	4157.8928571			4033	4608.3571429		
01AUG2010	South East	6448	4545.8571429			5370	5505.6428571		
01SEP2010	North East		3769.9285714	473.67952229	7066.1776206		3711.0714286	1072.0041191	6350.138738
01SEP2010	West		3381.9642857	-699.7096296	7463.638201		2813.7857143	-454.1142645	6081.685693
01SEP2010	Central		3511.2857143	-284.3073884	7306.8788169		3112.8809524	74.025111133	6151.7367936

対話型のインジケータを使用して最適な結果を得るには、インジケータデータが次の要件を満たす必要があります。

- インジケータデータは、散布図に適している必要があります。単一行を返し、KPI インジケータに適しているインジケータデータは、対話型インジケータには適していません。
- インジケータデータには、データの要約に使用されるカーディナリティが低いグループ化列が1つ含まれる必要があります。カーディナリティが低いグループ化列とは、グループ化する重複しない値が少ない列です。
- (オプション) 対話型インジケータでビジネスユーザーへの予測データの表示を有効化するには、インジケータデータに予測値、下側信頼区間の値、上側信頼区間の値の列が含まれる必要があります。

対話型インジケータでは、詳細グラフに表示される詳細データか、または別のワールドのデータを要約できます。

インジケータレベルの対話型インジケータの設定は、対話型インジケータでデータを使用する方が高機能である点を除いて、基本的に散布図と同じです。唯一の大きな違いは、対話型インジケータが依存範囲の概念をサポートしている点です。依存範囲では、範囲定義として別の範囲の値を使用します。このスキームでは、SAS BI Dashboard と対話型インジケータには、SAS Forecast Server により生成されるデータセットが、複雑な中間データ変換の必要がないため有益です。

対話型要約とターゲット棒グラフ

定義

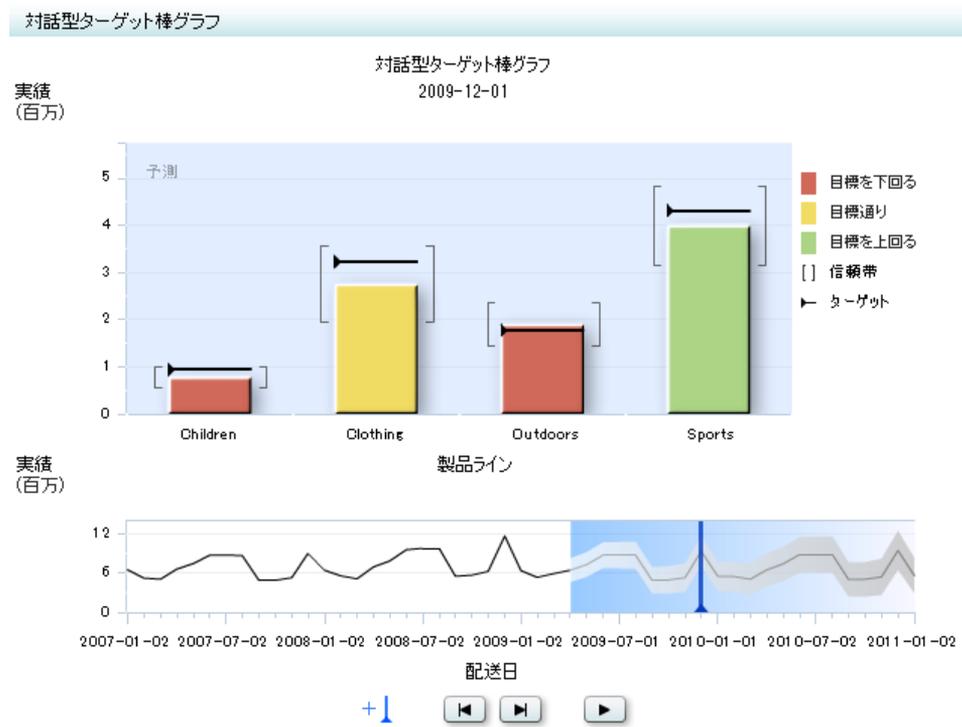
対話型要約とターゲット棒グラフは、1つのグリッドと複数の縦または横の列(棒)、棒群を切り替えるスライダから構成されるグラフです。ターゲット値は、棒ごとに描画される参照線によって表されます。

対話型の表示により、ダッシュボードユーザーは、要約グラフ内を移動することで、対話形式で大量の詳細データを移動できます。次の2つの方法を使用して、簡単に詳細データを比較できます。

- 表示の定義時に、ダッシュボードデザイナーは、データをグループ化する基準列を選択します。
- 表示中、ビジネスユーザーは、比較する別の詳細スライスを選択できます。

注: このインジケータは、時系列の実績データと予測データを示します。さらに、将来の予測値の信頼区間も示します。これらの値は、SAS Time Series Forecasting を使用して生成されるインジケータデータから得られます。

図 A1.13 対話型要約とターゲット棒グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

注: SAS BI Dashboard 4.3 以降では、SAS BI Dashboard 4.2 から移行された環境をサポートするためにこのインジケータを提供しています。SAS BI Dashboard 4.3 以降のユーザーがこのインジケータを使用することはお勧めしません。代わりに、スライド表示のチャートインジケータとターゲット棒グラフインジケータを併用して、同じ機能を利用できるようにこれらの 2 つのインジケータ間の相互作用を定義します (ただし、表示設定により、より高度な制御を利用できます)。

- 詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。
- “[スライド表示のチャート](#)” (148 ページ)を参照してください。
- “[ターゲット棒グラフ](#)” (226 ページ)を参照してください。

最適なデータ	対話型要約とターゲット棒グラフは、カテゴリ(グラフの棒)ごとにターゲットの表示が必要な場合に使用します。必要ない場合、対話型要約と棒グラフで十分です。
適さないデータ	インジケータデータは、ターゲット棒グラフに適している必要があります。単一行を返し、KPI インジケータに適しているインジケータデータは、このインジケータには適していません。

ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。チャートで表示する期間を選択する機能により、値と関連性がユーザーに提供されます。チャートの棒をターゲットと範囲に関連付けると、ユーザーは各カテゴリのパフォーマンスを迅速に表示できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。 注: 詳細棒グラフでは常にデータが平均化されます。ただし、インジケータの要約グラフのデータ要約時に使用する集計方法を選択できます。デフォルトでは合計が選択されます。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13章、“アラートのカスタマイズ”(119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義にのみ使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加”(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータでは、データフィルタリングはサポートされていません。 対話型ハイライトサポート: このインジケータでは、対話型ハイライトはサポートされていません。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加”(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定”(75 ページ)
- “インジケータの種類の変更”(76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更”(77 ページ)
- “使用する範囲の変更”(77 ページ)

注: このインジケータの種類の高さと幅を設定する際は、判読可能な最小寸法が 380x450 ピクセルであることに注意してください。

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	Percent Difference
予測範囲値	Predicted

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Product Line
棒の値	Actual
予測値	Predicted
ターゲットの値	Predicted
下側信頼区間	LCL
上側信頼区間	UCL
概要グラフの種類	線が選択されます。
概要機能	合計が選択されます。
概要グラフのラベルのカスタマイズ	合計売り上げ—傾向に設定
デフォルトのデータ カラー	黒が選択されます。
凡例の表示	この設定が選択されます。
集計の方法	Delivery Date
列グループ化	(なし)が選択されます。
軸の出力形式 (詳細)	\$123,456 が選択されます。
軸の出力形式 (要約)	\$123,456 が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)範囲値リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- 予測範囲値リストから、予測値に使用する値を選択します。この値は、対話型要約とターゲット棒グラフインジケータの予測値の範囲の色付けに使用されます。
- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- (必須)棒の値リストから、インジケータで描画される棒に使用する値を選択します。
- (必須)予測値リストから、予測グラフの予測値に使用する値を選択します。
- ターゲットの値リストから、インジケータのターゲットマーカーに使用する値を選択します。
- 下側信頼区間リストから、対話型表示の下側信頼限界に使用する値を選択します。
- 上側信頼区間リストから、対話型インジケータの上側信頼限界に使用する値を選択します。
- 要約する代わりに値リストから、要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。

- **要約する代わりに予測リスト**から、予測値の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- **要約する代わりに下側信頼区間リスト**から、下側信頼区間の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- **要約する代わりに上側信頼区間リスト**から、上側信頼区間の要約に使用する値を選択します。この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。
- **概要グラフの種類**リストから、対話型インジケータの要約データの表示に使用するグラフの種類を選択します。
- **概要機能**リストから、対話型インジケータのデータの要約に使用する機能を選択します。
- **概要グラフのラベルのカスタマイズ**フィールドで、対話型インジケータの概要グラフのデフォルトのタイトルの置換に使用するテキストを入力します。
- **デフォルト データの色**フィールドで、対話型インジケータでデータを示すデフォルトの色を選択します。
- インジケータに凡例を表示するには、**凡例の表示**を選択します。
- (必須)**集計の方法**リストから、対話型インジケータのデータの集計に使用する値を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、(なし)を選択します。
- **軸の出力形式 (詳細)**リストから、軸(詳細)のデータに適用する SAS 出力形式を選択します。
- **軸の出力形式(要約)**リストから、要約軸のデータに適用する出力形式を選択します。

サンプルデータ構造

対話型要約とターゲット棒グラフを作成するには、2 つの変数(X 軸値と集計の方法)と、少なくとも 3 つのメジャー(棒の値、予測値、範囲値)を指定する必要があります。この例の 2011 年のデータでは、オプションの下側信頼区間と上側信頼区間の設定に対する値も提供されています。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Product Line (X 軸値)	Delivery Date (集計の方法)	Actual (棒の値)	Predicted (予測値、予測 範囲値、ター ゲット値)	Upper Limit (上側信頼区 間)	Lower Limit (下側信頼区 間)	Percentage Difference (範囲値)
Children	1/1/2009	51,065	69,125	98,581	39,669	-26.13%
Clothes & Shoes	1/1/2009	564,101	647,098	854,784	439,413	-12.83%
Outdoors	1/1/2009	502,799	439,984	609,154	270,814	14.28%
Sports	1/1/2009	917,930	871,717	1,191,439	551,994	5.30%

対話型のインジケータを使用して最適な結果を得るには、インジケータデータが次の要件を満たす必要があります。

- インジケータデータは、ターゲット棒グラフに適している必要があります。単一行を返し、KPI インジケータに適しているインジケータデータは、対話型インジケータには適していません。
- インジケータデータには、データの要約に使用されるカーディナリティが低いグループ化列が 1 つ含まれる必要があります。カーディナリティが低いグループ化列とは、グループ化する重複しない値が少ない列です。
- (オプション) 対話型インジケータでビジネスユーザーへの予測データの表示を有効化するには、インジケータデータに予測値、下側信頼区間の値、上側信頼区間の値の列が含まれる必要があります。

対話型インジケータでは、詳細グラフに表示される詳細データか、または別のフィールドのデータを要約できます。

インジケータレベルの対話型インジケータの設定は、対話型インジケータでデータを使用する方が高機能である点を除いて、基本的にターゲット棒グラフと同じです。唯一の大きな違いは、対話型インジケータが依存範囲の概念をサポートしている点です。依存範囲では、範囲定義として別の範囲の値を使用します。このスキームでは、SAS BI Dashboard と対話型インジケータには、SAS Forecast Server により生成されるデータセットが、複雑な中間データ変換の必要がないため有益です。

KPI (Key Performance Indicator)

定義

KPI (Key Performance Indicator)は、組織が指定したゴールに対して進捗しているかどうかを示す指標です。SAS BI Dashboard の KPI には、スピードメータ、温度計、タコメータ、スライダ、ダイヤル、アロー、ストップライトなどのゲージの種類を選択できます。

図 A1.14 KPI サブタイプのダイナミック温度計の例



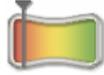
このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

KPI サブタイプ

 をクリックして KPI インジケータの種類を選択すると、ゲージリストが表示されます。このリストから、使用するゲージサブタイプを選択できます。

表 A1.1 ゲージサブタイプ

カテゴリ	ゲージサブタイプ	アイコン
ダイナミック 注: ダイナミックゲージサブタイプは、ユーザー定義範囲に対応する唯一のサブタイプです。	ダイナミックビュレットバー	
	ダイナミックダイアル	
	ダイナミック温度計	
	ダイナミックスライダ	
	ダイナミックスピードメータ	
	ダイナミック温度計	
	ダイナミックストップライト	
アローとポインタ	アロー	
	アロー(小)	
	ファンシーアロー	
	シンプルアロー	
	ポインタ	

カテゴリ	ゲージサブタイプ	アイコン
ダイアル	シンプルダイアル	
	印付きダイアル	
	ダイナミックダイアル	
	ダイナミック温度計	
スライダ	スライダ	
	曲線スライダ	
	ダイナミックスライダ	
	様式的スライダ	
	縦スライダ	
タコメータ	シンプルタコメータ	
	強調タコメータ	
	タコメータ(単色)	
	リバースタコメータ	
	様式的タコメータ	

カテゴリ	ゲージサブタイプ	アイコン
ストップライト	ストップライト	
	ストップライト(小)	
	ダイナミックストップライト	
その他	ボタン	
	シリンダ	
	ダイナミックビュレットバー	
	ダイナミックスピードメータ	
	ダイナミック温度計	
	ゲージ	

使い方の情報

最適なデータ

ゲージは、ターゲット、ゴール、間隔に関連する変数のステータスまたはメジャーを表示します。この目的を達成できるように、ゲージはユーザーが慣れた形式でデザインされます。ゲージの多くは、自動車や機械など、実生活に存在するオブジェクトです。ゲージを使用して、量、範囲、変数、ステータスを表示できます。

ビジネスユーザーにステータスを即時警告する際、詳細を知らせる必要がない場合、ゲージの使用が最も効率的です。ビジネスユーザーが情報を一目で把握できるようにする必要があります。ゲージ(特に円形ゲージ)は、画面のかかなりの領域を占める可能性があることに留意してください。ただし、ゲージは慣れていて使いやすいため、よく使用されます。

適さないデータ	KPI ゲージは、大量のデータには適していません。限定されたデータ行数を使用して要約データを生成するインジケータデータには、KPI ゲージが最適であると考えられます。大量データを含むインジケータデータを使用して KPI を作成する場合、SAS BI Dashboard ではインジケータデータのデータ行ごとに 1 つの KPI ゲージの作成が試行されます。大量データの場合、データが自動的に要約されるインジケータの種類をお勧めします。この種類のインジケータの例には、棒グラフがあります。
ターゲットの利用者	ゲージに慣れていない利用者もいます。ただし、ゲージは解釈が難しいわけではありません。そのため、このインジケータの種類を慣れていない場合でも理解できます。間隔を表すために使用される値、間隔のいき値、色(目標を下回るには赤、目標通りには黄色、目標を上回るには緑)にはラベルを付けるようにします。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13 章、“アラートのカスタマイズ”(119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加”(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: <ul style="list-style-type: none"> • (ローカルシステムでのデータフィルタリングの場合)このインジケータの種類は、ソースインジケータとしてのみ使用できます。 • (リモートサーバーでのデータフィルタリングの場合)このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータとしてのみ使用できます。 <p>注: KPI では、複数のゲージの選択はサポートされません。</p> <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加”(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定”(75 ページ)
- “インジケータの種類の変更”(76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更”(77 ページ)
- “使用する範囲の変更”(77 ページ)
- “グラフスタイルの指定”(76 ページ)
- “並べ替え順序の指定”(77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	Sale Amount
KPI タイトル	Category が選択されます。
タイトルの行数	2

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)範囲値リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- 範囲値 2 リストから、ゲージで表す第 2 データポイント値を選択します。第 2 値を使用しない場合、(なし)をクリックします。
注: すべての KPI 範囲がこの設定を使用するわけではありません。
- KPI タイトルリストから、KPI のゲージにタイトルとして使用する列名データを選択します。
- タイトルの行数リストから、KPI のタイトルに予約する行数を選択します。行にテキストがない場合、空白行が表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際にインジケータタイトルを非表示にするには、ズームアウト時にタイトルを非表示をクリックします。タイトルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際にインジケータ値を非表示にするには、ズームアウト時に値を非表示をクリックします。値は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。

サンプルデータ構造

KPI を作成するには、メジャー(範囲値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

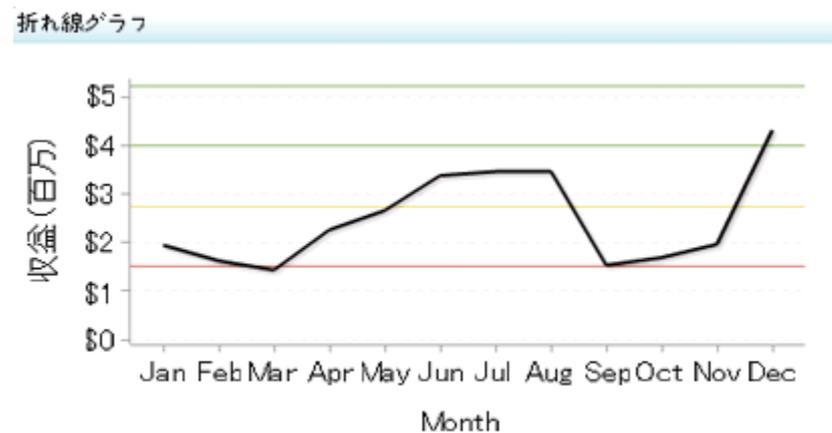
Category (KPI タイトル)	Sale Amount (範囲値)
Caramels	\$625,601
Chocolate Bars	\$6,988,757
Sugar Free	\$1,133,940
Truffles	\$2,230,216

参照線付き折れ線グラフ

定義

折れ線グラフは、2つの変数の関係を示すグラフです。通常、ある期間のデータの推移や傾向を示します。折れ線グラフはソースデータの要約を示し、非連続のカテゴリ値に対する応答値のグラフを作成するために使用します。

図 A1.15 参照線付き折れ線グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	折れ線グラフは、変数の変化を表示する必要がある場合、または傾向や変化率の情報が重要である場合に使用します。折れ線グラフでは、線を並べて、傾向や複数の変数の個々の値を比較できます。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13章、“アラートのカスタマイズ”(119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加”(111 ページ)を参照してください。

- 相互作用サポート
- **データフィルタサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
 - **対話型ハイライトサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
- 詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Month
第 1 の値	Revenue
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Month に設定)
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Revenue に設定) 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (百万) がタイトルに追加され ます。
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須) **第 1 の値**リストから、参照線付き折れ線グラフの第 1 データ線または KPI ゲージの第 1 目盛に使用するパラメータを選択します。
- **第 2 の値**リストから、折れ線グラフの第 2 データ線または KPI ゲージの第 2 目盛に使用するパラメータを選択します。第 2 の値を指定しない場合、**(なし)**を選択します。

- **X 軸タイトル**フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**X 軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**X 軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- **Y 軸のタイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**Y 軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**Y 軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、**X 軸のスケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **X 軸のスケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、**Y 軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **Y 軸のスケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、**X 軸目盛りラベルの非表示**を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、**ズームアウト時の軸の非表示**を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に参照線を非表示にするには、**参照線の非表示**をクリックします。参照線は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- **行グループ化**リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **X 軸ラベル**リストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

折れ線グラフを作成するには、1 つの変数(X 軸値)と 1 つのメジャー(第 1 の値)を指定する必要があります。

注: サンプルデータでは違いますが、オプションのメジャー(第 2 の値)を指定して参照線を作成できます。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

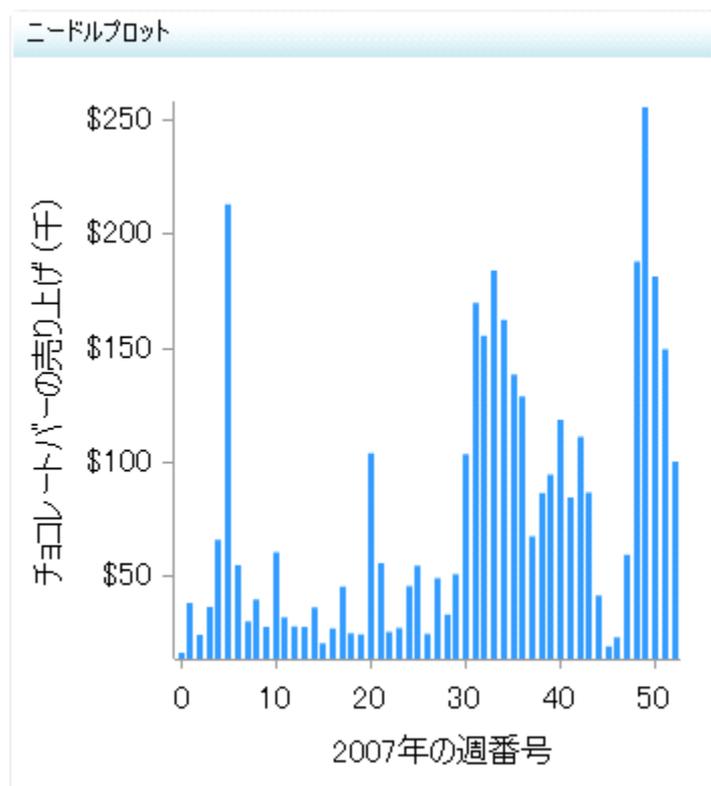
Month (X 軸値)	Revenue (第 1 の値)
January	\$1,956,055
February	\$1,632,174
March	\$1,433,003
April	\$2,265,200
May	\$2,669,076

ニードルプロット

定義

ニードルプロットは、横方向の基準線に向かって伸びる縦線でデータポイントを結ぶプロットです。基準線は、縦軸の 0 値または最小値と交差します。

図 A1.16 ニードルプロットインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	ニードルプロットは、同じ基準線からすべて伸びる多数のデータポイントを操作する際に使用します。ニードルプロットのよく見られる例は地震の震度です。震度は、ニードルプロットのニードルで表されます。横軸は通常、時間を表します。ニードルプロットは、データポイントが多過ぎて棒グラフとしてデータを表せないときに使用します。
ターゲットの利用者	ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。ただし、ユーザーが読みづらいこともあります。ユーザーが各値を読むのではなく、パターンを識別する場合に最適です。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Week Number
Y 軸値	Sale Amount
X 軸のタイトル	2007 年の週番号に設定
Y 軸のタイトル	チョコレートバーの売り上げに設定
X 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが収益に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸のタイトルは **収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸のスケールを選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが収益に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸のタイトルは **収益 (百万)**と表示されます。
- X 軸の出力形式リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- Y 軸の出力形式リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- X 軸ラベルリストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

ニードルプロットを作成するには、2つのメジャー(X軸値とY軸値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

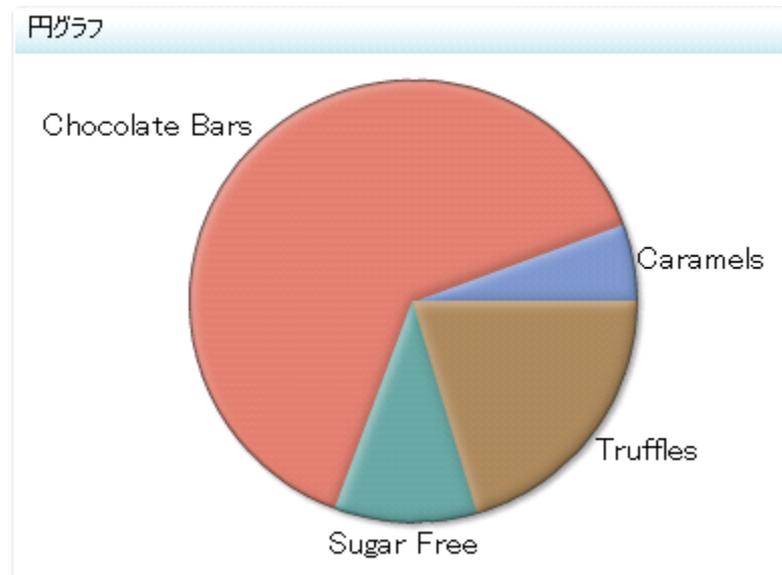
Week Number (X 軸値)	Sale Amount (Y 軸値)
0.00	\$16,653
1.00	\$38,456
2.00	\$24,601
3.00	\$66,171

円グラフ

定義

円グラフは、中心から円周に向かう直線でスライスに分割された円形のグラフです。各スライスは、全体に対する各要素の相対比率を示します。

図 A1.17 円グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	円グラフを最適に使用するには、コンポーネント数を限定する(5以下)か、ビジネスユーザーが各スライスの意味と値を推測する必要がないように凡例または円グラフ自体の隣にテキストを挿入します。
適さないデータ	円グラフはレポートとプレゼンテーションによく使用されますが、解釈が難しい可能性があります。円グラフから推断するには面積の測定と角度の比較が必要ですが、目視では難しいためです。このため、円グラフのスライスの数を多くしたり、スライスの値を近づけすぎないようにしてください。 また、円グラフは、多くのスペースを占めることに注意してください。円形のため、インジケータのスペースが効率的に使用されません。通常、棒グラフの方がより効率的かつ簡単に解釈できます。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。前述の注意事項に従った場合、ほとんどのユーザーはこのインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが合計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ”(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加”(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)”(75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)”(76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)”(77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)”(77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)”(76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)”(77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
カテゴリ値	Product Line
応答値	Sales
ラベルの表示	この設定が選択されます。
凡例の表示	この設定は選択されません。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **カテゴリ値**リストから、インジケータに使用する値を選択します。
- (必須) **応答値**リストから、インジケータに描画される円スライスに使用する応答値を選択します。
- インジケータのマップ部分または円スライスにラベルを挿入するには、**ラベルの表示**を選択します。
- インジケータに凡例を表示するには、**凡例の表示**を選択します。

サンプルデータ構造

円グラフを作成するには、1つの変数(カテゴリ値)と1つのメジャー(応答値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

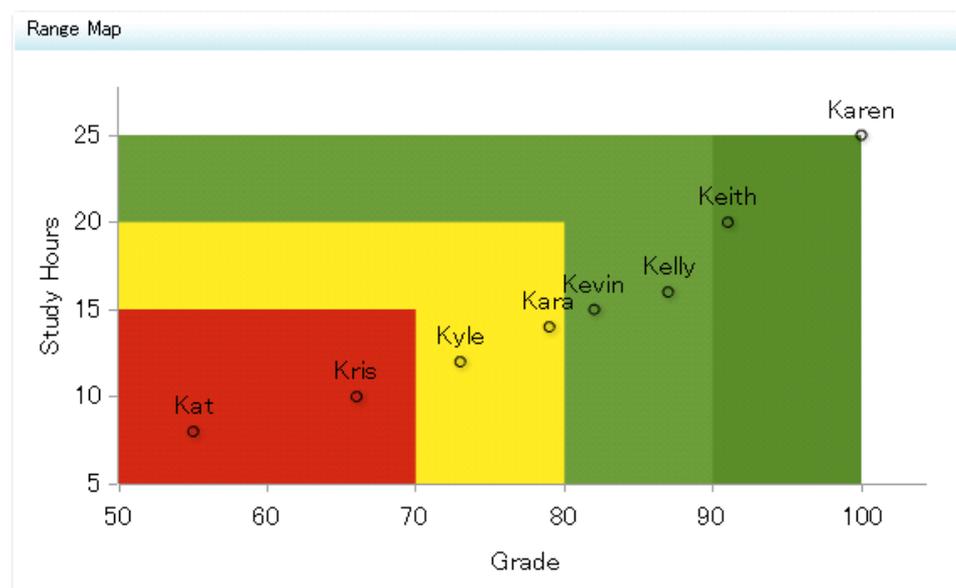
Product Line (カテゴリ値)	Sales (応答値)
Caramels	\$625,601
Chocolate Bars	\$6,988,757
Sugar Free	\$1,133,940
Truffles	\$2,230,216

Range Map

定義

Range Map は、位置と範囲の観点でデータポイントを比較するチャートです。Range Map の範囲それぞれが色と罫線によって定義され、マップのすべての部分が特定の範囲を表します。

図 A1.18 Range Map インジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	Range Map は、位置と範囲の観点でデータポイントを比較するときに使用します。Range Map は、多数のデータポイントが複数の範囲に存在する場合に使用します。たとえば、Range Map は、やせ気味、標準、太り気味、肥満といった異なる範囲にある男性の体重を表すときに使用します。各データポイントは、マップ上のこれらの範囲のうちいずれかに属する必要があります。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。範囲に関連するゾーンの追加により、ユーザーは意味のあるパフォーマンス間隔に基づいてデータポイントを迅速に比較できるようになります。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲は必須です。

アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13 章、“アラートのカスタマイズ” (119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定” (75 ページ)
- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)

このインジケータでは、X 軸範囲と Y 軸範囲の 2 つの範囲を指定することが要求されます。前の図では、X 軸範囲には成績に対して定義された範囲が、Y 軸範囲には勉強時間に対して定義された範囲がそれぞれ使用されています。

注: 両方の範囲に同じ間隔数が定義されている必要があります。異なる場合、次のメッセージが表示されます。

X の範囲と Y の範囲は同じ数字を使用した間隔にしてください。

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
ポイントラベル	Student
X 軸値	Grade
Y 軸値	Study Hours
ラベルの表示	この設定が選択されます。
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Grade に設定)
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Study Hours に設定)
X 軸のスケール	この設定が選択されます。

表示設定	図に使用された選択内容
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)ポイントラベルリストから、データポイントにラベルを付けるために使用する値を選択します。
- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。Y 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- インジケータのマップ部分または円スライスにラベルを挿入するには、ラベルの表示を選択します。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが収益に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸のタイトルは収益(百万)と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸のスケールを選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが収益に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸のタイトルは収益(百万)と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、ズームアウト時の軸の非表示を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、X 軸目盛りラベルの非表示を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- 行グループ化リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、(なし)を選択します。
- 列グループ化リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、(なし)を選択します。
- X 軸の出力形式リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

Range Map を作成するには、1 つの変数(ポイントラベル)と 2 つのメジャー(X 軸値と Y 軸値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

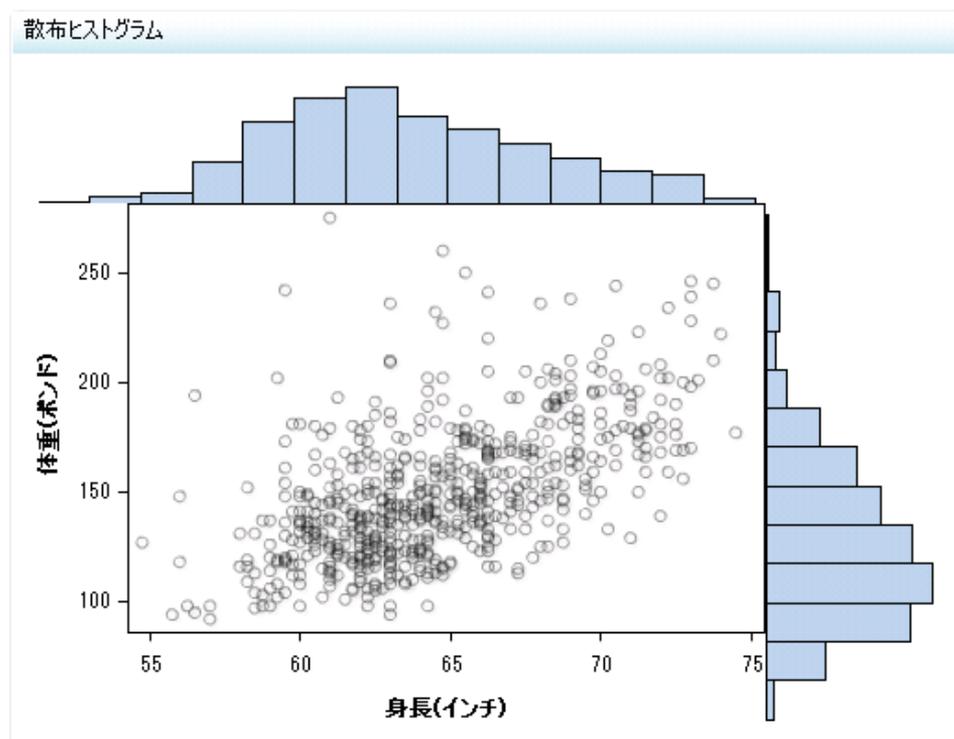
Student (ポイントラベル)	Grade (X 軸値)	Study Hours (Y 軸値)
Kara	79.00	14.00
Karen	100.00	25.00
Kat	55.00	8.00
Keith	91.00	20.00

散布ヒストグラム

定義

散布ヒストグラムは、その上側と右側に横向きと縦向きのヒストグラムを伴う散布図です。横棒と縦棒は、列と行として取得されるデータポイントの頻度を表示するために使用されます。

図 A1.19 散布ヒストグラムインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	散布ヒストグラムは、各データポイントとポイントの要約の表示が必要な場合に使用します。この例として、6年間のクラスのテスト成績が挙げられます。各年のテスト成績がそれぞれデータポイントとしてグラフに表示され、ヒストグラムに成績のカウント数が棒グラフ形式で表示されます。
ターゲットの利用者	ほとんどのユーザーはこのインジケータの種類に慣れていません。利用者が確実に解釈方法を知っている、または利用者に解釈方法を指示する場合を除いて、このインジケータの種類を使用することはお勧めしません。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ”(111 ページ)を参照してください。

- 相互作用サポート
- **データフィルタサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
 - **対話型ハイライトサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
- 詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Height
Y 軸値	Weight
X 軸のタイトル	身長(インチ)に設定
Y 軸のタイトル	体重(ポンド)に設定
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。

- **Y 軸のタイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、**X 軸のスケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **X 軸のスケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、**Y 軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **Y 軸のスケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。

サンプルデータ構造

散布ヒストグラムを作成するには、2 つのメジャー(X 軸値と Y 軸値)を指定する必要があります。

ヒント このインジケータでは、データをクラスタ化(グループ化)するための多数の表示設定は提供されていません。そのため、インジケータデータが集計され、データが意味を持って示されるようにします。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

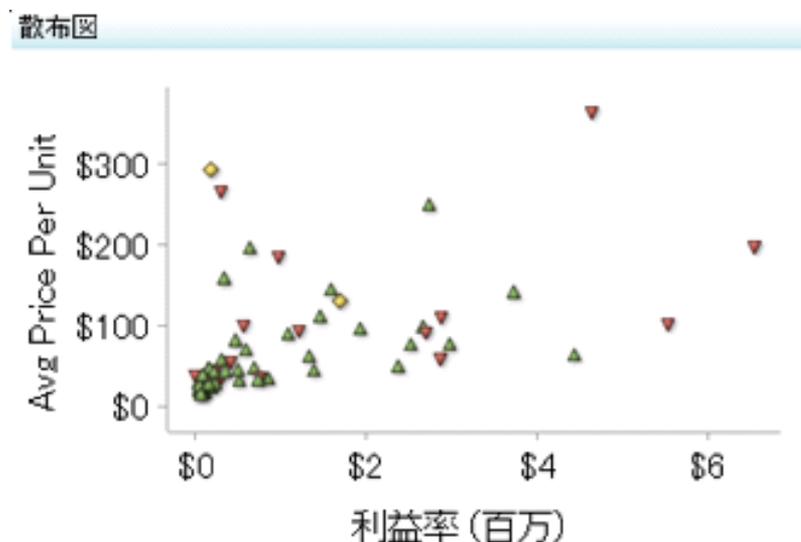
Height (X 軸値)	Weight (Y 軸値)
54.75	127.00
55.75	94.00
58.00	131.00

散布図

定義

散布図は、値間の関係を表示するために横軸と縦軸でプロットされるデータポイントのセットから構成されるチャートです。

図 A1.20 散布図インジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	散布図は、多数のデータポイントが存在し、データポイント間に相関があるかどうかを特定する場合に使用します。たとえば、指定地域の外部温度と森林火災の数に相関があるかどうかを特定するために、森林火災をその森林火災発生時の外部温度でプロットします。すべてのデータポイントがプロットされると、ユーザーはデータポイントが相関しているかどうかを視覚的に特定することも、数式を使用し、最適なプロシジャを使用してデータポイント間の相関を特定することもできます。この特定は、散布図を作成するだけで自動的に行われないことに注意します。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13 章、“アラートのカスタマイズ” (119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加” (111 ページ)を参照してください。

- 相互作用サポート
- **データフィルタサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
 - **対話型ハイライトサポート:** このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。
- 詳細については、“[インジケータ間の相互作用の追加](#)” (104 ページ)を参照してください。

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	Profit %
ポイントラベル	Product Group
X 軸値	Profit
Y 軸値	Avg Price Per Unit
ラベルの表示	この設定が選択されます。
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Profit に設定) 注: X 軸のスケール設定によりラベル (百万) がタイトルに追加され ます。
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Avg Price per Unit に設定)
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)範囲値リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- (必須)ポイントラベルリストから、データポイントにラベルを付けるために使用する値を選択します。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- インジケータのマップ部分または円スライスにラベルを挿入するには、**ラベルの表示**を選択します。
- X 軸**タイトル**フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸の**スケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸の**タイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸の**スケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸の**スケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に X 軸の**スケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸の**スケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に Y 軸の**スケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、**ズームアウト時の軸の非表示**を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、X 軸**目盛りラベルの非表示**を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- **行グループ化**リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- X 軸の**出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- Y 軸の**出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

散布図を作成するには、1 つの変数(ポイントラベル)と 3 つのメジャー(範囲値、X 軸値、Y 軸値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

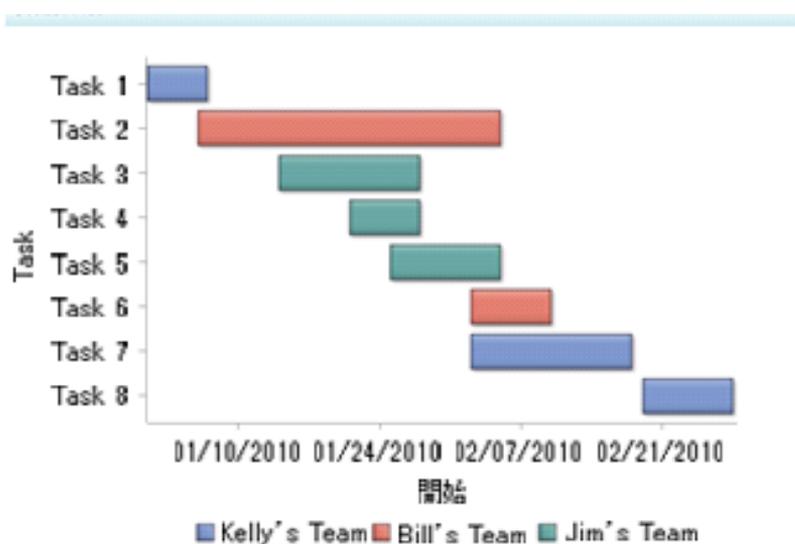
Profit percentage (範囲値)	Product Group (ポイントラベル)	Average Price Per Unit (X 軸値)	Sales (Y 軸値)
71.46%	Golf clothes	\$111.41	\$2,052,303
56.29%	Gymnastic clothing	\$47.03	\$303,411
57.81%	Bathing suits	\$34.59	\$1,486,572

スケジュールチャート

定義

スケジュールチャート(ガントチャートとも呼ばれます)は、プロジェクトを構成するタスクのグラフ表示です。チャートには開始日と終了日、各タスクの間隔、タスクの順序、タスク間の依存関係が表示されます。

図 A1.21 スケジュールチャートインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	スケジュールチャートは、特定のタスク、イベント、アクティビティの時系列でのスケジュールを表示する場合によく使用されます。必須ではありませんが、タスクを縦軸、時間要素を横軸にすると、より簡単に表示できます。スケジュールチャートは、タスクの長さや頻度を比較する場合に特に有用です。第3要素を取り入れるには、棒にそれぞれ異なる色を割り当てます。この色は、カテゴリ、重要度、緊急性などの項目を表します。
ターゲットの利用者	スケジュールチャートを選択した場合、ほとんどのユーザーはこのインジケータの種類に慣れていないため、注意が必要です。ただし、解釈は難しくないので、このインジケータの種類に慣れていないユーザーでも理解できます。このインジケータの種類に慣れている利用者として、ビジネスアナリスト、ビジネスユーザー、経営幹部、金融アナリストなどが挙げられます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、「 インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 」(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、「インジケータ間の相互作用の追加」(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)” (76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
タスク値	Task
グループ (値別)	Team
開始日	Start date
終了日	End date
X 軸のタイトル	開始に設定
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Task に設定)

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **タスク**リストから、インジケータのタスク軸に使用する値を選択します。
- (必須) **グループ(値別)**リストから、インジケータのデータのグループ化に使用する値を選択します。
- (必須) **開始日**リストから、インジケータのタスクの開始日を選択します。
- (必須) **終了日**リストから、インジケータのタスクの終了日を選択します。
- **X 軸タイトル**フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**X 軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**X 軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- **Y 軸のタイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**Y 軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**Y 軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、**X 軸のスケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に**X 軸のスケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、**Y 軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に**Y 軸のスケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

スケジュールチャートを作成するには、2 つの変数と 2 つの日付(開始と終了)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Team (グループ (値別))	Task (タスク)	Start Date (開始日)	End Date (終了日)
Kelly's Team	Task 1	01/01/2010	01/07/2010
Bill's Team	Task 2	01/06/2010	02/05/2010
Jim's Team	Task 3	01/14/2010	01/28/2010
Jim's Team	Task 4	01/21/2010	01/28/2010
Jim's Team	Task 5	01/25/2010	02/05/2010
Bill's Team	Task 6	02/02/2010	02/10/2010

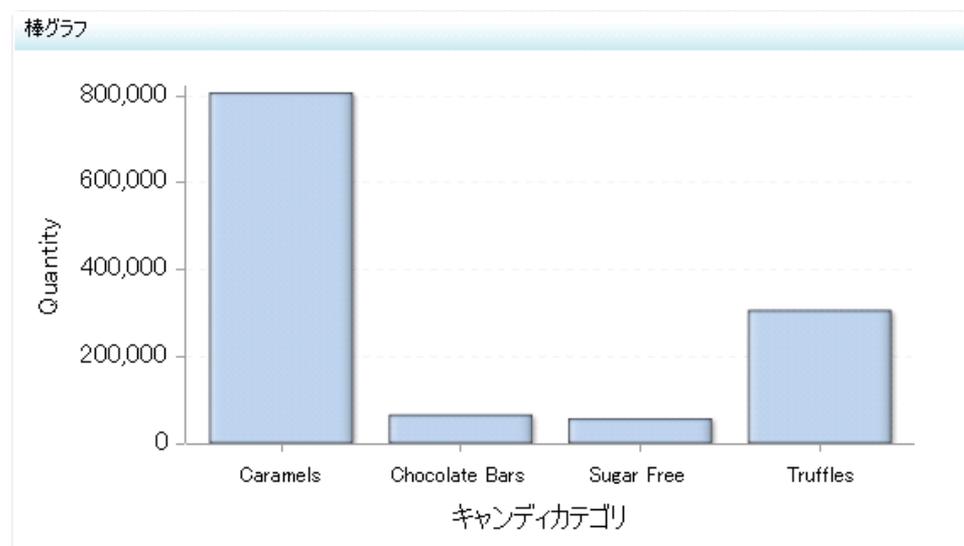
棒グラフ

定義

棒グラフは、1つのグリッドと複数の縦または横の列(棒)で構成されます。各列は量的データを表します。

注: このインジケータでは、縦棒グラフのみサポートされています。

図 A1.22 棒グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	棒グラフは、最も一般的に使用されるチャートの1つです。棒グラフでは、ユーザーは複数の変数の値、値、データのカテゴリを迅速に比較できます。棒グラフは、棒の差が目視でわかるほど値が異なる場合に使用します。
適さないデータ	値が非常に近い場合、棒同士を簡単に比較することは難しくなります。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。複数のカテゴリの値の比較に一般的によく使用されます。すべての利用者がこのインジケータの種類の種類横バージョンおよび縦バージョンに慣れているため、簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが合計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、「 インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 」(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、「インジケータ間の相互作用の追加」(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)” (76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Candy Category
Y 軸値	Quantity
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Candy Category に設定)
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Quantity に設定)
X 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。Y 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸のスケールを選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- X 軸の出力形式リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- Y 軸の出力形式リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- X 軸ラベルリストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

棒グラフを作成するには、1つの変数(X軸値)と1つのメジャー(Y軸値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Candy Category (X軸値)	Quantity (Y軸値)
Caramels	808,183
Chocolate Bars	66,451
Sugar Free	57,717
Truffles	307,045

スパークテーブル

定義

スパークテーブルは、要約され、スパーク線で表されるデータ行のコレクションです。スパーク線はそれぞれ、データの測定値に結び付いた傾向を表します。スパークテーブルには、関連するデータとゲージを含めることもできます。

注:

- 指定した設定に基づき、スパークテーブルインジケータには、データ列(変数とメトリック)、ゲージ、スパーク線傾向分析グラフが任意の数で任意の組み合わせで表示されます。
- スパークテーブルインジケータは、SAS BI Dashboardの前のバージョンで使用可能だったKPIテーブル、グラフと傾向インジケータの種類に代わるものです。

図 A1.23 ゲージとスパーク線グラフ付きのスパークテーブルインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

このインジケータの使用例については、“[例: スパークテーブルの作成](#)” (81 ページ)を参照してください。

最適なデータ	スパークテーブルは、スパーク線によりユーザーが一見してわかる有益な情報が追加できるときに使用します。スパーク線は、複雑なデータを単純な線形グラフで示せます。個々のデータポイントを折れ線グラフ形式で表示する必要がない場合に、スパーク傾向線をスパークテーブルに使用します。つまり、全体的な傾向はビジネスユーザーに対しデータの方向性を示しますが、スパークテーブルを活用するためにスパークテーブルのすべてのデータポイントを示す必要はありません。スパークテーブルは、傾向線の形成に十分なデータがあり、小さな KPI の範囲を作成できる状態にデータを変換できる場合に使用します。
ターゲットの利用者	スパーク線に慣れていない利用者もいます。ただし、スパーク線は簡単に解釈できるようにデザインされています。そのため、このインジケータの種類に慣れていないユーザーでも理解できます。スパークテーブルにグラフィックを追加することで、ユーザーに理解を助けるコンテキストが提供されます。このインジケータの種類に慣れている利用者として、ビジネスアナリスト、ビジネスユーザー、経営幹部、金融アナリストなどが挙げられます。
データ集計サポート	データ集計のためにスパークテーブルインジケータを構成し、スパークテーブルの列ごとに使用する集計の種類を選択できます。
範囲サポート	範囲はオプションでサポートされます。
アラートサポート	アラートは、範囲がインジケータと関連付けられている場合のみサポートされます。詳細については、 13 章, “アラートのカスタマイズ” (119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>注: (ローカルシステムのデータのフィルタリングの場合のみ) スパークテーブルインジケータをターゲットとして使用するには、スパーク(グループ別)とスパーク X 軸の設定を(なし)に設定する必要があります。したがって、スパークテーブルインジケータをフィルタのターゲットとして使用する場合、スパーク線は表示できません。</p> 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

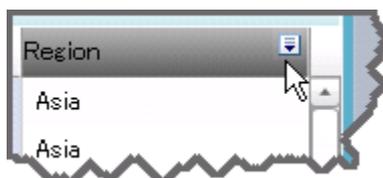
- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)

- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)
- “並べ替え順序の指定” (77 ページ)

スパークテーブル列

スパークテーブルの列の追加と削除を行えます。

- 列を削除するには、削除するデータ列の列ヘッダーの上にカーソルを合わせます。列メニューが表示されます。



☿ をクリックして、**列の削除**を選択します。列がスパークテーブルから削除されます。この場合、インジケータから列が削除されるだけです。削除してもインジケータデータソースに影響しません。



- 列を追加するには、新しい列に指定する場所の左側の列をクリックします。次に、**列の追加**をクリックします。

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
スパーク (グループ別)	Product Line
スパーク X 軸	Date Order Was Delivered

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- **スパーク (グループ別)**リストから、スパークテーブルのグループ化の基準値を選択します。
注: 複数のデータ行が、単一行に要約されます。
- **スパーク X 軸**リストから、列のゲージまたは列のスパーク線(グラフ)の X 軸に使用する値を選択します。

注: インジケータソースデータに複数のスパーク線データ列がある場合、各データ列は同じ X 軸値を使用する必要があります。

- スパークテーブルの最後の行をハイライトするには、**最後の行をハイライト**をクリックします。ソースデータテーブルが要約に最後の列を使用する場合、最後の行をハイライトすると要約値が強調されます。

列プロパティ

列セクションを使用して、スパークテーブルの各列の表示方法を指定します。列の現在のプロパティ設定を表示するには、スパークテーブルの列をクリックします。

ヒント 列がハイライトされている必要があります。別の列ヘッダーをクリックしてから、新しい列を再度クリックする必要がある場合があります。

前の図では、スパーク線列に次の列設定が使用されます。

列設定	図に使用された選択内容
ソースデータ	Actual
列のタイトル	月間売り上げ傾向に設定
列の幅(%)	50 に設定
集計関数	スパーク線が選択されます。

スパークテーブルの各行に対し、次のプロパティをカスタマイズできます。

- (必須) ソースデータリストから、この列に表示するソースデータを選択します。**集計関数**の選択に基づき、データはスパーク線の Y 軸またはゲージに使用されます。
- **列のタイトル**フィールドで、この列のデータに使用するタイトルを入力します。指定したスパーク線またはゲージを説明するタイトルを使用します。
- **列の幅(%)**リストから、スパークテーブルの選択されている列幅に使用する幅をパーセントで選択します。

ヒント

- スパークテーブルの列幅を調整する際は、スパークテーブル内の左から右に向かって作業をします。
- 列幅を変更するには、列の境界線をドラッグして列のサイズをダイナミックに変更するのではなく、**列の幅(%)**リストを使用します。ドラッグすると、列内のすべてのデータ(スパーク線など)が再計算されます。再計算はパフォーマンスの遅れを引き起こす場合があります。
- ドラッグによる列サイズの変更は、インジケータとともに保存されません。**列の幅(%)**フィールドでの列サイズ変更のみインジケータとともに保存されます。
- ユーザーがズームアウトした際、テーブルの表示が 100%の場合に列を非表示にするには、**ズーム時に展開**をクリックします。ユーザーがズームインすると、テーブルは拡大し、影響を受けた列は展開して表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- **集計関数**リストから、列のデータの集計に使用する関数の種類を選択します。**スパーク線**を選択した場合、ゲージ設定は使用できなくなります。

関数	説明
開始	各行のゲージにソースデータの開始データ値を表示します。
終了	各行のゲージにソースデータの終了データ値を表示します。
合計	各行のゲージにソースデータの合計を表示します。
平均	各行のゲージにソースデータの平均を表示します。
最小	各行のゲージにソースデータの最小データ値を表示します。
最大	各行のゲージにソースデータの最大データ値を表示します。
スパーク線	各行に、傾向分析グラフ形式でソースデータを表示します。 注: スパーク線を表示するには、 スパーク (グループ別) プロパティを設定する必要があります。

- **出力形式**リストから、列のデータに適用する出力形式を選択します。
- **範囲**フィールドに保存済みの範囲のファイル名を入力するか、**参照**をクリックしてファイルに移動します。ファイルを選択して、**OK** をクリックします。
- **ゲージの種類**リストから、列で使用するゲージの種類を選択します。
- 値が範囲セグメントを交差する箇所を除いて、すべての色を KPI ゲージから削除する場合、**ゴーストを有効にする**をクリックします。
注: この設定を選択すると、正しい範囲値と小さな KPI ゲージが見やすくなります。
- **範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- **範囲値 2**リストから、ゲージで表す第 2 データポイント値を選択します。第 2 値を使用しない場合、**(なし)**をクリックします。
注: すべてのゲージがこの設定を使用するわけではありません。

サンプルデータ構造

スパーク線付きのスパークテーブルを作成するには、2 つの変数(スパーク(グループ別)とスパーク X 軸)と 1 つのメジャー(ソースデータ)を指定する必要があります。**集計関数**リストでの選択に基づき、Actual 列がスパーク線またはゲージとして表示されません。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Date Order Was Delivered (スパーク X 軸)	Product Line (スパーク (グループ別))	Actual (ソースデータ)
2007JAN	Children	127348.2
2007JAN	Clothing	390431.7025
2007JAN	Outdoors	331445.64

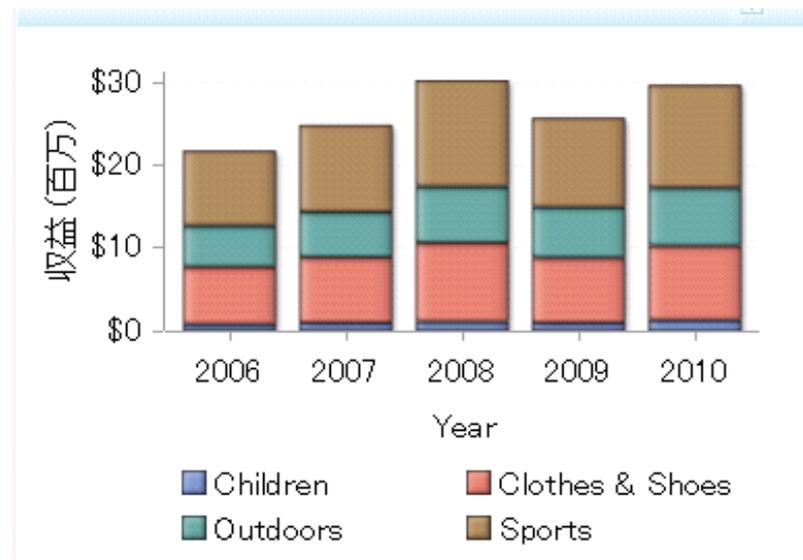
Date Order Was Delivered (スパーク X 軸)	Product Line (スパーク (グループ別))	Actual (ソースデータ)
2007JAN	Sports	555983.2925

積み上げ棒グラフ

定義

積み上げ棒グラフは、1つのグリッドと、データのサブグループ(スタック)を含む複数の縦または横の列(棒)で構成されています。各列は量的データを表します。棒グラフに含まれる横棒または縦棒は、さらに複数のコンポーネントに細分化されます。これらのコンポーネントは、棒全体とエンティティ全体に対する相対比率を示します。

図 A1.24 積み上げ棒グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ

積み上げ棒グラフは、各棒(カテゴリなど)が、すべてを合計すると棒の全体値になるように、さらに小さいコンポーネントに細分化できる場合に使用します。たとえば、各棒が1年の売り上げを表し、各年が各四半期の売り上げに細分化できる場合などが挙げられます。この場合、各棒は4つのサブコンポーネントで構成され、それぞれが特定の四半期の売り上げを表します。

適さないデータ	積み上げ棒グラフは、非常に類似しているまたは近い値が細分化したコンポーネントに含まれる場合は有効ではありません。積み上げ棒グラフのゴールは、エンティティの内訳を示すことです。ほとんど、またはまったく細分化されない場合、棒グラフの方が適しています。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが合計されません。
範囲サポート	範囲はサポートされていません。
アラートサポート	アラートはサポートされていません。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できます。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、「 インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 」(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、「インジケータ間の相互作用の追加」(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[グラフスタイルの指定](#)” (76 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸値	Year
積み上げグループ	Product Line
Y 軸値	Sales

表示設定	図に使用された選択内容
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Year に設定)
Y 軸のタイトル	収益に設定 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (百万) がタイトルに追加され ます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。X 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- (必須) 積み上げグループリストから、インジケータで積み上げグループの定義に使用する値を選択します。
- (必須)Y 軸値リストから、インジケータの Y 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、列名列の値で表されます。Y 軸値リストでは、列名列のすべての値を選択できます。
- X 軸タイトルフィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- Y 軸のタイトルフィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸のスケールを選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが収益に設定されている場合に X 軸のスケールを選択すると、X 軸のタイトルは収益 (百万) と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸のスケールを選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが収益に設定されている場合に Y 軸のスケールを選択すると、Y 軸のタイトルは収益 (百万) と表示されます。
- X 軸の出力形式リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- Y 軸の出力形式リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、(なし)を選択します。(なし)を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- X 軸ラベルリストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

積み上げ棒グラフを作成するには、2 つの変数(棒とスタック)と 1 つのメジャーを指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

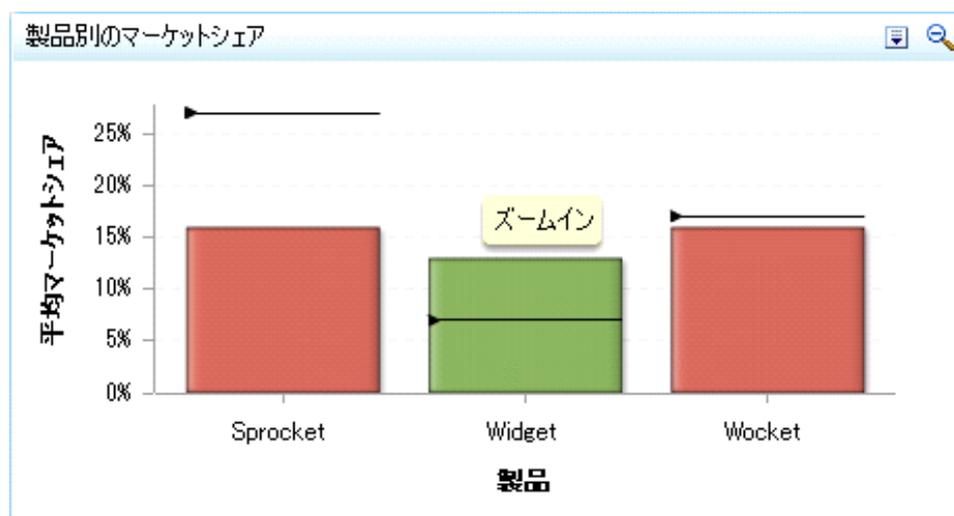
Year (X 軸値)	Product Line (積み上げグループ)	Sales (Y 軸値)
2008	Children	35,000
2008	Clothes & Shoes	50,500
2008	Outdoors	40,000
2008	Sports	20,000
2009	Children	35,000
2009	Clothes & Shoes	52,500
2009	Outdoors	42,000
2009	Sports	18,5000

ターゲット棒グラフ

定義

ターゲット棒グラフは、1つのグリッドと、参照線によって表されるターゲット値付きの、複数の縦または横の列(棒)から構成されます。各列は量的データを表します。

図 A1.25 ターゲット棒グラフインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	ターゲット棒グラフでは、ユーザーは指定ターゲットに基づいて迅速に、複数のカテゴリの値を比較することも、複数のカテゴリのパフォーマンスレベルを比較することもできます。
ターゲットの利用者	このインジケータの種類は、すべてのユーザーに適しています。ほとんどのユーザーは、このインジケータの種類に慣れているため、簡単に解釈できます。チャートの棒をターゲットと範囲に関連付けると、ユーザーは各カテゴリのパフォーマンスを迅速に表示できます。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされません。詳細については、13章、「アラートのカスタマイズ」(119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、「インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加」(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、「インジケータ間の相互作用の追加」(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定” (75 ページ)
- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)
- “グラフスタイルの指定” (76 ページ)
- “並べ替え順序の指定” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの"サンプルデータ構造"を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	market_share_vs_target
X 軸値	Product
棒の値	avg_market_share
ターゲットの値	avg_market_share_target
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Product に設定)
Y 軸のタイトル	平均マーケットシェアに設定
ズーム時の軸の非表示	この設定が選択されます。
Y 軸の出力形式	-123%が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須)範囲値リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- (必須)X 軸値リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名列**の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名列**のすべての値を選択できます。
- (必須)棒の値リストから、インジケータで描画される棒に使用する値を選択します。
- **ターゲットの値**リストから、インジケータのターゲットマーカーに使用する値を選択します。
- **X 軸タイトル**フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- **Y 軸のタイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸のスケールを選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、**X 軸のスケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **X 軸のスケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、**Y 軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **Y 軸のスケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、**X 軸目盛りラベルの非表示**を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザー

がズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。

- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、**ズームアウト時の軸の非表示**を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- **行グループ化**リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **X 軸ラベル**リストから、X 軸で使用するデータラベルに適用するスタイルを選択します。ラベルによって、読みやすいスタイルは異なります。

サンプルデータ構造

ターゲット棒グラフを作成するには、1 つの変数(X 軸値)と3 つのメジャー(棒の値、ターゲットの値、範囲値)を指定する必要があります。オプションで、**行グループ化**リストと**列グループ化**リストを使用して、追加変数を指定できます。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

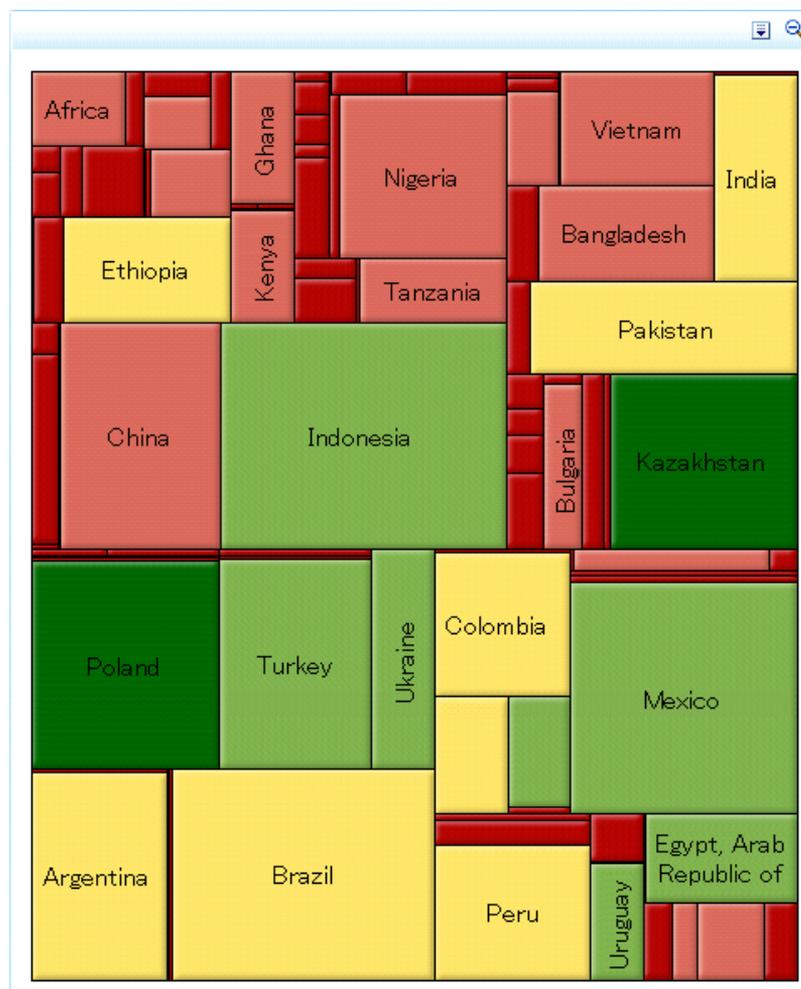
Market Share versus Target (範囲値)	Product (X 軸値)	Average Market Share (棒の値)	Average Market Share Target (ターゲットの値)
Sprocket	0.16	0.27	—0.11
Widget	0.13	0.07	0.06
Wocket	0.16	0.17	—0.01

タイトルチャート

定義

タイトルチャート(ツリーマップとも呼ばれます)は、ネストされた長方形を使用して、階層データを表示するグラフ表示です。

図 A1.26 タイルチャートインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ タイルチャートでは、長方形のタイルを使用してデータを表します。タイルは、それぞれのカテゴリの値を表すサイズに基づき変化します。各タイルのサイズは、カテゴリではなく値に比例しているため、各カテゴリのステータスまたは貢献の概要が明確に示されます。たとえば、タイルがそれぞれ異なる国の米生産を表すとします。アメリカはベトナムより国土が広い国にも関わらず、この場合、ベトナムのタイルはアメリカのタイルよりも非常に大きくなります。この違いにより、ビジネスユーザーは1つのマップで上位貢献者を明確に把握できます。そのためタイルチャートは、少ないスペースに多くの情報を表示する場合に最も効率的です。各タイルには、範囲を表すために色を付けることもできます。

適さないデータ タイルチャートは、詳細な情報を表示するためのものではありません。ツールチップと凡例に各タイルの詳細を表示できますが、ビジネスユーザーの主な目的は、上位貢献者(良いか悪いか)、または指定マップに対する最も大きなカテゴリなどのパターンについて大まかに把握することにあります。

ターゲットの利用者	タイトルチャートに慣れていないため、解釈が難しい利用者もいます。利用者がこのインジケータの種類に慣れているかどうかを使用前に確認することをお勧めします。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされません。詳細については、13章、「アラートのカスタマイズ」(119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、「インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加」(111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、「インジケータ間の相互作用の追加」(104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- 「インジケータの高さと幅の指定」(75 ページ)
- 「インジケータの種類の変更」(76 ページ)
- 「使用するインジケータデータの変更」(77 ページ)
- 「使用する範囲の変更」(77 ページ)
- 「グラフスタイルの指定」(76 ページ)
- 「並べ替え順序の指定」(77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの「サンプルデータ構造」を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	Amount per Operation
タイトルの基準	Country
サイズ	Amount
ラベルの表示	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- (必須) **タイルの基準**リストから、インジケータの各タイルの作成に使用する値を選択します。
- (必須) **サイズ**リストから、インジケータの各タイルのサイズ調整に使用する値を選択します。
- インジケータのマップ部分または円スライスにラベルを挿入するには、**ラベルの表示**を選択します。

サンプルデータ構造

タイルチャートを作成するには、1つの変数(タイルの基準)と2つのメジャー(サイズと範囲値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

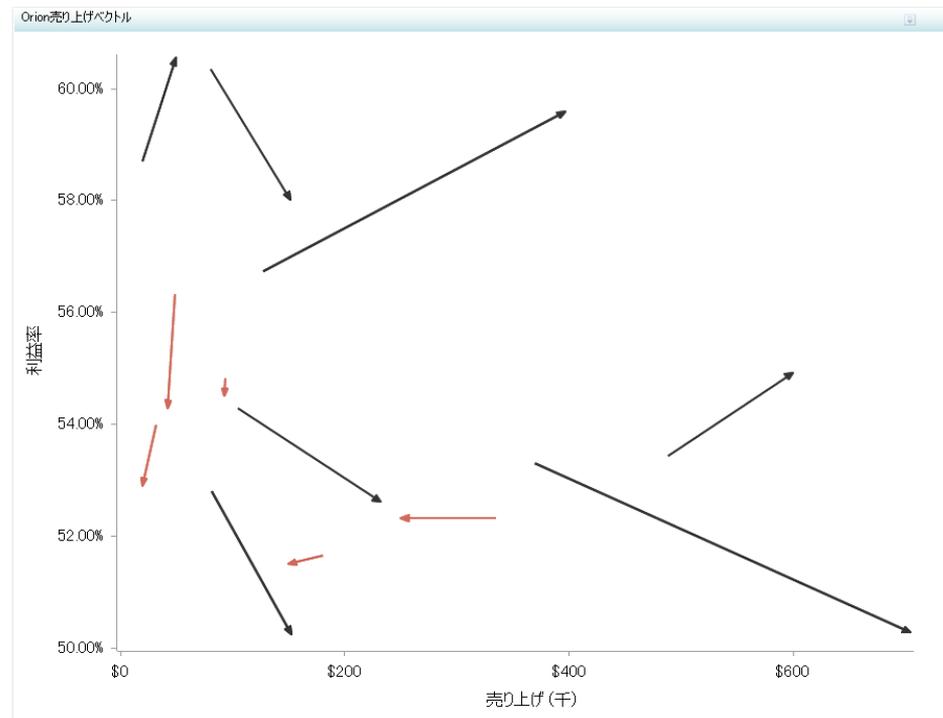
Country (タイルの基準)	Amount (サイズ)	Amount Per Operation (範囲値)
Brazil	3,604.20	300.35
Ethiopia	1,145.00	229.0
Indonesia	4,225.00	469.44

ベクトルプロット

定義

ベクトルプロットは、矢印のセグメントで構成されるプロットです。

図 A1.27 ベクトルプロットインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	ベクトルプロットは、方向と大きさがデータに存在し、表示する必要がある場合にのみ使用します。折れ線グラフとは異なり、ベクトルプロットでは各ベクトルを識別する第3変数に関して2つの変数がどのように相互に作用するかを表示できます。ベクトルプロットはビジネスでは使用頻度があまり高くありませんが、物理学、地学を扱うときは使用頻度が高くなります。ただし、ベクトルプロットはビジネスの特定の面を表すために使用できます。たとえば、ベクトルプロットは販売に注いだリソースと労力を考慮し、販売の方針を決定するために使用できます。
ターゲットの利用者	ほとんどのユーザーはこのインジケータの種類に慣れていません。利用者が確実に解釈方法を理解している、または利用者に解釈方法を指示する場合を除いて、このインジケータの種類を使用することはお勧めしません。
データ集計サポート	このインジケータの種類では、インジケータデータは集計されません。
範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされます。詳細については、13章“アラートのカスタマイズ”(119ページ)を参照してください。

リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“ インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加 ” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> • データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 • 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “[インジケータの高さと幅の指定](#)” (75 ページ)
- “[インジケータの種類の変更](#)” (76 ページ)
- “[使用するインジケータデータの変更](#)” (77 ページ)
- “[使用する範囲の変更](#)” (77 ページ)
- “[並べ替え順序の指定](#)” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“[サンプルデータ構造](#)”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	SALES_PER_CHANG
ポイントラベル	PROD_CAT
X 軸開始値	SALES_NOV
Y 軸開始値	PROFIT_PER_NOV
X 軸終了値	SALES_DEC
Y 軸終了値	PROFIT_PER_DEC
X 軸のタイトル	売上げに設定 注: X 軸のスケール設定によりラベル (千) がタイトルに追加されます。
Y 軸のタイトル	利益率に設定
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- (必須) **ポイントラベル**リストから、データポイントにラベルを付けるために使用する値を選択します。
- (必須) **X 軸開始値**リストから、X 軸で使用する先頭値を選択します。
- (必須) **Y 軸開始値**リストから、Y 軸で使用する先頭値を選択します。
- (必須) **X 軸終了値**リストから、X 軸で使用する最終値を選択します。
- (必須) **Y 軸終了値**リストから、Y 軸で使用する最終値を選択します。
- **X 軸タイトル**フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**X 軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**X 軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- **Y 軸のタイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、**Y 軸値**リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。**Y 軸のスケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、**X 軸のスケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **X 軸のスケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、**Y 軸のスケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に **Y 軸のスケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、**ズームアウト時の軸の非表示**を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、**X 軸目盛りラベルの非表示**を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- インジケータの矢印を非表示にするには、**矢印の非表示**をクリックします。
- **行グループ化**リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

ベクトルプロットを作成するには、1つの変数(ポイントラベル)と5つのメジャー(範囲値、X軸開始値、X軸終了値、Y軸開始値、Y軸終了値)を指定する必要があります。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

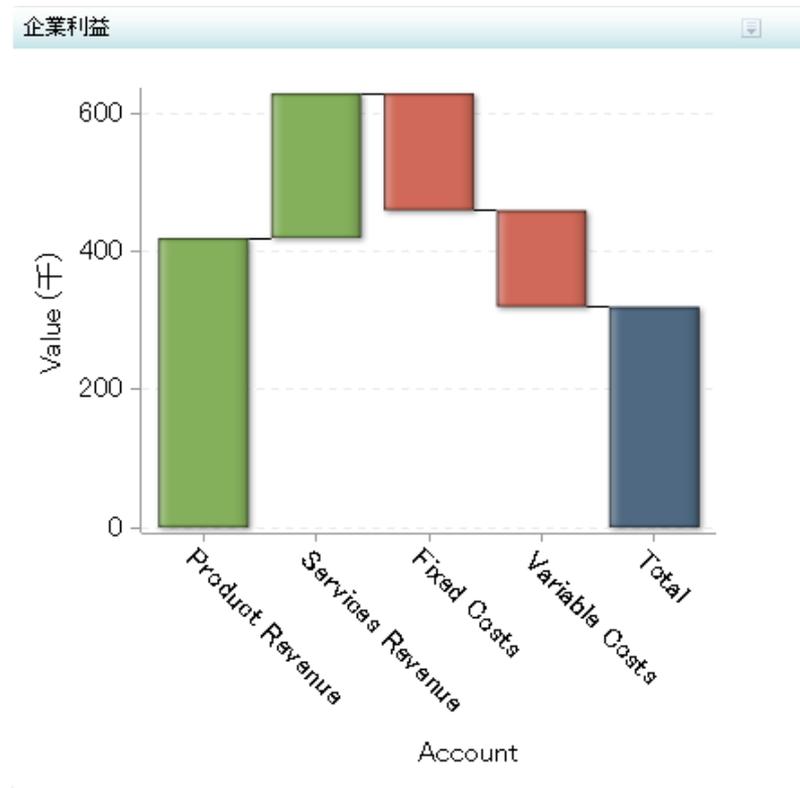
Product Category (ポイントラベル)	Sales (November) (X軸開始値)	Sales (December) (X軸終了値)	Profit (November) (Y軸開始値)	Profit (December) (Y軸終了値)	Sales per Change (範囲値)
Running — Jogging	\$49,444	\$42,698	56.32%	54.27%	-13.64%
Swim Sports	\$19,901	\$50,056	58.70%	60.56%	151.53%
Winter Sports	\$127,347	\$397,544	56.73%	59.59%	212.17%

ウォーターフォールチャート

定義

ウォーターフォールチャートは、最終値に到達する正と負の値のシーケンスを表したものです。このチャートは、進捗バーともいいます。

図 A1.28 ウォーターフォールチャートインジケータの例



このインジケータの作成に使用されるインジケータデータのサンプルについては、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

使い方の情報

最適なデータ	<p>ウォーターフォールチャートは、アカウントデータまたは収益データを表すときに最も頻繁に使用されます。初期値が中間値によってどのように増加または減少したかを表示します。ウォーターフォールチャートは、開始値と終了値だけでなく、値がどのように増加または減少したかに関する詳細を表示するときに使用します。</p> <p>ウォーターフォールチャートは、次のシナリオに適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時系列でキャッシュフローを表す(期首残高と期末残高を含む) 財務データ
適さないデータ	<p>ウォーターフォールチャートは、次のシナリオには使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終結果のみが重要な項目である場合 ポイントインタイムデータを表示する場合
ターゲットの利用者	<p>ほとんどのユーザーはこのインジケータの種類に慣れていません。利用者が確実に解釈方法を知っている、または利用者に解釈方法を指示する場合を除いて、このインジケータの種類を使用することはお勧めしません。</p>
データ集計サポート	<p>このインジケータの種類では、該当するインジケータデータが平均化されます。</p>

範囲サポート	範囲は必須です。
アラートサポート	アラートはサポートされません。詳細については、13 章、“アラートのカスタマイズ” (119 ページ)を参照してください。
リンクサポート	このインジケータの種類は、リンクの定義か、リンク先として使用できません。ハイパーリンクを含むインジケータの定義の詳細については、“インジケータやその他のコンテンツへのリンクの追加” (111 ページ)を参照してください。
相互作用サポート	<ul style="list-style-type: none"> データフィルタサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 対話型ハイライトサポート: このインジケータの種類は、ソースインジケータまたはターゲットインジケータとして使用できます。 <p>詳細については、“インジケータ間の相互作用の追加” (104 ページ)を参照してください。</p>

全般設定

全般設定セクションでは、次のタスクをサポートする制御が提供されます。

- “インジケータの高さと幅の指定” (75 ページ)
- “インジケータの種類の変更” (76 ページ)
- “使用するインジケータデータの変更” (77 ページ)
- “使用する範囲の変更” (77 ページ)
- “グラフスタイルの指定” (76 ページ)
- “並べ替え順序の指定” (77 ページ)

表示設定

前述の図では、次の表示設定が使用されます。詳細については、このインジケータの“サンプルデータ構造”を参照してください。

表示設定	図に使用された選択内容
範囲値	Color
X 軸値	Account
差異	Value
X 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Account に設定)
Y 軸のタイトル	<blank> (デフォルトの Value に設定) 注: Y 軸のスケール設定によりラベル (千) がタイトルに追加されます。
X 軸のスケール	この設定が選択されます。
Y 軸のスケール	この設定が選択されます。

このインジケータでは次の表示設定をカスタマイズできます。

- (必須) **範囲値**リストから、定義した範囲の間隔を適用する値を選択します。
- (必須) **X 軸値**リストから、インジケータの X 軸値に使用するデータ列を選択します。インジケータデータを表示した場合、データセットの列は、**列名**列の値で表されます。X 軸値リストでは、**列名**列のすべての値を選択できます。
- (必須) **差異**リストから、各棒に使用する値を選択します。ウォーターフォールチャートインジケータでは、この値は前方の棒に対する終了値のオフセット値になります。
- **X 軸タイトル**フィールドに、インジケータの X 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、X 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。X 軸の**スケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- **Y 軸のタイトル**フィールドに、インジケータの Y 軸に使用するタイトルを入力します。タイトルを指定しない場合、Y 軸値リストから選択した値がデフォルトで使用されます。タイトルが不要な場合、フィールドにスペースを入力します。Y 軸の**スケール**を選択すると、単位ラベルがタイトルに追加されます。
- X 軸をスケールするには、X 軸の**スケール**を選択します。選択した場合、データが数値であれば、X 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、X 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に X 軸の**スケール**を選択すると、X 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- Y 軸をスケールするには、Y 軸の**スケール**を選択します。選択すると、データが数値の場合は、Y 軸のタイトルに単位ラベルが追加されます。たとえば、Y 軸のタイトルが**収益**に設定されている場合に Y 軸の**スケール**を選択すると、Y 軸のタイトルは**収益 (百万)**と表示されます。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸を非表示にするには、**ズームアウト時の軸の非表示**を選択します。軸は、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- ユーザーがインジケータの表示をズームアウトする際に軸目盛りラベルを非表示にするには、**X 軸目盛りラベルの非表示**を選択します。軸目盛りラベルは、ユーザーがズームインすると再表示されます。この設定は、ビューのズームアウト時に見やすくする場合に選択します。
- **行グループ化**リストから、データ行のグループ化に使用する値を選択します。行をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **列グループ化**リストから、データ列のグループ化に使用する値を選択します。列をグループ化しない場合、**(なし)**を選択します。
- **軸の出力形式 (差異)**リストから、差異軸のデータに適用する出力形式を選択します。
- **X 軸の出力形式**リストから、X 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。
- **Y 軸の出力形式**リストから、Y 軸のデータに適用する出力形式を選択します。出力形式を指定しない場合、**(なし)**を選択します。**(なし)**を設定した場合、インジケータはデータソースで使用される出力形式を使用します。

サンプルデータ構造

ウォーターフォールチャートを作成するには、少なくとも範囲値、X 軸値、差異の 3 つのデータ列を指定する必要があります。

注: Order 列は、X 軸値の順序を管理するために含まれます。Order 列は、この例のインジケータの**並べ替え基準**フィールドにて選択されています。詳細については、“**並べ替え順序の指定**”(77 ページ)を参照してください。

次のデータサンプルが、前述の図と関連付けられています。各列ヘッダーの下に関連付けられた表示設定が表示されます。

Account (X 軸値)	Value (差異)	Color (範囲値)	Order
Product Revenue	420,000	1	1
Services Revenue	210,000	1	2
Fixed Costs	-170,000	-1	3
Variable Costs	-140,000	-1	4
Total	-320,000	0	5

注: インジケータソースデータには、オブザベーションとして合計列が含まれます。ただし、このオブザベーションはウォーターフォールチャートでは使用されません。合計は、データを X 軸から開始するために除外されます。ウォーターフォールチャートで合計は自動的に提供されないため、この回避策を使用する必要があります。

付録 2

データを集計するインジケータの種類

SAS BI Dashboard の一部のインジケータの種類は、データを集計します。次の図に、これらのインジケータの種類と、使用される集計の種類(合計または平均)を示します。

インジケータの種類	データ集計方法
棒グラフ(ピュレット)	平均
参照線付き棒グラフ	平均
集合棒グラフ	合計
対話型要約と棒グラフ	平均 ¹
対話型要約とターゲット棒グラフ	平均 ¹
円グラフ	合計
棒グラフ	合計
スパークテーブル	データ集計のためにスパークテーブルインジケータを構成し、スパークテーブルの列ごとに使用する集計の種類を選択できます。“ スパークテーブル ” (218 ページ)を参照してください。
積み上げ棒グラフ	合計
ターゲット棒グラフ	平均
タイルチャート	平均
ウォーターフォールチャート	平均

¹ 詳細棒グラフでは常にデータが平均化されます。ただし、インジケータの要約グラフのデータ要約時に使用する集計方法を選択できます。デフォルトでは**合計**が選択されます。

付録 3

Information Map の有効な日付出力形式

日付を指定する際は、次の出力形式を使用します。

出力形式	例
DAY	<i>August 04, 2010</i> 、 <i>Aug 04, 2010</i> 、 <i>04AUG2010</i> などの値を渡すことができます。他の出力形式は使用できません。 ²
WEEK	<i>Week 31 2010</i> などの値を渡すことができます。 ³
MONTH	<i>Jan 2009</i> などの値を渡すことができます。他の出力形式は使用できません。 ³
QUARTER	<i>3rd quarter 2010</i> などの値を渡すことができます。 ³
YEAR	<i>2010</i> などの値を渡すことができます。

² 日付の適切な出力形式を確実に使用するには、プロンプトで DATE9 または MMDDYY10 の出力形式を使用する方法が最も簡単です。

³ このような値を作成できる SAS 出力形式はありません。カスタムデータセットを作成または SQL を使用して、適切な出力形式を使用してデータ列を作成する必要があります。次に、このデータ列を、相互作用またはリンクのソースとして渡します。

用語集

Information Map

データソースのユーザーフレンドリなビューを提供するデータ項目とフィルタのコレクション。ビジネスのために Information Map を使用してデータをクエリする場合、そのデータソースの構造の理解やクエリ言語でのプログラミング法の取得は必要ありません。

Key Performance Indicator

指定された目標に向かって組織が前進しているかどうかを示す指標。略語: KPI

KPI

Key Performance Indicator を参照

SAS Stored Process

サーバーに保存され、メタデータに定義され、クライアントアプリケーションによって実行可能な SAS プログラム。略語: Stored Process。

SAS 出力形式

SAS 言語要素の一種。データ値を出力として表示または書き出すために、パターンを適用する、または命令を実行します。出力形式の種類は、数値、文字、日付、時間、タイムスタンプのデータの種類に対応します。ユーザー定義の出力形式を作成する機能もサポートされています。SAS 出力形式の例として、BINARY、DATE があります。略語: 出力形式。

SAS データセット

コンテンツの形式が、いずれかのネイティブ SAS ファイル形式であるファイル。SAS データセットには、SAS データファイル、SAS データビューの 2 つの種類があります。SAS データセットには、データと関連付けられているディスクリプタ情報に加え、データ値が含まれています。SAS データビューには、ディスクリプタ情報以外に、データ値を他の SAS データセットやコンテンツが他のソフトウェアベンダのファイル形式のファイルから取得するために必要な情報のみが含まれます。

SLI

インジケータを参照

Stored Process

SAS Stored Process を参照

Uniform Resource Locator

URL を参照

URL

Web ブラウザまたは他のソフトウェアアプリケーションが、インターネットまたはイントラネット上のリソースにアクセスまたは識別する際に使用される文字列。リソースには、Web ページ、電子イメージファイル、オーディオファイル、JavaServer ページなどの電子オブジェクトがあります。完全な形式の URL には、リソースへのアクセスに使用する通信プロトコル、リソースのディレクトリパスとファイル名が含まれます。略語: URL。

アラート

受信者への関心のある電子イベントの自動通知。

アラートポートレット

ユーザーに発行されたアラートメッセージを表示するポートレット。

インジケータ

数値として表される、評価中の目標業績を表現したもの。

円グラフ

中心から円周に向かう直線でスライスに分割された円グラフ。各スライスは、全体に対する各要素の相対比率を示します。

キャッシュ

最近アクセスしたデータを保持する、小規模な高速メモリ領域。キャッシュは、同じデータへの後続アクセスを高速化するために使用されます。

サービスレベルインジケータ

インジケータを参照

参照線

プロット変数の値が特定値より小さい、大きい、または等しいかどうかを示すプロットの縦線。

集計

合計、平均、最小、最大など、統計量によってデータをグループ化するプロセス。

出力形式

SAS 出力形式を参照

信頼

関連性分析では、関連性の強さのメジャー。ルール A --> B の場合、信頼はイベント A の発生後にイベント B が発生する回数のパーセントになります。

タイルチャート

ツリーマップを参照

ダッシュボード

Web サイトアクティビティの KPI (Key Performance Indicator) の傾向が一目でわかるレポート。ダッシュボードでは、特定の日の KPI が 30 日間の平均値、最小値、最大値と比較されます。

ツリーマップ

長方形の領域を使用してデータの相対値を表すグラフ。各領域の色は、クエリのある 1 つのメジャーの値を表します。各領域のサイズは、クエリのもう 1 つのメジャーの値を表します。(SAS/GRAPH では、ツリーマップは GTILE プロシジャで作成されます。)

データセット

SAS データセットを参照

ニードルプロット

横方向の基準線に伸びる縦線でデータポイントを結ぶプロット。基準線は、縦軸の 0 値または最小値と交わります。

範囲

データ値を収集または区別するために下限と上限が異なるように定義された間隔。範囲は組み合わされて、範囲セットを形成します。

凡例

グラフのグラフィック要素の目に見えるキー。凡例は、値、値の説明、ラベル、フレームから構成されます。

フィルタ

データに適用され、継続処理などの後続操作に対してそのデータのサブセットを示すための指定条件。

プロキシサーバー

クライアントにとってはサーバー、サーバーにとってはクライアントに相当するエージェントとして機能する、特別な種類の Web サーバー。通常、プロキシは、他のサーバーへのアクセスが遅いまたは高価な場合に、それらの他のサーバーで使用できる項目のキャッシュとして使用されます。

棒グラフ

1 つのグリッドと複数の縦または横の列(棒)で構成されるグラフ。各列は量的データを表します。

予測

時系列に対する将来値の数値的な予測。

レイアウト

子コンポーネントの配置とサイズをレイアウトする長方形のコンテナの総称。

ログ

ログファイルを参照

ログファイル

ソフトウェア処理に関する情報がその処理発生時に記録されるファイル。ログファイルには通常、エラーメッセージと警告メッセージが含まれますが、処理されたレコード数、プログラムに要した CPU 時間などの情報メッセージや統計量も含まれます。

キーワード

A

Adobe Flash 8, 35

B

BI Dashboard 管理者 41, 55, 71

G

GIF 86

I

Information Map

参照項目: [SAS Information Map](#)

J

JPG 86

K

Key Performance Indicator

参照項目: [KPI](#)

KPI 187

インジケータデータ 56

ゲージ 64, 70

ゲージのカスタマイズ 78

ゲージの選択 78

ダイナミックゲージ 70

ダッシュボードレイアウト 92

KPI サブタイプ

参照項目: [ゲージの種類](#)

KPI テーブルインジケータ

参照項目: [スパークテーブルインジケータ](#)

M

Microsoft Internet Explorer 8

Mozilla Firefox 8

O

OLAP Information Map

データガイドライン 58

P

PNG 86

R

Range Map インジケータ 202

S

SAS BI Dashboard ビューア

参照項目: [ダッシュボードビューア](#)

SAS Enterprise Guide 87

SAS Information Delivery Portal

アラートポートレット 24

概要 33

ダッシュボードポートレットの追加 35

ページの作成 34

リンク 111

ログオフ 41

ログオン 34

SAS Information Map

OLAP 58, 61

インジケータデータ 55

効率的なデータのデザイン 57

データ集計 58

データソースの定義 60

リンク 111

SAS Information Map Studio 61

SAS Stored Process

インジケータデータ 55

インジケータデータ用に作成 59

カスタムグラフ例 86

データソースの定義 62

リンク 111

SAS Time Series Forecasting 167, 171,

176, 182

- SAS Web Report Studio レポート, リンク先 111
- SAS データセット
 - 参照項目: テーブル
- SAS フォルダツリー 49, 52
- SQL クエリ
 - インジケータデータ 55
 - データガイドライン 58
 - データソースの定義 61
- Stored Process
 - 参照項目: SAS Stored Process

- W**
- Websphere ポータル 33
- Web アドレス
 - ダッシュボードデザイナ 45
 - ダッシュボードビューア 18
 - リンク 111
- Web サイト
 - Adobe Bug and Issue Management System 9
 - JAWS を利用した Adobe Flex アプリケーションの使用 9
 - SAS カスタマサポート 8
 - Web ブラウザサポート 8

- あ**
- アイコン 48
- アクセス
 - ダッシュボードデザイナ 45
 - ダッシュボードビューア 18, 47, 49
 - ダッシュボードポートレット 33
 - ヘルプ 7
- 値データ列 66
- 値による配置レイアウト 96
- アラート
 - 参照項目: 個人用インジケータアラート
 - 参照項目: 他のユーザーのアラート
- アラートトリガ
 - 参照項目: トリガ(定義)
- アローゲージ 188
- イナミック温度計ゲージ 188
- イメージ
 - 関連項目: 静的なコンテンツ
 - 静的なコンテンツ 98
 - プロキシ 98
 - リンク 99
 - 例 100
- イメージファイルの種類 86
- 印刷
 - ダッシュボードビューア 24
 - ダッシュボードポートレット 40
 - ビューアサポート 15
- インジケータ 73
 - アラートへの影響 26, 121
 - インジケータデータの変更 77
 - インジケータの識別 97
 - インジケータの種類の変更 76
 - インターフェイス 20
 - グラフィスタイル 76
 - ゲージの選択 78
 - サイズ変更 47, 48, 95
 - 作成 74
 - ズーム 23, 40, 98, 115
 - タイトルバー 97, 98
 - 対話型 148, 162, 165, 170, 175, 182
 - 高さ 75
 - ダッシュボードからの削除 94
 - ダッシュボードでの位置指定 48, 97
 - ダッシュボードでのサイズ変更 47, 48, 97
 - ダッシュボードビューアからの印刷 24
 - ダッシュボードビューアで開く 21
 - ダッシュボードポートレットからの印刷 40
 - 他のユーザーのアラート 78
 - ツール 21, 98
 - テスト 127
 - 並べ替え順序 77
 - 配置 47, 48, 95
 - 幅 75
 - 範囲の変更 77
 - 表示設定 77
 - ファイルの検索 97
 - フォント 96
 - プロパティ 50, 75, 97
 - プロパティの表示 97
 - 編集 89, 94
 - 保存 88
 - リンク 98, 111
 - リンクの追加 111
 - リンクの定義 78
- インジケータアラート
 - 参照項目: 個人用インジケータアラート
- インジケータデータ 55
 - Information Map データソースの定義 60
 - SQL クエリデータソースの定義 61
 - Stored Process データソースの定義 62
 - アラートへの影響 25, 121
 - ガイドライン 56
 - 作成 59
 - サポートされる種類 55
 - 相互作用 110
 - データ集計 57
 - データフロー 56
 - テーブルデータソースの定義 62
 - 編集 65, 94
- インジケータの種類

- KPI (Key Performance Indicator) 107, 108, 187
 - Range Map 202
 - アラートサポート 25, 120
 - ウォーターフォールチャート 236
 - 円グラフ 199
 - 折れ線グラフ(2本線) 158
 - カスタムグラフ 154
 - 参照線付き折れ線グラフ 193
 - 参照線付き棒グラフ 141
 - 散布図 208
 - 散布ヒストグラム 205
 - 集合棒グラフ 151
 - スケジュールチャート 212
 - スパークテーブル 107, 218
 - スライド表示のチャート 108, 112, 116, 148
 - ターゲット棒グラフ 226
 - ダイナミックテキスト 107, 108, 112, 165
 - ダイナミックプロンプト 108, 112, 162
 - タイルチャート 229
 - 対話型要約と散布図 107, 108, 112, 116, 175
 - 対話型要約とターゲット棒グラフ 107, 108, 112, 116, 182
 - 対話型要約と棒グラフ 107, 108, 112, 116, 170
 - 対話形式にデータをハイライト 108
 - 積み上げ棒グラフ 223
 - データ集計 25, 120, 241
 - データフィルタリングサポート 107
 - ニードルプロット 196
 - バブルプロット 145
 - 範囲サポート 67
 - ベクトルプロット 232
 - 棒グラフ 215
 - 棒グラフ(ビュレット) 138
 - 予測グラフ 167
 - リンクサポート 112
 - インターフェイス
 - ダッシュボードデザイン 46
 - ダッシュボードビューア 18
 - ダッシュボードポートレット 38
 - 上下反転 79
 - ウォーターフォールチャートインジケータ 236
 - データ集計 241
 - 円グラフインジケータ 199
 - データ集計 241
 - お気に入り
 - 管理 31
 - ビューアサポート 15
 - オブジェクト
 - 参照項目: [インジケータ](#)
 - 参照項目: [静的なコンテンツ](#)
 - オブジェクトペイン 47, 49
 - 折れ線グラフ(2本線)インジケータ 158
- か**
- 拡大
 - 参照項目: [ズーム](#)
 - カスタムグラフインジケータ 154
 - 例 86
 - カテゴリラベルのデータ列 65
 - ガントチャート
 - 参照項目: [スケジュールチャートインジケータ](#)
 - 管理者
 - 参照項目: [BI Dashboard 管理者](#)
 - 管理者グループ, BI Dashboard 管理者 41
 - 既定のビュー
 - ダッシュボードビューア 22
 - ダッシュボードポートレット 40
 - ビューアサポート 15
 - クライアント側のフィルタリング
 - 参照項目: [ローカルシステムのデータのフィルタリング](#)
 - グラフと傾向インジケータ
 - 参照項目: [スパークテーブルインジケータ](#)
 - グリッド 95
 - ゲージ
 - カスタマイズ 78
 - サイズ変更 79
 - スパークテーブル 85
 - 選択 78
 - ゲージの種類 93, 188
 - ゴースト 80
 - 合計 241
 - 個人用インジケータアラート 24
 - 許可 125
 - 計算への影響 25
 - ダッシュボードビューアでの管理 26
 - データ集計とアラート 25
 - 定義 24
 - トリガプロセス 24
 - ビューアサポート 15
 - コメント
 - ダッシュボードビューアでの管理 29
 - 添付ファイル 30
 - ビューアサポート 15
 - コメントの添付ファイル 30
 - コンテンツ
 - ダッシュボードビューアでの更新 23
 - ポートレットの更新 39, 40
- さ**
- サーバー側のフィルタリング

- 参照項目: リモートサーバーのデータのフィルタリング
- 最新の情報に更新
 - アイコン 49
 - 自動 23, 40
 - 手動 23
 - ダッシュボードビューア 23
 - ダッシュボードポートレット 39, 40
 - ビューアサポート 15
 - メニュー 20, 47
- サイズ変更
 - インジケータ 47, 48, 95
 - 静的なコンテンツ 47, 48, 95
- 作成
 - Stored Process 59
 - アラート 26, 121
 - インジケータ 74
 - インジケータデータ 59
 - ダッシュボード 93
 - 範囲 69
- 左右反転 79
- 参照線付き折れ線グラフインジケータ 193
- 参照線付き棒グラフインジケータ 141
 - データ集計 241
- 散布図インジケータ 208
- 散布ヒストグラムインジケータ 205
- 自動更新
 - ダッシュボードビューア 23
 - ダッシュボードポートレット 40
 - ビューアサポート 15
- 集計
 - 参照項目: データ集計
- 集合棒グラフインジケータ 151
 - データ集計 241
- 手動更新
 - ダッシュボードビューア 23
 - ダッシュボードポートレット 39
 - ビューアサポート 15
- シリンダゲージ 188
- 進捗バー
 - 参照項目: ウォーターフォールチャートインジケータ
- ズーム
 - インジケータ 21
 - インジケータでサポート 115
 - ダッシュボードビューア 23
 - ダッシュボードへの影響 115
 - ダッシュボードポートレット 40
 - デザイナの設定 115
 - ビューアサポート 15
 - フォントへの影響 96
 - 無効化 116
 - 有効化 116
- スケジュールチャートインジケータ 212
- ストップライトゲージ 188
- スパークテーブルインジケータ 218
 - データ集計 241
 - ユーザー定義の色のサポート 70
 - 例 81
- スライダゲージ 188
- スライダ表示のチャートインジケータ 148
- 静的なコンテンツ 99
 - イメージの指定 98
 - サイズ変更 47, 48, 95
 - ズーム 98, 115
 - セクション 49
 - ダッシュボードでの位置指定 48, 97
 - ダッシュボードでのサイズ変更 47, 48, 97
 - 配置 47, 48, 95
 - フォント 98
 - プロパティ 50, 97
 - プロパティの表示 97
 - ラベルテキスト 97
 - リンク 98, 99, 111
 - リンクの追加 111
 - 例 99, 100
- 静的なコンテンツセクション 49
- 静的なラベル
 - 参照項目: 静的なコンテンツ
- 製品の利点 4
- セクション
 - 静的なコンテンツ 49, 99
 - ライブラリ 49
 - レイアウトテンプレート 49, 100
- 前提条件 53
- 相互作用 104
 - アイコン 49
 - インジケータデータ 110
 - ガイドライン 109
 - 種類 104
 - 設定 110
 - テスト 111
 - パラメータのマッピング 109
 - 表示 96, 111
 - 複数選択 104, 108
 - メニュー 47
- 相互作用機能
 - インジケータ間の相互作用 104
 - インジケータからのリンク 111
 - ズーム 115
 - 静的なコンテンツからのリンク 111
 - 対話型スライダ表示のインジケータ 116
- た
 - ターゲット棒グラフインジケータ 226
 - データ集計 241
 - ダイアルゲージ 188
 - タイトルバー 97, 98

- ダイナミックゲージ 188
- ダイナミックスピードメータゲージ 188
- ダイナミックテキストインジケータ 165
- ダイナミックビュレットバーゲージ 188
- ダイナミックプロンプトインジケータ 162
 - ズームサポート 115
- タイルチャートインジケータ 229
 - データ集計 241
- 対話型インジケータ 148, 162, 165, 170, 175, 182
- 対話型データハイライト
 - 参照項目: 対話形式にデータをハイライト
- 対話型要約と散布図インジケータ 175
 - サイズ制限 76
- 対話型要約とターゲット棒グラフインジケータ 182
 - サイズ制限 76
 - データ集計 241
- 対話型要約と棒グラフインジケータ 170
 - サイズ制限 76
 - データ集計 241
- 対話形式にデータをハイライト 104
 - インジケータでサポート 108
 - 例 105
- タコメータゲージ 188
- ダッシュボード
 - 値による配置レイアウト 96
 - 新しい名前で作成 102
 - インジケータからのリンクの追加 98
 - インジケータデータの編集 94
 - インジケータの位置指定 48, 97
 - インジケータのサイズ変更 47, 48, 97
 - インジケータの削除 94
 - インジケータの編集 94
 - オブジェクトの削除 94
 - 考慮事項 92
 - コンポーネント 51
 - サイズ変更 47, 48, 95
 - 作成 93
 - 作成時のオブジェクトのサイズ変更 95
 - 作成時のオブジェクトの配置 95
 - ズーム 98
 - 寸法の設定 39
 - 静的なイメージ 98
 - 静的なコンテンツからのリンクの追加 98
 - 静的なコンテンツの位置指定 48, 97
 - 静的なコンテンツのサイズ変更 47, 48, 97
 - 相互作用 47, 49, 96
 - 高さ 96
 - ダッシュボードビューアからの印刷 24
 - ダッシュボードビューアで開く 21
 - ダッシュボードポートレットからの印刷 40
- 縦レイアウト 96
 - 定義 51, 92
 - デザイン 53
 - デザイン前 53
 - テスト 127
 - 配置 47, 48, 95
 - 幅 96
 - 範囲の編集 94
 - フォント 96, 98
 - プレビュー 47, 49
 - プロパティ 50, 96
 - 編集 101
 - 保存 48
 - 元に戻す 95
 - やり直し 95
- 横レイアウト 96
 - リンク 111
- レイアウトコンテンツ 100
- ダッシュボードデザイン
 - インターフェイス 46
 - オブジェクトペイン 49
 - 機能 47
 - ダッシュボードとインジケータのテスト 127
 - ダッシュボードビューアからのアクセス 32, 45
 - ダッシュボードポートレットからのアクセス 41
 - 他のユーザーのアラート 119
- ダッシュボードの管理 20, 45, 128
- ダッシュボードのデザイン 53
- ダッシュボードのプレビュー 47, 49, 127
- ダッシュボードビューア
 - アクセス 18, 47
 - 印刷 24
 - インターフェイス 18
 - お気に入り 31
 - 既定のビュー 22
 - 機能 18
 - 機能サポート 15
 - コメント 29
 - コンテンツの更新 23
 - ズーム 23
 - ダッシュボードデザインへのアクセス 32
 - ダッシュボードとインジケータのテスト 128
 - ダッシュボードポートレットからのアクセス 41
 - ダッシュボードまたはインジケータを開く 21
 - ナビゲーションコントロール 22
- ダッシュボードポートレット
 - アクセス 33
 - 印刷 40
 - インターフェイス 38

- 既定のビュー 40
 - 機能サポート 15
 - 自動更新 40
 - 手動更新 39
 - ズーム 40
 - 寸法の設定 39
 - タイムアウト値 41
 - ダッシュボードデザインに変更 41
 - ダッシュボードとインジケータのテスト 128
 - ダッシュボードの選択 37
 - ダッシュボードビューアの変更 41
 - ポータルページへの追加 35
 - ポートレットタイトルの変更 41
 - ログオフ 41
 - 縦レイアウト 96
 - 他のユーザーのアラート
 - インジケータ 78
 - 概要 121
 - 計算への影響 121
 - 削除 125
 - 作成 121
 - ダッシュボードデザイン 119
 - データ集計とアラート 120
 - 定義 119
 - トリガプロセス 120
 - 編集 125
 - ユーザーとユーザーグループの追加 124
 - ツールバー
 - インジケータ 21
 - ダッシュボードデザイン 46
 - ダッシュボードポートレット 39
 - 積み上げ棒グラフインジケータ 223
 - データ集計 241
 - ツリー 49
 - ツリーマップインジケータ
 - 参照項目: タイルチャートインジケータ
 - データ集計
 - アラートへの影響 25, 120
 - インジケータデータソース 57
 - サポートするインジケータの種類 241
 - データソース
 - Information Map 60
 - SQL クエリ 61
 - Stored Process 62
 - テーブル 62
 - データフィルタリング
 - リモートサーバー 107
 - ローカルシステム 107
 - データブラッシング
 - 参照項目: 対話形式にデータをハイライト
 - データモデル
 - 参照項目: インジケータデータ
 - データ列
 - 値 66
 - カテゴリラベル 65
 - ハイパーリンク 66
 - ラベルのオーバーライド 65
 - 列名 65
 - テーブル
 - インジケータデータ 55
 - データソースの定義 62
 - テスト
 - ダッシュボードデザイン 127
 - ダッシュボードビューア 128
 - ダッシュボードポートレット 128
 - プレビュー 47, 49
 - 電子メールアラート 24, 123
 - テンプレート
 - 参照項目: レイアウト
 - ドキュメント 7
 - トリガ(定義) 24, 119
- な**
- ナビゲーションコントロール
 - ダッシュボードビューア 22
 - ビューアサポート 15
 - 平均 241
 - ニードルプロットインジケータ 196
- は**
- 配置
 - インジケータ 47, 48, 95
 - 静的なコンテンツ 47, 48, 95
 - ハイパーリンクのデータ列 66
 - パフォーマンス 99
 - バブルプロットインジケータ 145
 - パラメータ 109, 114
 - 範囲 67
 - アラートへの影響 25, 121
 - 作成 69
 - サポートするインジケータの種類 67
 - 編集 71, 94
 - 範囲値 2 81
 - ビューア
 - 参照項目: ダッシュボードビューア
 - 参照項目: ダッシュボードポートレット
 - ビュレットゲージ 188
 - 表示設定(定義) 73
 - ファイル
 - インジケータファイルの検索 97
 - 名前 52
 - フォルダ 49, 52
 - フォント 96, 98, 112
 - 複数選択 104, 108
 - ブックマーク
 - 参照項目: お気に入り
 - プロキシ 98

- プロパティ
 - インジケータ 50, 97
 - 静的なコンテンツ 50, 97
 - ダッシュボード 50, 96
 - ペイン 50
- ベクトルプロットインジケータ 232
- ヘルプ 7
- 変更を元に戻す 47, 48, 95
- 変更をやり直し 47, 48, 95
- 編集
 - インジケータ 89
 - インジケータデータ 65
 - ダッシュボード 101
 - 他のユーザーのアラート 125
 - 範囲 71
- ポータル
 - 参照項目: SAS Information Delivery Portal
- ポータルページ
 - 参照項目: SAS Information Delivery Portal
- ポートレット
 - 参照項目: ダッシュボードポートレット
- ポインタゲージ 188
- 棒グラフ(ビュレット)インジケータ 138
 - データ集計 241
- 棒グラフインジケータ 215
 - データ集計 241
- 保存
 - インジケータ 88
 - ダッシュボード 48, 102
- ボタンゲージ 188

- ま
- メニュー
 - ダッシュボードデザイナー 46, 47
 - ダッシュボードビューア 20

- よ
- ユーザー 3
- ユーザーインターフェイス
 - 参照項目: インターフェイス
- ユーザーとユーザーグループ, 追加 124
- ユーザー補助 8
- 要件
 - Adobe Flash 8
 - Web ブラウザ 8

- 横レイアウト 96
- 予測 167, 171, 176, 182
- 予測グラフィックインジケータ 167

- ら
- ライブラリセクション 49
- ラベル
 - 参照項目: 静的なコンテンツ
- ラベルテキスト 97
- ラベルのオーバーライドのデータ列 65
- リモートサーバーのデータのフィルタリング 104, 107
- リンク
 - サポートされるリンク先の種類 111
 - サポートするインジケータの種類 112
 - 静的なコンテンツ 99
 - 静的なコンテンツから 111
 - 設定 112
 - テスト 114
 - パラメータを渡す 114
- 例
 - カスタムグラフ 86
 - コンタクトリスト 100
 - スパークテーブル 81
 - メニューの追加 99
- レイアウト
 - ガイド 47, 95
 - 縦 100
 - テンプレート 49, 92, 100
 - 横 100
 - レイアウト(縦)テンプレート 100
 - レイアウト(横)テンプレート 100
 - レイアウトテンプレートセクション 49
 - 列名のデータ列 65
 - ローカルシステムのデータのフィルタリング 104, 107
- ログオフ
 - ダッシュボードデザイナー 46
 - ダッシュボードポートレット 41
- ログオン
 - ダッシュボードデザイナー 45
 - ダッシュボードビューア 18
 - ダッシュボードポートレット 34

- わ
- ワークスペース 47, 50

